

又此議長ノ権理ハ往時ニ在リテハ全ク専裁ニ係リシモ今日ニ在リテ
植民地憲法ノ制限ヲ受ク村會ハ真正ノ村廳ニシテ大抵本國邑行政
權ノ職務ヲ施行ス

八十五「カンピエール」及「シクロン」ノ邑制ハ千八百七十二年六月十五
日ノ布告ヲ以テ之ヲ規定シ普通選舉ヲ以テ邑行政權ヲ組織スル基礎
ト為セリ「カンピエール」及「シクロン」ハ共ニ邑會ヲ開設シ而シテ其職
務ハ全ク本國邑會ノ職務ニ同シキナリ

第六章 植民地ノ裁判管轄

第一節 裁判所ノ組織

八十六「マルチニック」ギアドル「ポ」及「ユニオン」ノ三植民地ニ設置ス
ル裁判所ノ組織ハ二個ノ編制布令ヲ以テ全ク本國ノ制度ニ倣ハシメ
タリ即チ「ユニオン」嶋ニ在リテハ千八百二十七年九月三十日ノ編制
布令ヲ以テ「マルチニック」嶋及「ギアドル」嶋ニ在リテハ千八百二
十八年九月二十九日ノ編制布令ヲ以テシテ共ニ其定制ヲ立テタリ又
西編制布令ノ二三制規ハ白哲人種ノ遺孽ニ係ル土人タル法官ニ對シ
テ特別ノ制限及ヒ規約ヲ設クル有リシニ千八百二十九年十月十日及
ヒ千八百三十年四月十一日ノ二布令ヲ以テ之ヲ廢銷セリ又以西編制
布令ニ據シハ三植民地ニ在リテハ治安裁判所、違警罪裁判所、始審裁判
所、控訴裁判所及ビ重罪裁判所各其管轄事件ノ裁判ヲ宣告ス又千八百
五十四年八月十六日ノ布告ヲ以テ此各裁判所ノ組織ニ關シテ頗ル重
要ナル改正ヲ加フル有リ余ハ今下文ノ各項ニ於テ此改正ヲ經タル組
織ノ梗概ヲ約説シ以テ各制令ノ結合ニ生スル重要ナル体制ノ要領ヲ
提示セシ

今次ニ各植民地ノ裁判所ヲ組織シタル各制令ヲ擧ケシ

「ユニオン」ニ在リテハ千八百二十七年九月三十日ノ布令ヲ以テシ
「マルチニク」及ヒ「ギユアドル」ニ在リテハ千八百二十八年九月二十
四日ノ布令ヲ以テシ「ギユイアン」ニ在リテハ千八百五十四年八月十
六日ノ布告~~改~~布告ノ制規ハ之ヲ上文ノ三植民地ニ適施セリヲ以テ
「セチガル」ニ在リテハ千八百五十四年八月九日ノ布告ヲ以テシ「サ
シロエール」及ヒ「ミクロ」ニ在リテハ千八百三十三年七月二十六日
ノ布令ヲ以テシ「メーモ」ト及ヒ「サントマリ」ニ在リテハ千八百四十
七年八月二十六日ノ布令~~改~~布令ハ千八百五十二年一月三十日及ヒ
千八百六十年二月二十二日ノ二布告ヲ以テ改正ヲ加ヘタリヲ以テ
「ヌーウェルカレドニ」ニ在リテハ千八百六十二年十月十七日ノ布
達ヲ以テシ佛領「ユシヤン」ニ在リテハ千八百六十四年七月二十
五日ノ布告ヲ以テシテ共ニ其各裁判所ノ組織ヲ規定シタリ

〔八十七〕三植民地ノ治安裁判所ノ管轄権限ハ千八百三十八年五月二十
五日ノ法律ニ照準シテ以テ之ヲ規定セリ然レ氏訴訟金額五百「フラン」
ニ達スルマテハ終審ヲ以テシ五百「フラン」ニ超ユル片ハ始審ヲ以テシ
テ此法律第一條ニ準テスル訴訟事件ヲ裁判シ且ツ二百五十「フラン」ニ
達スルマテハ終審ヲ以テシテ此法律第二條、第三條、第四條及ヒ第五條
ニ準テスル訴訟事件ヲ裁判ス又治安裁判所ニ於テ己ニ本植民地ニ施
行セル刑法及ヒ治罪法ニ掲テスル違警罪ノ裁判ヲ管轄スルハ恰モ違
警罪裁判所ノ如シ本植民地ニ施ス違警罪ノ刑罰~~即チ~~違警罪裁判所ノ
施ス「ヲ」得可ク及ヒ大守ノ布達ヲ以テ設クル「ヲ」得可キ刑罰ハ十五
日以内ノ禁獄一~~百~~「フラン」以下ノ罰金ヲ科加スル「ヲ」得ルニ止マル是
レ即チ刑法ト治罪法トノ結合制規ニ生スル成果ト爲ス

〔八十八〕始審裁判所ハ所長及ヒ二人若クハ三人~~以~~定員ハ其裁判所ヲ設

置スル土地ノ人口ニ應ズル者トスノ裁判官一人ノ換事官及ヒ一人若
クハ二人ノ代補換事官ヲ以テ之ヲ編成ス此始審裁判所ハ治安裁判
ノ民事及ヒ商事ニ関シ始審ヲ以テ宣告シタル裁判ニ對シ提起スル控
訴ヲ管轄ス又始審裁判所ハ始審若リハ終審ヲ以テシテ訴訟金額二千
フランニ達シ利息金額若リハ不動産貸借貸金額二百フランニ達スル
マテハ民事及ヒ商事ノ訴訟ヲ裁判ス若シ此制限金額ニ超ユルハ関
係者ハ其裁判ニ對シテ控訴スルコトヲ得可シ
又々輕罪ニ関シテハ始審ヲ以テシテ各種ノ輕罪事件其他治安裁判官
ノ施刑管轄ニ屬セサル法律違背ノ事件ヲ管轄ス此等ノ裁判法式ハ全
ク本國輕罪裁判所ノ裁判法式ニ異ナルヲ思ヒ

〔八十九〕始審裁判所ハ此他始審ヲ以テシテ違警罪裁判所ノ裁判ニ對ス
ル控訴ヲ裁判シ外國通商法律及ヒ關稅法律并ニ關稅法律ニ違及スル
輕罪事件ヲ管轄ス又若シ再定契約事件ノ訴訟ニ係ルハ千八百三十八
年四月十一日ノ法律第二條ニ照準シテ之ヲ裁判スルコトヲ要ス又始審
裁判所ハ訴訟法第一編第九章ノ本國裁判會議ニ委任スル職務ヲ執行
ス又本國政府ノ布告ヲ以テ一人ノ裁判官ヲ選定シ之ヲシテ豫審裁判
官ノ職務ヲ執行セシメ其任期ヲ三年ニ限定ス

〔九十〕控訴裁判所ハ「ア」ニテハ一人ノ所長七人ノ裁判官ヲ以
テシ「エ」ニテハ一人ノ所長六人ノ裁判官ヲ以テシテ之ヲ
編成ス此控訴裁判所ハ第一ニ始審裁判所ノ民事裁判ニ對スル控訴第
二ニ始審裁判所ノ始審ヲ以テシテ宣告シタル輕罪事件ノ裁判ニ對ス
ル控訴ヲ裁判ス此各控訴裁判所ニハ一人ノ換事官及ヒ二人ノ代補換
事官ノ附屬スル有リ

〔九十二〕重罪事件ハ重罪裁判所之ヲ裁判ス此重罪裁判所ハ控訴裁判所

裁判官三人及ヒ陪審裁判官四人ヲ以テ之ヲ編成ス以陪審裁判官ハ指
定種族中ニ選取スル三十人ノ種族名簿ニ就キ抽籤ヲ以テ之ヲ指定ス
九十二千八百二十七年九月三十日及ヒ十八百二十八年九月二十四日
ノ裁判管轄編制布令ニ據ルニ陪審裁判官ハ重罪裁判所裁判官ト共ニ
五項ノ事目ニ関シテ其裁判ヲ宣告ス

一 罪件ノ地位

一 告訴ノ罪件

一 刑罰ノ擬施

九十三 上文ノ定則ハ「マルチニツク」ギ「アドル」ポ「レ」ユニ「オ」ニ「反」ヒ「ギ」イ「ア」
ニ「マ」ノ「四」植民地ニ通施ス千八百五十四年八月二十一日ノ布告ヲ以テ
「ギ」イ「ア」ニ「マ」ニ特施スル一制規ヲ設クル有リ其制規ニ據ルハ暴行ヲ加
ヘス若クハ徒刑ノ刑罰ヲ受ク可キ情由ノ存セサル竊盜犯ハ輕罪裁判

所ニ於テ之ヲ裁判シ且ツ之ヲ輕罪ノ刑罰ニ處断スル者ト為セリ

九十四 「セ」子「ガ」ルニ在リテハ陪審裁判所違警罪裁判所控訴裁判所及ヒ
重罪裁判所ノ設ケ有リ而シテ之ヲ「サ」ニル「イ」ト「ゴ」レ「ト」ニ配置ス
又千八百五十七年五月二十日ノ布告ヲ以テ「サ」ニル「イ」ト「ゴ」レ「ト」ニ回教裁判
所ヲ設置セリ以回教裁判所ハ一人ノ回教裁判官一人ノ陪審裁判官及
ヒ一人ノ書記員ヲ以テ之ヲ編成ス回教裁判所ノ職掌ハ專ラ土人ニ係
ル訴訟事件ヲ裁判スルトニ任ス凡ソ回教裁判所ノ裁判ヲ仰ク訴訟事
件ハ回教ノ法律及ヒ其慣習訴訟法ニ準依シテ之ヲ投申シ且之ヲ裁
判ス又其裁判ニ對スル控訴ハ太守ノ會長タル裁判會議ニ於テ之ヲ裁
判ス以定則タル即千回回教法律ノ規定スル所ナリ

九十五 佛領印土植民地ニ「~~■~~」リテハ「~~■~~」チセリ「~~■~~」カリカル及ヒ「~~■~~」ヤンデ
ル「~~■~~」ゴ「~~■~~」ルノ三所ニ設置スル治安裁判所ニ於テ訴訟事件ヲ裁判ス又

始審裁判所ノ設ケ有リテ民事商事及ヒ輕罪犯ヲ^管轄ス又ヤナオニ及
 ヒ「マエ」ニ在リテハ各其植民地長官兼テ裁判官ノ職掌ヲ執行シ始審
 若クハ終審ヲ以テシテ凡ソ治安裁判官及ヒ始審裁判官ノ管轄スル許
 訟事件ヲ裁判ス又「ボンデマリ」ニ控訴裁判所ヲ設置ス換事官ハ各種
 ノ公務人ノ管長ニシテ專テ司法部ノ事務ヲ指揮スル「ト」ニ任ス又凡ソ
 民事若クハ刑事ノ裁判ニ對シテハ本國ノ破毀裁判所ニ上告スル「ト」ヲ
 得セシム但夕違警罪及ヒ輕罪ノ裁判ニ對シテハ上告ヲ為ス「ト」ヲ^許
 ス
 「九十六」カニ「ピエール」及ヒ「シクロン」ニ在リテハ二所ノ治安裁判所一所
 ノ始審裁判所及ヒ一所ノ控訴裁判所ニ於テ各其管轄許訟事件ヲ裁判
 ス
 「メーユ」ト及ヒ「ノミベ」ニ在リテハ第一ニ裁判會議ノ設ケ有リ是レ七
 人ノ議官ヲ以テ編成シ「オセア」ニ海海軍司令官其會長ニ任ス此裁判會
 議ノ職務ハ抗命犯タル重罪及ヒ公安擾乱豫謀犯タル重罪ヲ裁判ス第
 二ニ此ニ植民地共ニ始審裁判所ノ設ケ有リ是レ唯ク一人ノ裁判官ヲ
 置ク「シ」此始審裁判所ハ終審ヲ以テシテ許訟本金額一千「ト」ニ達
 スルマテハ民事及ヒ商事ノ許訟事件ヲ裁判シ此制限金額ニ超ル許訟
 事件ニ關シテハ始審ヲ以テシテ之ヲ裁判ス此始審ノ裁判ニ對シテハ
 「レ」ユニオニノ控訴裁判所ニ控訴スル「ト」ヲ得セシム又始審裁判所^或
 ハ輕罪裁判所ト為リ或ハ違警罪裁判所ト為リテ以テ輕罪ヲ裁判シ或
 ハ違警罪ヲ裁判ス而シテ其裁判ノ一年以外ノ禁錮若クハ一千「ト」ニ
 以上ノ罰金ヲ宣告スル場合ニ在リテハ亦以テ「レ」ユニオニノ控訴裁判
 所ニ控訴スル「ト」ヲ得セシム
 「九十七」馬達加爾嶼内ノ「サントマリ」嶼ニ在リテハ本植民地司令官ノ

商事及ヒ民事ノ訴訟事件ヲ裁判スルヤ「メーモ」及「ハミバー」始審
裁判官ト同一ノ職權ヲ有ス唯其管轄權ヲ訴訟本金額五百「フラン」以内
ノ訴訟事件ニ限ルノ差異有ル「メ」若シ夫シ刑事ノ告訴ニ至リテハ「シ
ユニオン」在任換事官ノ委任ヲ受ケタル法官之ヲ裁判ス

「九十八」オセア「海」領植民地ニ在リテハ治安裁判所始審商事民事裁
判所控訴裁判所輕罪裁判所控訴裁判所重罪裁判所各一所ヲ設置
之共ニ其管轄事件ヲ裁判ス

歐人ト土人トノ間ニ起生スル兩屬訴訟事件ヲ裁判スル場合ニ在リテ
ハ一人ノ土人タル裁判官ヲミテ一人ノ歐人タル裁判官ニ代ラシムル
ソ裁判上ノ職掌ハ本植民地ノ各事務部ニ擇取スル士官ヲミテ之ヲ執
行セシメ而シテ其裁判ハ保護權ヲ有スル本國國長ノ名義ヲ以テ之ヲ
宣告ス

十八百五十五年ニ當リ本土ノ法律ヲ以テ「タイチ」法典ヲ改定シ而シ
テ郡裁判所控訴裁判所及ヒ高等裁判所ヲ組織セリ此高等裁判所ハ之
ヲ「パペーチ」ニ建置シ毎年三四ノ會期ニ於テ之ヲ開キ以テ
所ト同一ノ職務ヲ執行ス

凡ソ死刑ニ處ス可キ重罪犯ハ「タイチ」女王ト佛蘭西政府代理官ノ連
署スル布令ヲ發シテ以テ之ヲ高等裁判所ノ審斷ニ付ス又即裁判所ノ
裁判官ハ郡民之ヲ公選シ而シテ太守之ヲ認可シ控訴裁判所及ヒ高等
裁判所ノ裁判官ハ「タイチ」女王ト佛蘭西政府代理官トノ連署スル布
令ヲ發シテ以テ之ヲ任命ス

「タイチ」ノ法律ニ於テハ離婚ヲ許ス然レ氏佛蘭西ノ法律ヲ遵奉スル
ニ非サレハ則チ「タイチ」人ト佛蘭西人トノ結婚スル「メ」ヲ許サズ凡ソ
妻ノ身位ハ終テ夫ノ分限ニ依ラシム

九十九 千八百五十八年十二月一日、布告ニ據ルハ各植民地ニ設置スル控訴裁判所裁判官及ヒ始審裁判所裁判官ノ其職務ヲ執行スルニハ全ク本國ノ司法者ト分離シテ各其本植民地ノ裁判事務ニ任スル間ハ海軍兼植民地事務者ノ管轄ニ屬ス

然リトモ各植民地在任裁判官ニ對シテ懲罰ノ措置ヲ施ス場合ニ當リテハ海軍兼植民地事務者ト司法者卿ト協議スルヲ要ス但ク各植民地司法事務部ノ組織ニ関スル編制布令ニ於テ大守控訴裁判所々長及ヒ其他ノ各裁判所々長ニ付共ニシタル権理ヲ害スルヲ得ス

百 各植民地裁判所ノ裁判官ヲ任命スルニハ海軍兼植民地事務者司法省兩卿ノ協同推薦ニ應ジ國長其布告ヲ發下ス

百二 凡ク民事輕罪違警罪ニ関スル法制及ヒ裁判所ノ組織ニ関スル法制ニ改正ヲ加フルニモ亦千八百五十四年ノ元老院議定法律第三條

第六條及ヒ第十八條ニ規定セル制限内ニ於テ海軍兼植民地事務者司法省兩卿ノ其改正法案ヲ協議スルヲ要ス

百三 檢事官若クハ司法事務局長ハ毎月ヲ期シテ各其本植民地ノ司法部事務ノ顛末及ヒ法律ノ施行ノ是況ニ関スル報告書ヲ海軍兼植民地事務者及ヒ司法者ニ送致ス

百四 本國裁判管轄ノ組織ニ関スル原則ニ對シテ特例ヲ設ケ以テ各植民地大守ニ充分ノ作用權ヲ付與スルヲ為メニ其各植民地裁判所ノ裁判官ヲ終身任職ノ者ト為サハリシ

百五 各植民地ノ代書人ノ代官人ト目シテ始審裁判所及ヒ控訴裁判所ニ辯護スルハ是レ成規ノ許ス所ナリ(千八百三十一年ニ)

百五 共和曆第十一年(ウァントー)ニ二十五日ノ法律ヲ以テ各植民地ニ公証人ヲ設置スル制規ヲ立テ爾後地方布達ヲ以テ之ヲ改正セリ

〔百六〕陸軍裁判管轄 陸軍刑法ハ千八百五十八年六月四日ノ元老院議定法律ヲ以テ之ヲ「アンキル」ニユニオンノニ植民地ニ頒布シ以テ其海軍軍隊ニ施行セシメ又同年同月二十一日ノ布告ヲ以テ更ニ「ギン」又「セ子ガル」^ゴ「シ」^ル佛領印土植民地及ヒ「オセア」^ニ海佛領植民地ニ頒布シ以テ之ヲ施行セシメタリ

第二節 徒刑植民地

本項ノ説述ニ関シテハ徒刑植民地ノ款目ヲ參觀スル「」ヲ要ス

第七章 植民地ノ宗教教育及ヒ濟血

第一節 宗教

〔百七〕各植民地ノ宗教事務部ノ職員ヲ任命スルハ教務者^師ノ職權ニ屬ス然レ氏上僧官ヲ任命スルニハ海軍兼植民地事務者^師ノ意見ヲ聽ク「」ヲ要ス又各植民地ニ於テ僧官及ヒ宗教ノ用ニ供スル建造物ヲ築キ

或ハ宗儀ノ執行ニ関スル規則ヲ施ス場合ニ在リテモ亦均ク海軍兼植民地事務者ノ干涉ヲ待タサル可カラス
〔百八〕千八百五十年十二月十八日ノ布告ヲ以テ「マル」^チ「ニ」^ツ「ギ」^ア「ドル」

「」及ヒ「レ」^ユ「ニ」^オ「ン」ノ三植民地ニ僧正ノ住院ヲ建設シタリ此三宗教中區ハ本國ポルド「」大僧正ノ管轄ニ屬シ而シテ其組織ハ千八百五十一年二月三日ノ布告ヲ以テ本國ニ施行スル法律及ヒ加持力教會法律ニ準依シテ之ヲ規定セリ

凡ソ宗教中區ノ事務ハ大寺ト管轄僧正ト商議シテ之ヲ處理スル「」ヲ要ス又僧正ハ^内局會議ニ参班スル權理ヲ固有シ^内局^會議ノ宗教若クハ教育ノ事務ヲ議スル場合ニ在リテハ必ス之ニ参班ス又僧正ハ海軍兼植民地事務者^師ト直接ニ通信照會ヲ為スト虽モ地方行政官ノ干涉ヲ待ツ可キ事件ニ係ルハ其通信照會文書ノ謄本ヲ大守ニ呈出セサル

可カラス

〔百九〕此地ノ各植民地ニ在リテハ宗務管長ヲ置キテ其宗務ヲ管理セシムル宗務管長ヲ任命スルニハ管轄政廳特ニ羅馬政府ノ認諾ヲ取ルヲ要ス其職任ヲ解免スルモ亦タ然リ

〔百十〕波羅底坦教ト猶太教トヲ問ハス信徒ノ人数ノ衆■ナルニ非サシハ則チ其宗教管轄區域ヲ植民地ニ設置スルニ固ヨリ論ヲ待タサレナリ

第二節 教育

〔百十一〕主要ナル各植民地ニ在リテハ教育ノ事務ハ奉テテ之ヲ一人ノ教育監督^官ト一体ノ中央教育委員トノ指揮ニ委ヌル中央教育監督官ハ文務省卿之ヲ任命シ其中央教育委員ハ控訴裁判所所長特務監督官僧正若クハ宗務管長^{海軍大臣官長}本植民地ノ首地タル邑ノ邑長及ヒ大守ノ任命スル若干

ノ委員ヲ以テ之ヲ編成ス又各邑ニハ特設教育委員有^リ是レ中央諮問調査會ト直接ニ通信照會ニ中央諮問調査會ハ教育關係ノ考察ヲ決定スル^トニ任ス

〔百十二〕九ツ各植民地ニ於テ學校ニ入り學業ヲ修メ試験ニ及第ヤル生徒ニ對シテハ學力証狀ヲ授與スル學力証狀ハ假ニ文學生証狀若リハ科學生証狀ニ代用スル効カヲ有ス又中學校及ヒ藝術工技學校并ニ勲族貴族々學校ニ於テハ若干人ノ請願者ヲ限リテ學俸ヲ給與ス

〔百十三〕今日ニ至ルマテ各植民地ノ教育ハ專ラ之ヲ僧侶ニ委付セリ然レ氏亦タ幾許カ常人ノ管掌スル學校ノ存スルニ無キニハ非サルナリ

第三節 濟恤

〔百十四〕マルチニクニハ二十七所ノ救濟局ノ存スル有リ千八百五十六年五月二十七日ノ布達ヲ以テ救濟局ノ收入支出ニ關スル事務ヲ收稅

員ニ委託セリ但夕民用貧院ノ設ケ有ル地方ニ在リテハ民用貧院管理
會議ニ於テ兼テ救済局ヲ管理ス

又千八百六十二年九月十二日ノ布達ヲ以テ各植民地ノ首地ニ上等済
恤監視會議ヲ設置セリ是レ控訴裁判所所長、僧正代辯官、植民地收稅官、
海軍醫官長、民會議員二人及ヒ頭名俾民二人ヲ以テ編成スル者トス
又少サユ場ノ設ケ有リ是レ「リリニ」名地社團ノ婦女之ヲ管理ス

百十五「ギアドル」プニ在リテハ千八百三十六年九月六日ノ地方布達
ヲ以テ救済局ヲ設置シ併セテ其組織方法ヲ規定セリ管理委員ハ毎年
本局ノ収入支出ノ豫算ヲ立テ而シテ其実施セル救済事業ノ結果ヲ報
告ス又邑會計法ノ定則ヲ救済局ニ施行セリ此植民地ニ在リテハ見ニ
其三十二邑ニ救済局ヲ設置ス

百十六「レユニオン」ニ在リテハ千八百六十年ニ於テ既ニ公費救助方法ヲ
組織セル有リ其後奴隸制度ヲ廢止シタルヨリ千八百四十八年ニ至リ
テ俄カニ公費救助ノ要用ヲ増加シ為メニ其全土ヲ四區域ニ分畫シ而
シテ各區域ニ貧民救助所ヲ建設セリ爾來千八百五十六年ニ至リテ其
四區域ノ貧民救助所ヲ廢閉シテ之ヲ「サント」ニノ中央救済局ニ併合
ス此中央救済局ハ邑長ニ委託シテ之ヲ管理セシム又癩老救助院ヲ建
設シ本植民地ノ公費ヲ以テ之ヲ補助ス此他僧侶、各己人及ヒ同業結社
ノ拮据シテ建設セル私立慈濟會社ノ在ル有リ是レ以テ本植民地ノ済
恤方法ヲ完備セシムル者ト謂フ可シ

百十七又宗務管長ノ管理スル一種ノ慈濟局有リ其事業ハ「ゲ」ニ又
貧民ニ救助金ヲ分配スルニ存ス又「カ」リアリ地ノ「マ」ナ「上」ニ
癩病院ヲ建設シ「ゴ」ー「ゼ」フ各社團ノ婦女之ヲ管理ス

百十八佛領印土植民地ニ在リテハ救助事務委員ノ設ケ有リテ貧民名

簿ヲ録製シ及ヒ救助金ヲ保管シ且之ヲ分配スルノ任ヲ此救助事務
委員ハ「カンヂセリ」ニ在リテハ七人ヲ以テ編成シ「ジャンデルナゴール」
「カリカ」ニ在リテハ各五人ヲ以テ編成シ「マエ」「ヤナオン」ニ在リテハ
各三人ヲ以テ編成ス又千八百二十五年ヨリ以降「カンヂセリ」ニ公立
典鋪ヲ建設シ本植民地歳出豫算ノ額内ニ取リテ十萬「フラン」ノ資本金
ヲ給典シタリ

百十九 各植民地ニ於テハ大抵貧病院ヲ建設シ而シテ地方規則ヲ以テ
之ヲ管制ス

第八章 植民地ノ財務制度

百二十 植民地ニ施行スル財務制度ノ根拠タル原則ヲ約言スルハ本國
政府ノ義務ヲ以テ軍務及ヒ普通行政事務ノ經費ヲ負擔シ而シテ純然
タル地方ノ經費ノ之ヲ植民地ニ負擔セシムルニ在リ此財務分離ノ
制度ハ千八百五十四年五月三日ノ元老議定法律第十六条ヲ以テ立定
セル者ニシテ千八百五十五年九月二十六日ノ植民地財制布告ヲ以テ
其節目ヲ規定セリ

百二十二 此千八百五十五年九月二十六日ノ布告ニ據ルハ左項ニ奉示
スル収入支出ノ事項ヲ本國政府ノ歳入出豫算ニ編入シ而シテ植民地
事務ト掲題シテ以テ之ヲ區別セル有リ

収入部

第一 千八百五十四年五月三日ノ元老院議定法律第十五条ニ照準
シテ植民地ヨリ本國國庫ニ納致ス可キ分當金額

第二 佛領印土公債利息及ヒ佛領「コシヤン」ニヨリ本國國庫ニ納
致ス可キ收入金額

第三 國有ニ屬スル物件ヲ賣却セシ價直金額

第四 文官年俸金庫ニ貯積スル為メニ文官ノ俸給ヲ扣削スル金額
其他本國政府ニ納致スル為メニ植民地ニ課徴スル税金

支出部

第一 軍務ノ經費〔職員ノ俸給、材料ノ費用〕

第二 政廳、普通行政、司法事務部、宗教事務部、教育事務部、海港、工作ノ
經費及ヒ各事務部ノ附屬職員ノ俸給并ニ公益事務ノ費用

第三 植民地ノ地方經費ノ補助

第四 此他本國ノ直接ニ利益ヲ繋ル事業ノ經費

百二十二 上文ニ奉示スル支出部經費ヲ除キ其他ノ經費ハ總テ植民地
ノ負擔ニ歸セシメ而シテ植民地ニ於テハ左項ニ掲クル収入ヲ以テ之
ニ支充ス

第一 輸入税及ヒ輸出税

第二 入港税

第三 貨物寄託庫税

第四 輸出税ヲ課セサル植物ノ耕種地ノ賦税

第五 家屋税

第六 分頭動産税

第七 營業税

第八 公簿証記税、印紙税及ヒ抵當税

第九 河川航漕税

第十 製造税、燒酎販賣税、書信郵便税及ヒ國有財産収益税

第十一 阿片税〔佛鏡、コシヤンシン区〕
此等ノ税目ヲ奉示スト虽其取テ制限ヲ立ルニ非ズ其他千八百五十五
年ノ布告ニ掲記セサルモノハ法律ニ照シテ賦課スル租税ハ皆是レ也

税目ニ加テ可キ者トス

百二十三 植民地ノ經費ハ或ハ義務ヲ以テ之ヲ支出シ或ハ隨意ヲ以テ之ヲ支出ス今次ニ千八百六十六年ノ元老院議定法律ニ掲クル義務支出ノ費目ヲ挙示セン

第一 公債ノ償還

第二 國長ノ布告ヲ以テ最少額ヲ指定セル内務局ノ附屬職員ノ俸給及ヒ供用物料ノ費用

第三 司法事務部及ヒ宗教事務部ノ供用物料ノ費用

第四 政廳若クハ司令廳ニ充用スル屋舎ノ賃借金及ヒ装置動産物件ノ購買保存ノ費用

第五 政廳書記局懲戒工廠及ヒ監獄署ノ附屬職員ノ俸給并ニ供用物料ノ費用

第六 教育事務部普通警察事務部ノ附屬職員ノ俸給并ニ供用物料ノ費用ヲ分擔スル金額及ヒ失心者、慈救兒童ノ収養費用ヲ分擔スル金額

第七 出稼人ノ雇使期限既ニ満過セシ者ヲ其本国ニ送還スル費用

第八 地方事務部ノ歳入出豫算書歳入出決算書ノ印刷費及ヒ毎年ニ改正スル住民身分表ノ印刷費

第九 植民地ノ負擔ニ屬セシムルヲ得可キ經費ノ分當金

其他千八百六十六年ノ元老院議定法律第一款ニ於テ豫メ指定ス可カラサル各種ノ費目ヲ掲載セル有リ而シテ其最少額ノ制限ハ管轄省地方事務ニ係ル經費ニシテ上文ニ挙示スル費目中ニ入ラサル者ハ即チ是レ隨意支出ニ屬スル者ト看做シマルナニツクギアドルノ及ヒシ

ユニオンニ在テハ其民會ヲシテ之ヲ議定セシム

百二十四「ア」ニナル及ヒ「レ」ユニオンニ在テハ凡ソ地方公債ノ償還ニ必
要ナル資金ヲ得ル為メニ施ス方法ハ民會ニ於テ之ヲ議定ス然リト虽
氏其議定スル豫算書及ヒ地方税額則ハ大守ノ認可ヲ取ルニ非カシハ
則テ施行ノ効力ヲ生セス而シテ大守ハ其職權ヲ以テ民會ノ議定セサ
ル義務支出ノ經費ヲ加ヘ或ハ隨意支出ノ經費ヲ減シ或ハ過重ノ課税
若クハ本植民地ノ公益ニ及ムル課税ヲ禁シ或ハ適應ノ資金ヲ造設シ
テ義務支出ノ經費ヲ支辨セシムルヲ得可シ

百二十五佛領印土植民地ニ在テハ其植民議會ノ權限ニ於テ他ノ植民
地ノ民會ガ議定スル財務上ノ事件ヲ議定ス余ノ^レニ上文ニ説述セシ
如ク凡ソ公選ノ議會ヲ設置セサル植民地ニ在テハ其内局會議若クハ
行政會議ニ於テ他ノ植民地ノ民會ニ屬スル財務上ノ職掌ヲ施行スハ

百五十五年九月二十六
日ノ布告第百六十年

佛領「ユニオン」ニマ、財務制度ハ十八百六十三年一月十日ノ布告ヲ以
テ之ヲ規定セリ此布告ニ據シハ凡ソ陸海軍事務部ノ經費ヲ除キ其他
行政、司法、宗教、教育等ノ各事務部ノ經費ハ總テ之ヲ本植民地ノ負擔ニ
屬セシメタリ

百二十六凡ソ植民地ニ於テ殊ニ急務ニ係リ且ツ効益ノ繁ル共同工作
ヲ舉行スル場合ニ在テハ特別豫算ヲ立ルルヲ得可シ此種ノ共同工作
ニ要スル經費ハ特別課税ヲ徴シ或ハ準備金ニ取リ或ハ公債ヲ起シテ
以テ之ニ支充ス此特別課税ヲ聴許シ及ヒ認可スル法式ハ^ハ通常課
税ヲ聴許シ及ヒ認可スル法式ノコトリス然リト虽氏其公債ヲ起スニ
至テハ國長ノ參議院ノ議決ヲ經タル布告ヲ發シテ以テ之ヲ認可スル
ヲ要ス

〔百二十七〕凡ソ租税ニ得ル所ノ資金額ノ以テ地方經費金額ニ超過ス
ル植民地ノ如キ之ヲシテ本國ノ國庫ニ幾許ノ金額ヲ納致セシムル
ヲ得可シ此ノ如キ地這ニ在ル者ハ唯僅カニ佛領印土植民地及ヒ佛領
「ゴマニ」ニ又、ニ植民地有ルノミ然リ而シテ本國國庫ノ以佛領「ゴマ
ニ」ニ又ニ得ル收入ノ如キハ東京ノ植民地ヲ建タルヨリ以降或ハ大
ビニ之ヲ減シ或ハ全ク之ヲ得サルニ至レリ此他ノ植民地ニ在テハ若
シ收入ノ以テ支出ニ超過スル有ルヤ其餘贏金ハ之ヲ本植民地ノ準備
金庫ニ蓄積ス千八百五十五年ノ歲計布告第九十八條ハ準備金ノ最多
額ヲ限定シ以テ各植民地ヲシテ不虞ノ事變ニ應スル豫備ノ資金ヲ
蓄積セシメタリ

之ニ及シテ地方税ニ得ル所ノ資金額ノ以テ地方經費金額ヲ支辨ス
ルニ足ラサル植民地ニ在テハ常ニ本國政府ノ補助ヲ受ク

植民地ニ於テ出納及ヒ收税ノ事務ニ任スル會計職員ハ別ニ之ヲ設置
セス本國政府ノ會計職員ヲシテ其事務ヲ兼任セシム此會計職員ハ海
軍兼植民地事務省卿ノ請求ニ應ジ財務省卿之ヲ指令ス又此會計職員
ニハ本國ノ會計職務ニ繋カリ且ツ植民地ノ會計職務ニ繋カルニ種ノ
俸給ヲ交付シ且ツ本人及ヒ其家人ニ對シテハ各般ノ通過税ヲ免除ス

第十一章 商業及農農業

第一節 商業制度、入港税及海關税

百二十八千六百七十四年。至ルマテハ凡ソ植民地ノ商業ハ其商業ヲ
 掌為スル特權ノ讓與ヲ得タル會社ノ專有ニ屬セリ蓋シ當時本國ノ政
 府ハ植民地ノ需用物品ヲ供備スル權理ヲ割留シ因テ以テ尋常商賣ノ
 貨物ヲ植民地ニ輸入シ若クハ此ヨリ輸出スルヲ禁止シ西部印度商
 會ヲ解廢セシ以後モ亦仍ホ此禁令ヲ維持シタリ千六百九十八年ニ至
 リ參議院ノ布達ヲ廢シテ以テアソキル群島製産ノ砂糖ヲ佛蘭西國ノ
 船舶ニ搭載シテ之ニ外國ニ輸送スルヲ許セリト雖氏未タ幾ク
 ナラマシテ又此輸出ヲ禁シタルノミナラス凡ソ外國製産ノ貨物ヲ植
 民地ニ輸入シ若クハ植民地製産ノ貨物ヲ外國ニ輸送スル有レハ從來
 ノ規例ニ照シテ其貨物ハ之ヲ没入シ其犯者ハ之ヲ墮役ノ刑罰ニ處
 斷セシメタリ此輸入輸出ノ二商業ヲ兼併シテ政府ノ專有ニ屬スル制
 度ハ千七百六十二年ニ至ルマテ依然存立シ是年始メテ二布令ヲ發シ
 アソキル群島ニ或種ノ食料品及ヒ建築用ノ材料ヲ貿易スル市場ヲ開
 カレシメ且ツ糖水及ヒ^茶酒酒精ヲ直接ニ外國ニ輸送スルヲ許セリ千
 七百八十九年ノ革命ヲ經ルニ迄ヒテモ此商業制度ヲ續行シ獨リ本國
 ノ規章ヲ樹ツル船舶ノミニ對シ我カ植民地ニ於テ貿易ヲ經營スルノ
 權理ヲ付與シタリ凡ソ外國製産ノ貨物ハ佛蘭西國ノ船舶若クハ其製
 産邦國ノ船舶ニ搭載スルニ非^ズサルハ之ヲ我カ植民地ニ輸入スル
 ヲ許サヌ千八百二十六年ヲ以テ佛國政府トノ間ニ締訂セル通商條
 約ノ追加條款ニ據レハ或種ノ場合ヲ指定シ英國ノ船舶ヲ佛國ノ船舶
 ト同一ニ待遇ス可キヲ約定シタリ之ヲ要スルニ千八百六十一年
 ニ至ルマテハ外國貿易場ニ在リテハ糖水ト^茶酒酒精ト^除キ此他ノ

植民地製産物品ヲ賣買スルヲ禁シ而シテ内地貿易場ニ在リテハ專ラ
植民地製産ノ貨物ヲ賣買シ而シテ獨リ他國ノ船舶ノニ此ニ貿易スル
ヲ得タリ

千八百六十一年ノ法律ヲ以テ此商業制度ヲ全廢シ併セテ植民地盟約
ヲ解破セリ此ヨリ以後ハ我カ「アンチル」ノ植民地ハ何レノ他國ノ護章
ヲ樹ツル船舶ヲ用フルヲ問ハス外國製産ノ貨物ヲ内地ニ輸入シ若ク
ハ内地製産ノ貨物ヲ外國ニ輸出スルヲ得タリ蓋シ自由貿易ノ原則
乃チ同套ノ保護制度ニ勝リ制シタルナリ然レモ此ノ如キ植民地ニ商
業ノ自由ヲ與ヘタルヨリシテ本國ノ政府ハ全ク之ニ對スル商業保
護ノ義務ヲ棄却セリ

百二十九)各植民地ニ開設セル民會ハ各千八百六十六年ノ元老院議
定法律第二條ノ之ニ付與シタル権理ヲ行用シテ以テ關稅ノ制ヲ議

水

シタリ是ニ於テ「マルチニツク」ノ關稅規則ハ千八百六十七年十一月
六日ノ(布告)特別行政規則ヲ以テシ「ユニオン」ノ關稅規則ハ千八百六
十八年四月四日ノ布告(同上)ヲ以テシ「ギョアドル」ノ關稅規則ハ同
年同月二十五日ノ布告(同上)ヲ以テシテ之ヲ公認セリ

「マルチニツク」ノ關稅規則ニ依レハ凡ソ外國ヨリ輸入スル商品ニ向
テハ全ク關稅ヲ賦課セズ

「ユニオン」ノ關稅規則ニ依レハ舊制ノ關稅額則ヲ改定シテ少シク課
稅ノ數額ヲ增加セリ是レ内地製産ノ物品ヲ保護スル目的ニ出ツルニ
非ズニテ蓋シ當時商業ノ變動ニ因リテ資本ノ缺乏ヲ告グル有ルガ爲

メニ之ヲ増殖センヲ謀レルナリ

「ギョアドル」ノ關稅規則ニ依レハ砂糖、糖、酒精、咖啡、綿花、烟草、カカ
オ、植、物、油、ク、リ、同、及、ヒ、ウ、ア、ニ、ル、同、ヲ、除キ、此、他、外、國、ヨ、リ、輸、入、ス、ル、貨、物、ニ

ハ全ク開税ヲ賦課ス

(百三十一)「エニオン」ノ民會ニ於テ採用シタル開税規則ハ、毫モ非難ヲ容ルヘキ者ナシ然レモ「カンチル」ノ開税規則ニ至リテハ、議者ノ駁撃ヲ招キタリ蓋シ俄蘭西本國ノ商業社會ノ家説ニ謂ヘラク彼ノ千八百六十六年、元老院議定法律ハ、現行開税規則ヲ改正スルヲ許セリト雖モ未タ曾テ之ヲ全廢シテ毫モ開税ヲ賦課セサルノ權理ヲ植民地ニ付與スル有ラズト此解釋ハ、誤謬ニ屬スルヲ免レズ蓋シ千八百九十四年ノ元老院議定法律(第一條第二項)能ク植民地ノ開税定則ヲ左右スルハ、必ズ法律ヲ以テセシメタルモ千八百六十六年ノ元老院議定法律ハ、此事シ特別行政規則ニ委付シタルハナリ論者又謂ヒク、佛國政府ハ、植民地ノ保護及ヒ行政ニ寧ムル經費ヲ支辨スルガ故ニ、亦植民地ニ對シテ外國製產物品ノ無税輸入ヲ禁遏セザル可カラズト然レモ及對論者ハ、實

際本國ニ賄ル所ノ例証ヲ摘示シテ以テ之ニ答フル有リ乃チ^由外國製產ノ砂糖ハ、內國製產ノ砂糖ト同一規約ヲ以テ之ヲ本國ニ輸入スルヲ許スニ非マヤト

抑モ千八百六十六年ノ元老院議定法律ハ、何等ノ目的ヲ存セシカ蓋シ植民地ノ此時ニ至ルマテ負擔セザリシ所ノ責任ヲ之ニ負擔セシメ以テ漸ク之ニ自立自治ヲ圖ルニ馴致シ且ツ歲々繼々テ本國政府ノ補助ヲ廢罷ヤント欲スルニ外ナニス若シ同時ノ制度ヲ以テセハ、植民地ト外國トノ交際ヲ牽掣シ加之ナラズ其財政及ヒ商業ノ諸事ヲ決定スル權理ヲ之ニ視奪シタルニ因リ百年ヲ待ツモ変ヒテ此目的ヲ遂成シ得ヤル可キナリ

(百三十二)植民地ノ入港税額則ニ至リテハ、其民會ノ全權ヲ以テ之ヲ規定スルヲ得可シ然レモ一方ニ在リテハ、立憲憲法ノ制規ニ遵ヒ以テ入

港税ヲシラ邑税ノ性質ヲ失ハシムルヲナク而シテ其供用ヲ變換スル
ヲ得マ又一方ニ在リテハ入港税ノ賦課ヲ以テ植民地製産ノ物品ヲ保
護スルノ方畧ト為スヲ得ス抑モ入港税ハ是レ邑産ノ收入ヲ増加ス
ル為メニ賦課スル者クルヲ知ラサル可カラズ
若シ夫レ入港税ノ賦課法及ヒ其期滿得免ノ定則ニ關シテハ植民地民
會ハ唯ク議決ノ權カシ有スルニ止マルノニ故ニ若シ當時尙ホ未タ入
港税ヲ賦課セサル物件ニ對シテ斯稅ヲ賦課スル日ハ則チ其議決ハ太
守ノ假認ノ布達ヲ發シ國長ノ確認ノ布告ヲ發シテ之ヲ認可スルニ非
サレハ施行ノ効カラ生セズ
入港税ハ嘗テ本國政府ノ之ヲ設ケシメタル植民地ニ在リテハ現ニ之
●シ賦課スルノ年既ニ久シマルチニツクニハ千八百四十九年六月十
一日及ヒ千八百五十四年五月二日ノ管轄省卿ノ布達ヲ以テレギユア
ドルーポニハ千八百四十八年十一月八日ノ管轄省卿ノ布達ヲ以テレ
レユニオシニハ千八百五十一年十月十三日及ヒ同年十二月十三日ノ
管轄省卿ノ布達ヲ以テシテ斯ノ入港税ヲ賦課セシメタリ
百三十三植民地ノ民會ニ於テ入港税額則ヲ規定シクル時ニ當リ爭訟
ノ起生セル有リ破毀裁判ニ千八百五十二年二月十八日及ヒ千八百五
十四年七月十一日ノ裁判ヲ以テ凡ソ植民地ニ在リテ其各地方人民ノ
消費ニ供スル諸般ノ物品ニ入港税ヲ賦課スルハ即チ法律ノ許ス所ノ
ルヲヲ認識シクリ「マルチニツク」ノ如キハ其民會ノ千八百六十八年二
月七日ノ議定此詳述ノ事致ハ爾後千八百七十年十二月二十日千八百
七十一年三月七日及ヒ同年十二月二十日ノ議決ヲ以テ之●ヲ改正セ
リシ以テ海關稅ヲ廢シテ入港税ヲ課シ而シテ各外地ヨリ本島ノ諸港
ニ輸入スル貨物ニ向テ施マ可キ入港税額則ヲ創設シタリ

百三十三凡ソ入港税額則：掲載スル従價税ノ貨物ノ出處即チ其製造所：於テ賣買シタル價直ニ加フル：債主ノ植民地ニ輸送スル者ノ：支辨レタル運送費、保険料及ヒ牙價錢ヲ以テ以テ課税ノ標準ト為ス

百三十四入港税、收入額ハ左ノ定則ニ従ヒテ之ニ充ツルヲ要ス
第一 收入額、百分ノ一ハ之ヲ入港税、出納、没算ノ事務ニ任スル税関職員ノ俸給ニ充ツルヲ要ス

第二 收入額、百分ノ一ハ之ヲ財務部税関官ノ酬勞ニ充ツルヲ要ス
第三 收入額、百分ノ一ハ之ヲ收税費用ニ充ツルヲ要ス

第四 收入額内ノ二萬五千フランハ之ヲ各邑ノ準備金ニ充ツルヲ要ス

第五 剩餘額ハ人口ノ多寡ニ應ジテ之ヲ全島内ノ各邑ニ分付ス
百三十五ギョアドループノ入港税ハ千八百七十三年十二月二十九日

ノ管轄省卿ノ布達ヲ以テ之ニ賦課セシメタリ其賦課方法及ヒ徴收方法ニ至リテハ大抵「ルチニツク」ノ入港税ニ施行スル規約ニ向ヒト

百三十六「レユニオン」島：於テ千八百五十年以降入港税ヲ賦課スル有リ其賦課方法ハ千八百七十年十二月十四日ノ地方布達ヲ以テ之ヲ規定セリ此入港税ノ賦課スル目的ハ亦是ニシテ邑庫：收入シテ以テ其經費ヲ補助スルニ存シ其收入額、百分ノ七ハ之ヲ入港税、徴收シ擔任スル税関職員ニ支給シテ其酬勞金ニ充ツ

百三十七凡ソ以上ニ示セル各植民地、税関ニ於テハ貨物寄託庫ヲ設置シ而シテ植民地ノ消費ニ供スルヲ得可キ商品ト植民地若クハ佛蘭西ノ本國ニ輸入スルヲ禁マシタル商品ト問ハス總テ之ヲ此貨物寄託庫ニ寄託セシム其寄託ノ期限ハ三年ニ過キルヲ得ズ其寄託ノ

商品ヲ搬出スル中ハ之ニ寄託税ヲ課収ス若シ佛蘭西ノ本国ヨリ輸
送シタル商品ニシテ入港税ヲ賦課ス可キ者ニ係レハ之ヲ私設ノ貨物
寄託産ニ寄託スルヲ得可ク而シテ其期限ハ六年ニ及ブヲ得可シ
此年限ヲ過ギテ而シテ猶ホ之ヲ輸出セス若クハ之ヲ植民地ノ消
費ニ供セサレハ則チ官設ノ貨物寄託産ニ移藏セラル可カラズ

百三十八)ギコイアン又嶼ニ在リテハ何レノ地方ヨリ輸送スル商品タ
ルヲ論セヌ又何レノ國旗ヲ樹ツル船舶ニ搭載スル商品タルヲ問ハズ
價直額ノ百分ノ三ナル関税ヲ締納スレハ則チ内地ニ輸入スルヲ得
可シ外國ノ獲章ヲ樹ツル船舶ヲ用セテ輸出スル商品ニハ輸出税ヲ課
ス又此植民地ヨリ産出スル金塊ヲ輸出スル時ハ同レク輸出税ヲ課ス
千八百二十一年一月二十八日ノ布達ヲ以テ「デー」エニ「港」ニ私設ノ貨
物寄託産ヲ置カシメ寄託期間ハ千八百六十四年十二月二十四日ノ

布告ヲ以テ之ヲ一年ニ限定シタリ

百三十九)セネカル嶼ニ對シテハ千八百七十四年十一月三十日及同
年十二月十九日ノ布達ヲ以テ入港税ヲ賦課スルヲ許セリ若シ夫レ
海関税「サン・ルイ」港ニ於テ輸入税ヲ課シ「コレ」港ニ於テ輸出税
ヲ課ス

百四十)我カ佛領印度植民地ノ商業制度ハ全ク自由貿易ノ制度ナリ故
ニ此植民地ニ在リテハ何レノ地方ヨリ輸入スル商品タルヲ問ハズ又
何レノ國旗ヲ樹ツル船舶ニ搭載スル商品タルヲ問ハズ總テ無税ノ輸
入ヲ許セリ

百四十一)佛領「ゴシヤン」又ニ於テモ亦自由商業制度ヲ施行ス故
ニ少額ノ投箱税ヲ課スルノミニシテ輸入税及ヒ輸出税ハ總ニ之ヲ免
除ス獨リ煙片烟ニ至リテハ從價税ヲ課ス

又安南船ニハ船税ヲ課ス凡ソ安南國ト支那海港トノ商業ハ安南船ノ運送事業ヲ以テ最モ盛ナリト爲ス

百四十三佛國ノ保護權下ニ屬スル「オセアン」海ノ各埠ニ在リテハ唯夕

其ニ港ノミ外同通商ノ善ノミニシテ開キ且ツ此ニ遠洋航漕船舶ヲ繫泊スルヲ得セシム

助キ「ブルギーズ」島ニ在リテハ「デーオアエ」港ニシテ其貿易ハ全ク自由ニ屬シ「カンゼエ」島ニ在リテハ「マンガレー」島

港ニシテ外國ノ船舶皆此ニ入泊スルヲ得可シ此ニ港ニハ千八百四十四年以來税關局ヲ設置セリ

開港ノ初メニ在リテハ唯夕流動物ノミニ海關稅ヲ課シタリト至テ千八百五十七年ニ至リテ凡ソ輸入商品ハ其何等ノ種類ニ係ルヲ問ハズ總テ入港稅ヲ課シ而シテ若シ外國ノ船舶ニ搭載シテ輸入スル商品ニハ入港稅ヲ倍課シタリ然ルニ千八百

六十一年ニ於テ此稅額ノ等差ヲ廢シテ均一ニ賦課シ併セテ噸稅及ヒ運輸稅ヲ廢セリ

其後千八百六十五年一月一日ヲ以テ税關局ヲ廢シ輸入貿易商ノ營業稅ヲ増課シテ以テ入港稅ニ換ヘタリ

百四十五「ノーヨット」「バシベ」及ヒ「サントマリー」「マダカスカル」ノ商業制度ハ即チ自由貿易制度ニシテ全ク海關稅ヲ免除ス但夕司令官ノ權

内ニ於テ酒精類ノ輸入稅ヲ課スルヲ得可シ是レ警察上ノ措置ニ出ツル者タリ

百四十四「ガント」「ピエール」及ヒ「ミクロン」ノ二島ニ在リテハ佛國ノ船舶ニ搭載シテ輸入スル佛國製産ノ商品及ヒ外國製産ノ商品ニハ入港稅

ヲ課スル無シ唯夕外國ノ船舶ニ搭載シテ輸入スル商品ニ尋常從價稅ヲ課スルノミ又外國漁獲物ノ輸入ハ嚴ニ之ヲ禁マシ及シテ柴薪食

料「カフラン」名鱈及ヒ鹹魚塩ニハ入港稅ヲ課セス
千八百四十五年八月
廿四日ノ管轄省婦人

設置シタリ支那印度ノ銀行ハ本ト無制限ノ資本金ヲ以テ創設シタル
者ニ係リシモ千八百七十五年一月二十一日ノ布告ヲ以テ其資本金
八百萬フランニ限定シタリ又「カレドニ」銀行ハ其資本金
一百五十萬フラント為ス千八百七十四年七月十四日ノ布達ヲ以テ限
定セル所ナリ

凡ソ此等ノ銀行ハ皆法律若クハ布達ノ之ニ配置シタル植民地内ニ在
リテ銀行紙幣ヲ發行スルノ特權ヲ有シ而シテ其現有資本金額ノ三分
ノ一ニ至ルマテハ法定通用ノ紙幣ヲ發行スルヲ得可シ

百四十七植民地銀行ノ事業ハ佛蘭西銀行ノ事業ニ倣ヒテ市内発行ノ
高用債券ヲ割引シテ為替証券類ヲ賣買シ及ビ金銀料塊ヲ取リテ貨幣若
クハ紙幣ヲ貸付スルニ存ス又植民地銀行ハ搭載貨物ノ目錄書ヲ取リ
而シテ別ニ一人ノ署名シテ附加保證ヲ為ス有レハ現金ヲ貸付スルヲ

得可シ生立收獲物ノ賣却證書ヲ取リテ現金ヲ貸付スルヲ得可シ
此ノ如ク生立收獲物ニ對シテ現金ヲ貸付スルハ農夫ノ便宜ヲ為スヤ
少ナカラサルヲ以テ其事業ノ月ニ日ニ盛大ヲ致セルヲ觀ル有リ

百四十八植民地銀行ノ其營業年限ノ次第ニ滿了スルニ隨テ各處ニ更ニ
營業特權ノ許可ヲ請願スルニ際シ其理事會議ハ併セテ銀行規則ニ多
般ノ改正ヲ加ヘンテ請求シタルニ千八百七十四年六月二十四日ノ
法律ヲ以テ總テ其改正ノ條款ヲ確認セリ抑モ其改正ヲ加ヘル目的
ハ專ニ農民ノ借用及ビ貨物抵當ノ借用ニ一層ノ便利ヲ假スニ存セリ
又「カレドニ」植民地ノ商業益ニ旺盛ニ趨クヲ以テ此植民地
ニ於テモ亦他ノ植民地銀行ノ組織ニ別トリ以テ一銀行ヲ設立スルノ
緊要ヲ感スルニ至リ遂ニ千八百七十四年七月十四日ノ布告ヲ以テ此
島ニ銀行ヲ設立スルノ許可ヲ與ヘ而シテ此年六月二十四日ノ法律ヲ

以テ各植民地、銀行ニ施行セシメタル利規ニ亦均シク之レシ「マ」
ル、カレドニ「」ノ銀行ニ適施セシメタリ此銀行ハ本社ヲ佛蘭西本國
ニ設テ而シテ其事務所ヲ植民地、マ「」メア「」置ク

極東ノ植民地ニ於テモ勢自ニ銀行ヲ開設セサルヲ得ズ是ニ於テ千八
百七十五年一月二十二日、布告ヲ以テ一銀行會社ニ對シ銀行紙幣ヲ
発行スル特權ヲ付與スルニ至レリ此銀行會社ハ從來我カ各植民地ノ
銀行ニ於テ經驗ヲ積ミ以テ確定シタル所、原則ニ遵ヒテ銀行規則ヲ
判^定シ以テ二分店ヲ開設シ其一ハ之ヲ「」ニ置ク、柴根ニ置キ
其一ハ之ヲ佛領印度ノ「」ニ置ク「」ヲ保證セサル可カラ
ズ然リ而シテ佛蘭西國法制ヲ以テ統治セル極東ノ各地方及支那日
本並ニ東印度ノ諸港ニ支店ヲ開設スルニ至リテハ其隨意ニ屬シテ義
務ニ屬セサルナリ

百四十九(植民地地券銀行)植民地地券銀行、創設ハ千八百六十五年八
月三十一日、布告ヲ以テ之ヲ許可シ其位置ヲ巴里府ニ定メタリ蓋シ
是^日ヨリ先キ千八百六十年十月二十四日、布達ヲ以テ植民地無名銀
行會社ノ創設ヲ許可シタルニ是ニ至リテ植民地地券銀行シレテ之ニ
換ハテシメタルナリ此植民地地券銀行ノ事業ハ第一、一定ノ規約ニ
遵ヒ佛領植民地ニ於テ一己一人ニ對シ若クハ連合ノ數人ニ對シ其新
クニ砂糖製造所ヲ設ケシ若クハ既設砂糖製造所ノ器具ヲ改裝スルニ
必要ナル資本金ヲ貸與シ第二ニ佛領植民地ノ不動産所有者ニ對シ其
不動産抵當證書ヲ取リテ長期年償(漸償)母子金及ヒ手数料ヲ言議ス
約束ヲ以テシ或ハ短期償還ノ約束ヲ以テシ或ハ短期漸償ノ約束ヲ以
テシテ農業ノ資本金ヲ貸付シ第三ニ轉讓若クハ其他ノ方法ニ依リテ
領先債權即チ抵當債權ヲ買得シ或ハ原債主ノ權理ヲ承継シ若クハ之

シ承継セスシテ領先債権、繋レル夏債ヲ代償シ第四：抵當起債若クハ無抵當起債ノ許可ヲ得タル一方ノ植民地若クハ植民地、各邑ニ對シ其各個人ニ貸付スルト同一ノ規約ヲ以テ必要ノ金額ヲ貸付シ第五：其貸付セル金額ニ照シテ證券ヲ発行シ若クハ之ヲ流通セシムルニ在ルナリ此植民地々券銀行ノ營業年期ハ之ヲ千八百六十三年八月三十一日ヨリ起算シテ六十年ニ限リ其資本金額ハ一千二百萬フランニシテ之ヲ五百フランノ株券二萬一千枚ニ分チタリ

植民地々券銀行ノ理事會議之ヲ管理マ其理事會議ハ株主總會ニ於テ選定スル十五人ノ理事員ヲ以テ編成ス可キ者タリ
各植民地ニ於テ特設委員ヲ置キ之ヲ以テ植民地々券銀行ニ對シテ提出スル借用請求書ヲ検査セシム此特設委員ハ本行ノ支店管理人本行理事會議ノ選任スル二人ノ委員及ヒ植民地民會ノ選任スル二人ノ委員ヲ以テ之レヲ編成シ而シテ別ニ付補員ヲ選定スルヲ得可シ

百五十「カイチ」島農業補助金庫ヲセアン海ノ「カイチ」島ニ設立スル農業補助金庫ハ即チ是レ農業ノ資本ヲ貸付シ兼ネテ農民ノ寄託金ヲ保管スル一種ノ銀行ニシテ一千八百九十三年七月三十日ノ布達ヲ以テ其創設ヲ認可シタリ此布達ノ条文ニ據レハ農業補助金庫ハ十五フランニ至五百フランノ寄託金ヲ保管シテ百三ノ年利ヲ賦ス可ク而シテ本地ノ住民ハ凡テ隨意ニ其貯蓄金ヲ以テ寄託シ且ツ隨意ニ之ヲ引出スヲ得可シ又農業補助金庫ハ土地若クハ收穫物ヲ抵當ニ徵シ百五ノ年利ヲ以テ農夫ニ資本金ヲ貸付スルヲ得可シト至氏其貸付ノ金額ハ二千フランニ超スルヲ許サス其貸付ノ年限ハ五年以上ニ踰ラ可カラズ又農業補助金庫ハ植民ノ開墾ニ供充セル土地ヲ購買スルヲ得可ク又購買シタル土地ヲ更ニ賣付シ若クハ讓與スルヲ得可

抑て地方行政官、以農業補助金庫ヲ設置シタル目的ハ土人ノ其所有土地ヲ賣却スルニ當リ其一人ノ私益ヲ損セズ又其村落ノ共益ヲ害セズシテ之ヲ購買セント欲スルニ是レ存セリ此ノ如クシテ漸次ニ零碎ノ土地ヲ贈買シテ一々土地ヲ成シ善ク之ヲ耕作スルニ至レリ

第三節 操作ノ警察及ニ定制〇移住

百五十一(操作ノ警察及ニ定制)千八百五十二年二月十三日ノ布告ヲ以テ操作ノ定制ヲ立テ之ヲ野邑ノ人民ニ施セリ凡ソ自家生活ノ方法ヲ有スルコトヲ證明シ得サル者ハ長期僱傭ノ約束ヲ以テ雇主ノ傭役ニ就カシメ或ハ或ハ履歷簿ヲ帶持セシメ且ツ僱傭契約書ニ於テ特別ノ附款ヲ設テ雇主若クハ被傭者ノ其契約ニ違背スル場合ニ當リ其違約者ニ罰金及ニ料加メ可キ責罰ヲ揚記セシメタリ凡ソ各植

民地ニ於テ此點ニ關シ制設シタル目的ハ專ラ履歷簿ノ定制ト分頭税ノ定制トヲ並施スルニ在ルナリ然リ而シテ此類ノ制規ハ總テ治令裁判官ノ職權ニ委シラ之レヲ施行セシム

百五十二(移住)如隸制變ヲ廢シテヨリ以來我が大植民地開拓耕作スル方畧ヲ設クニ至リ是ニ於テ移住人ヲ覓メテ以テ植民地生産物ノ將カニ絶エシトスル狀況ヲ救済スルノ急務ナルヲ知リ千八百五十二年三月及ヒ三月ニナセリ二月ノ二布告ヲ發シテ我カ植民地ニ移住スル外國ノ農夫ヲ保護スル定制ヲ設テ先ツ印人及ヒ亞非利加人ヲ移住セシムルニ務メタリ而シテ千八百五十二年ニ方リ亞非利加洲内ニ於テ買回ノ方法ヲ立テ自由被傭者ヲ募集スル方法ヲ立テタルヨリシテ亞非利加人ノ我カ植民地ニ移住セシトスル其勢頓ニ一變シ我政府ノ心圖ヲ遂クフルコトヲ期ス可キ者アルニ似タリ是ニ於テ始メテ買回方法ヲ

百五十三號時ヨリ以後印度地方ノ外用出稼人ノ我カ植民地ニ陸續ト
非絶エルヲ無シ然レモ幾多ノ経験ヲ以テ之レヲ見ルニ印度人ハ我カ
植民地タルアリシニ及ヒ「ギョイアン」ノ水土ニ馴ルハ、甚ク難キ
ヲ徴ス且ツ印度人ハ大抵身体軟弱ニシテ勞役ニ耐ヘヌ加フルニ剛獲
ニシテ柔順ナラス且ツ彼如輩ノ勞役日數ヲ算スルニ毎月十八日ニ起
スルハキハ甚ク稀ナリ而シテ其給料ハ「アン」ノ島ニ於テ寧ムル所ノ
日額大約二「フラン」ニ達ス既ニ此不便ヲ見ル有リ而シ
テ其僱傭契約ノ年限ハ僅カニ五年ヲ繼續スルニ過キヌ況ヤ其僱傭年
限ノ満過スレハ之ニ「本國」ニ遣歸スルノ義務ヲ負擔スルガ故ニ其貴
用ヲアレシメ「ル」島ニ負擔スル蓋シ莫大ナリ又印度人ハ之ニ「我カ植
民地」ノ人民ニ同視スルヲ得ヌ蓋シ彼如輩ハ英國領事ノ後見ヲ受ケレ
ハナリ然リ而シテ其後見ノ保護クハ唯モ未成丁者ヲ侍ツト一般ニシ
テ常ニ我カ政府ト我カ植民地トニ間難シ煩累ヲ致マフ實ニ勤カラズ
之ニ「我カ」要スルニ印度人ヲ我カ植民地ニ使役スルハ禍根ヲ養成スル者
ト謂フモ不可ナル無キガ如シ何ニトナレハ一旦佛英移住條約ノ施行
ヲ罷ムルハ我カ植民地ノ運動ハ忽チ其歩ヲ止ムルニ至レハナリ加之ナ
ラス假令印度人ヲ募集スルモ其應募者甚ク稀ニシテ固ヨリ以テ我カ
植民地ノ要務ヲ充タスニ足ラサルノ不便ヲ見ル有ルシ如何セシヤ
百五十四凡ソ移住ノ制度ハ千八百六十一年ノ佛英移住條約及ヒ其他
ノ地方布達ヲ以テ之ヲ公示ス且ツ英國ノ植民地ニ僱傭スル印度出稼
人ノ募集運送及ヒ遣歸ニ施セシ英國ノ成規ハ英國政府ノ請求ニ應ジ
總テ之ヲ採用シ以テ我カ植民地ニ施行セリ凡ソ出稼印度人ヲ使役ス
ル我カ佛國ノ植民地ニ在リテハ出稼人監査局ヲ設置シ平生各地方シ
巡回シ以テ雇主ノ出稼人ヲ虐待セサルヲ保證シ且ツ出稼人ノ移住条

約書、掲載スル便益ヲ失ハシメサルヲ保證ス凡ソ出稼人ハ皆履歴書
ヲ帶持スルヲ要シ又其植民地ニ到着シクルヨリ以後ハ夏初メ到着シ
クルニ際シテ配置セラレタル地方ニ住ムルヲ要ス然レバ夏植民地
駐在スル本國領事官ト直接ニ通信往復スルノ権理ヲ有ス

第十章 陸海軍隊ノ編成

百五十五 植民地ノ陸軍司令權ハ太守之ヲ掌握シ而シテ太守ハ他國西
本國ニ於テ師團將官ノ有スル權カラ施行ス故ニ太守ハ其限ヲ以テ
軍人ニ對スルト材料ニ對スルトシ問ハス司令權ヲ施行ス又太守ハ兼
テ民兵ノ司令權ヲ有シ且ツ植民地ニ附屬スル軍艦ノ進退ヲ指揮ス
百五十六 又太守ハ軍法會議ヲ編成シ其開會ヲ命ジ且ツ台團(砲兵)ヲ公
告スルノ権理ヲ有ス

百五十七 植民地ノ兵力ハ即チ歩兵砲兵工兵及ヒ憲兵ニ存ス歩兵及ヒ
砲兵ハ海軍兼植民地事務省卿ノ編成スル歩兵部團若クハ砲兵部團ニ
屬ス

土人ノ軍隊ハ專ラ植民地防禦ノ目的ヲ以テ之ヲ編成シ其司令官ハ海
軍歩兵士官及ヒ海軍砲兵士官ヨリ撰拔シテ之ニ任ス工兵及ヒ憲兵ハ
陸軍省ノ工兵及ヒ憲兵ヲ以テ之ニ充ツ工兵ハ其才職ヲ外尚ホ道路
橋梁ノ工事ニ任マルヲ往々之レ有リ

植民地防禦ノ事務ハ巴里府ノ植民地防禦事務局長之ヲ統管ス其植民
地防禦事務局ハ千七百九十七年ノ設置ニ係リ
民兵ハ口ユニオシテアドルノ及ヒセネガルノ三植民地ノミニ於
テ之ヲ編成スアルニツクノ民兵ハ千八百三十年ニ當リ之ヲ解散シ
爾後再ヒ之ヲ組織ス

百五十八(千八百九十六年八月十六日)ノ布告ヲ以テ「アシキルギユイカ
シ」ユ「エニオシ」カ「ビエール」及「ミクロ」ニ於テ海軍徵募事務局ヲ
設置シタリ其組織ハ即チ本國ニ設置シタル海軍徵募事務局ノ組織ニ
異ナラズ植民地、海軍徵募事務、海軍辦理局ノ士官及、其他ノ職員
之ニ兼任ス

エ、エルウエー識

徒刑植民地竄流(一)昔時ニ在リテハ徒刑ノ刑罰ニ處断セラレタル罪
犯ハ之ヲ海濱ニ配置シテ王有戰艦ノ艦工ニ充テタリ其後海濱徒刑ヲ
以テ之ニ換ヘ又其後徒刑ノ植民地ニ遷徙シテ海濱徒刑ヲ以テ海濱
徒刑ニ換ヘタリ彼ノ艦工徒刑ニ處断セラレタル罪犯ハ之ヲ艦工徒刑
ノト稱シ海濱徒刑ニ處断セラレタル罪犯ハ之ヲ海濱徒刑ノト稱シ而シ
テ今日ニ在リテハ凡ソ徒刑ニ處断セラレタル罪犯ノ植民地ニ到リテ

徒刑ニ服役スル者ハ、遷徙徒刑ノト稱ス又同事犯ノ為メニ竄流
ノ刑罰ニ處断セラレタル罪犯ニ於テ之ヲ植民地ニ送リテ牢獄ニ送
ル故ニ竄流ノ刑名ハ即チ專ラ此同事犯ニ加フル者ナリ抑テ遷徙ト
竄ト流ト須ラシ之ニ區別スルヲ要ス(千八百九十一年十一月十
律註ノ意義ヨリテモ是レ刑名ニ非ズシテ蓋シ公同ノ安寧ヲ保護
スルノ措置ニ出ツル者ナリ)

(二)海邊徒監ハ某地方ノ海濱内ニ設ケタル建造物ナリ凡ソ徒刑ノ宣告
ヲ受ケタル罪犯ハ之ヲ押送シテ海邊徒監ニ釋囚シ以テ吾役ニ服セシ
ム
(三)凡ソ徒刑人ハミテ海軍ノ工事ニ使役シ晝間ハ工作場ニ使役マルヤ
二人毎ニ鉄鎖ヲ以テ之ヲ連繫シ若シ又役事ヲ執ルニ妨ケ無キハ脚
鎖ヲ施シテ以テ執役セシム(刑法第
十條)

(四) 千八百二十八年八月二十日、布令ヲ以テ佛蘭西王国内、海軍管轄諸港ニ徒刑人ヲ配送スルノ比例ヲ定メタリ凡ソ罪犯ノ十年以下ノ徒刑ニ要断セラレタル者ハ之ヲ「ブロー」港ニ押送ス又十年以上ノ徒刑ニ要断セラレタル者ハ之ヲ「ブレット」及「ロシユ」フオール、ニ港ニ押送スルヲ要シタリ也、如ク其徒刑年期ノ長短ニ因リ配遣地ヲ異ニシタルハ是レ異等ノ刑人ニ雜居セシムルノ甚ク^宜キヲ得サレバナリ然レ共此布令ノ結果ハ以テ政府ノ希望ヲ満足セシムル能ハサリキ是ニ於テ千八百三十六年十二月九日ノ布達ヲ以テ徒刑人ニ脚鐐及ヒ鉄鎖ヲ施スノ制例ヲ廢止シ且ツ徒刑人ニ區別ヲ立テスシテ時宣ニ應ジ之ヲ「ブロー」及「ブレット」ス及「ロシユ」フオールノ三港ニ押送セシムルヲ規定セリ

(五) 従是其後輿論ト廟議トシ問ハテ海邊徒刑監存廢ノ問題ニ涉リ明クニ其弊害ヲ擗挙シテ遂ニ改制度ニ改革ヲ加フルノ情勢ニ傾向セリ此ニ於テ海軍卿ハ千八百二十五年ニ以テ國會議院ニ報告スル所アリ曰ク海軍管轄ノ諸港ニ在リテハ其工作ノ特殊ニシテ且ツ其工廠ノ狹隘ナルヲ以テ類々雜沓ヲ致ス有リ故ヲ以テ刑罰ノ年限徒刑人ノ年齢及ヒ其性質ニ應ジテ指定セラル區別ノ方法ヲ實施シ難ク又被刑人ノ行狀ヲ觀察シ其良否ヲ甄別シテ之ヲ進退スルニ難ク加之ナラス重罪犯ノ如キハ性々惡計ヲ企テ以テ囚徒ヲ結合スルニ長ジ其惡意スル所ニ從ヒテ恣ニ其犯ヲ誘導スルノ方略ヲ施シ而シテ其執役ノ間動カスレハ間隙ヲ復ヒ其惡計ヲ遂クシニ容易ナリ故ニ此ノ如ク多數ノ重罪人ヲ一所ニ雜居セシムルハ實ニ危害ノ目前ニ撞ハル者ト^謂可シ且以夫レ海軍管轄諸港ニ徒刑人ヲ配遣セハ海員ヲシテ漸クニ其惡俗ニ浸染シテ遂ニ天然ノ良性ヲ墮滅セシムルニ至ル又唯ク海員ニ於リトスル

ノミナリマ日々取内徒ト相近接スル工夫ノ如キモ亦然リ之ヲ要スル
ニ無敵ノ動産物件ニ以テ信ヲ免賦ノ手中ニ委託スルガ如ク遂ニ其安
寧ヲ保護スル能ハサル可シ

(六)千八百五十二年三月二十七日ノ布告ハ刑法ヲ改正スル以前ニ於テ
既ニ海邊徒刑監ニ拘繫スル徒刑人ヲ佛領植民地トコイフ又ニ押送
シ以テ就役セシムルヲシ規定シ以テ暗ニ従前ノ法律ヲ廢止セリ

(七)千八百五十四年五月三十日ノ法律ヲ以テ向後布告ノ特リアルセリ
「」ヲ除キ其他一方若クハ數方ノ植民地ニ設置ス可キ監獄署ニ於テ徒
刑ヲ實施セシムルヲ規定セリ

遷徙 ■徒刑人ニ執ラシムル苦役ニ亦此法律ヲ以テ之ヲ變更セリ
凡ソ遷徙徒刑人ハ之ヲ植民地開墾事業ノ最ニ至難ナル苦役ニ服セシ
メ且ツ之ニ以テ他公益ノ工事ニ使用スルヲ容メ

又法律ニ據レハ繫鎖及々脚鐐ハ向後懲罰ノ措置若クハ公安保持ノ措
置ニ出ツルニ非サレム之ヲ施スヲ得ズ

(八)植民地懲治監ハ猶ホ往時ノ海邊徒刑監ノ如ク之ヲ海軍卿ノ管轄ニ
屬ス凡ソ徒刑人ハ監守人ヲ置キ之ヲ直接ニ之ヲ監視セシメ懲治
監ヲ監視スルハ之ヲ一隊ノ監守兵ニ委任ス

(九)若シ徒刑人ニシテ監内取締規則若クハ服役規則ニ違背スル時ハ行
政官ノ措置ニ委シテ之ヲ罰責シ又若シ重罪ヲ犯スルハ特設裁判所ニ
於テ其罪ヲ裁判ス此特設裁判所ハ海軍士官ヲ以テ之ヲ組成シ而シテ
其裁判ニ對シテハ抗告スルヲ許サズ又覆審ヲ請求スルヲ許サズ懲

治監内屬職員ノ犯罪者ハ海軍裁判所ノ管轄ニ屬ス(千八百五十七年一
十)凡ソ徒刑ニ處断セラレタル罪犯ニシテ服役スル者ハ每次其原刑ニ
二年以上五年以下ノ徒刑ヲ附加ス若シ無期徒刑ノ罪犯ニ係ルハ重鎖

獲シ施スシ字ス(千八百五十四年五月三十日ノ法律)

(十一) 若シ徒刑人ニシテ其行狀ノ善良ナルガ爲メニ寛典ノ要スラ要クルニ足ル者ハ婚姻シ若クハ其家族ヲ植民地ニ招キ且ツ官衙ノ使役ニ服シ各個人ノ備役ニ應ズルハ允許ヲ得可ク土地ノ讓與ヲ受ケテ自己ノ爲メニ之ヲ開拓スルノ允許ヲ得可ク且ツ又其現在スル植民地ニ於テ民権ノ一部若クハ全部ヲ施行スルノ允許ヲ得可シ

(十二) 凡ソ八年以下ノ徒刑ニ處断セラレタル者ハ其刑期ノ既満スルモ其徒刑年期ニ均シキ年間ハ其植民地ニ留任セサル可カラズ若シ其徒刑ノ八年若クハ之ヨリ以上ノ年期ニ涉ル者ハ終身其植民地ニ留任スルヲ要ス

既ニ植民地ニ留任ス可キ年期ヲ經過スレハ政府ノ特許ヲ得テ植民地ヲ退去スルヲ得可シ然レバ如何ナル場合ヲ論セバ佛蘭西ニ帰列スル得ス(監獄ノ數月ヲ參觀ス可シ)

(十三) 千八百六十三年九月三日ノ布告ヲ以テ「ドーウエルカレドニ」ラ遣徒刑人ノ發配地ト定メタルニ依リ其翌年即チ千八百六十四年一月二日ヲ以テ「ドーウエルカレド」ヨリ徒刑人ヲ船舶ニ搭載シテ該港ヲ發シ同月九月九日ヲ以テ「ドーウエルカレド」ニ到着セリ此處徒刑人ハ其平素行狀ノ藏否ニ從ヒテ之ヲ四等ニ區別シ又其等級ニ從ヒテ公同工作ノ最モ苦難ナルエ役ニ使用シ或ハ官設ノ工作場ニ使用シ或ハ自由移住人ノ備役ニ應マシメ既ニ其刑期ノ満了スル以後ニ在リテハ各自本地ノ植民タルヲ得テ而シテ政府ハ之ニ給與スルニ食料其他ノ需具ヲ以テセリ

(十四) 「ドーウエルカレド」ノ徒刑監ハ爾後猶ホ殘存セシガ千八百七十三年ニ至リテ全ク其徒刑人ヲ植民地ニ押送セシメタリ

(十五) (竄流) 我々佛國ノ法律ニ於テ國事犯ニ適施スル竄流ノ刑罰ハ千七百

七十三年六月七日、民約政府ノ布告ヲ以テ始メテ之ヲ佛蘭西國法律
ニ揚テ其後其和曆第四年アリユノル某日ヲ以テ領布シタル刑法及
一千八百十二年某月某日ヲ以テ領布シタル^{法律}揚テタリ故ニ當時「ユ
イアレヌ」ハ即チ國事犯人ヲ竄流スル植民地タリ然レ氏第一帝國ノ時
代ニ在リテハ戰亂相繼キ佛國大陸ト其植民地ト交通全ク絶エタルヲ
以テ竄流ノ刑罰ニ裏断セシタル國事犯ハ佛國內ニ於テ之ヲ兼期城
塞禁錮ニ處シ以テ竄流ノ刑罰ニ換ヌルニ至レリ其後平和ニ復スルモ
猶ホ依茲舊例ヲ存續シ遂ニ千八百十七年四月二日ノ布告ヲ以テ「カ
レミツセル」ノ監獄ヲ以テ竄流クヲ禁錮スルノ用ニ充テタリ此城塞禁
錮ヲ以テ竄流ニ換フルノ措置タル千八百三十二年領布ノ改定刑法ヲ
以テ之ヲ確認シ其後千八百三十二年一月二十二日及ヒ同年二月一日
ノ布告ヲ發シ「ウ」ラシノ城塞禁錮ノ地ト定メタリ又千八
八百五十年六月八日ノ法律ニ據シハ國事犯ヲ植民地ニ竄流スルノ刑
罰ヲ復シ而シテ竄流ノ刑罰ヲ二等ニ區別シ一ヲ尋常竄流ト稱シ一ヲ
安置竄流ト稱シ尋常竄流ハ植民地ニ在リテ自由ニ進退スルヲ許シ安
置竄流ハ之^ニ禁錮スルニ非^ズト虽モ監守ニ便宜ナル地方ニ住居
スルヲ容メ而シテ收法律ノ刑罰ニ於テ「マ」カイ「ウ」ヲ以テ尋常竄流
ノ地ト定メ「ウ」アイ「タ」ユ」ヲ以テ安置竄流ノ地ト定メタリト虽モ該刑規
ハ唯ク三人ノ代議士ノミニ對シテ之^ニ實行シタルニ過キス然リ而
シテ此等ノ犯人ニ對シテモホクシク之ヲ施行スルニ非スレテ遂ニ之
ヲ放逐セリ故他竄流ノ刑罰ニ裏断マラレタル國事犯ハ之ヲアルゼリ
「」ニ發配シ幾モ無クシテ「キ」ユ「イ」アレヌ」嶋ニ量遣シ或ハ之ヲ宥赦シタ
リ其後政府ハ千八百五十一年十二月八日ノ布告ヲ發シ配地逃脫ノ罪
人、警察權ノ監視ニ付セラレクハ罪人及ヒ隱密結社ノ事犯ニ係リ刑罰

ニ處断セラレタル罪人「ゲーエニヌ島若クハ「カニゼリ」ニ送配セル
ヨシ許シ又千八百五十八年二月二十七日ノ法律ヲ以テ既ニ佛蘭西國
ニ歸到シタル竄流人及ヒ本法律ニ指示スル罪犯ニ對シテモ此千八百
五十二年ノ布告ニ指施シタリ然ルニ千八百七十年十月二十四日ノ布
告ヲ以テ此法律ヲ廢止セリ

(十六)千八百七十一年巴厘府民ノ暴動スルニ及ヒテ更ニ竄流ノ刑罰ヲ復
シ以テ之ヲ用事犯ニ指施セリ千八百七十二年三月二十三日ヲ以テ又
「ウエル、カレドニ」嶋ニ附屬スル三小嶋ヲ竄流地ト定メ「アヨ
リ」四「キロノートル」ノ里程ヲ距ル「ジュコ」半嶋ニハ安置竄流ノ刑罰ニ
處断セラレタル罪犯ヲ散配シ「バシ」嶋及ヒ「マレ」嶋(ロワイヤルチー嶋)
ニハ尋常竄流ノ刑罰ニ處断セラレタル罪犯ヲ散配セリ

(十七)千八百七十二年十月八月、十二日、十七日及ヒ十九日ノ管轄省卿ノ各
布達ヲ以テ竄流ニ関スル諸般ノ事務ヲ規定シタリ此等ノ布達ニ據シ
ハ凡ソ竄流ノ刑罰ニ處断セラレタル罪犯ハ陸軍刑法ヲ以テ之ヲ處
断シ千八百五十四年五月三十一日ノ法律ニ於テ許與セル権理ノ施行
ヲ禁止シタリ但ク政府ハ時宜ヲ計リテ此権理ノ施行ヲ許スコトヲ得可
シ又竄流人ノ家口ハ其家長ノ管轄地ニ到リ之ト同居スルコトヲ得可シ其
妻女及ヒ兒子ノ費用ナル者ニ對シテハ政府ヨリ法計ノ費用ヲ給ス(監
獄ノ費用ヲ參觀ス可シ)

(十八)尋常竄流ノ刑罰ニ處断セラレタル罪犯ハ既ニ竄流地ニ到着スレハ開
墾地ノ讓與ヲ受ク但ク竄流地ニ在リテ各個人(自由植民)若シハ其他ノ
遷徙人ノ備役ニ應ジテ事業ヲ執リ若クハ其他ノ勞役ニ服スルハ其自
由ニ屬ス又竄流人ニ開墾地ヲ讓與スルハ當初ハ之ヲ假定シ五年ヲ經
テ始メテ之ヲ確定ス此讓與土地ハ之ヲ子孫ニ承襲セシメ若シ子孫無

キ場合ニ在ツテハ之ヲ寡婦ニ承襲セシムルコトヲ得可シ

(十九)千八百七十二年五月三十一日ノ布告ハ特別行政規則ヲ創設セシ
者ニ係リ而シテ此布告ヲ以テ安置竄流ニ處断セシムル罪人ニ施行
ス可キ警察及ヒ監視ノ制規ヲ掲載セリ凡ソ植民地太守ハ若シ安置竄
流人ノ土地ヲ開墾スルノ規約ヲ設クル有レハ其安置區域内ニ於テ假
ニ土地ヲ讓與スルコトヲ得可シ

ジャック・ド・ボウジユスラニ識

コロンボニ在リテハ
(聖)獨曼度寺院標柱 (聖)獨曼度ノ教目ヲ參觀ス可シ

(書籍行賣) (一)千八百四十九年七月二十七日ノ法律ヲ頒布セハ以前ニ

在リテハ凡ソ書籍著依其他各種ノ隱語書類ハ毫モ豫防ノ制規ヲ受ク
ルコト無カリシト雖モ今日ニ在リテハ行賣ノ方法ニ因リテ此類ノ文書
ヲ發賣スルノ許可ヲ得ルニハ三規約ノ具備スルヲ以テナリトス第一

ニ行政官ノ預シノ之ヲ検査スルヲ字ニ此検査ハ往時ニ在リテハ千八
百五十二年十一月三十日ノ管轄省御ノ布達ヲ以テ設置シクル常置委
員之ヲ施行シ今日ニ在リテハ管轄省ノ行賣書籍検査局之ヲ施行ス第
二ニ行賣書籍検査局ノ許可セル文書搦本ニ其行賣書籍検査局ノ捺印
シ捺マルヲ要シ第三ニ行賣營業人ノ行賣特許狀ヲ請受スルヲ要ス此
行賣特許狀ハ請願者其人ニ係ル者ニシテ若シ之ヲ濫用スル場合ニ在
リテハ乃チ之ヲ収奪ス又行賣營業人ノ行賣特許狀ヲ請願スルニハ其
生計品行證狀(請願者ノ住居スル本邑ノ邑長之ヲ交付ス並ニ邑長ノ捺
印スル相額書ノ謄本及ヒ營業准許狀并ニ行賣營業稅納納証書ヲ呈出
スルヲ要ス
行賣書籍検査委員ハ千八百七十年九月十日ノ布告ヲ以テ之ヲ廢シ
又此ト同時ニ内務省行賣書籍検査局ノ書籍捺印職員ヲ解免セリ

千八百四十九年七月二十七日ノ法律ヲ實行セサルヨリシテ人ノ面
目ヲ汚辱スル如キ文書ヲ行賣スルヲ往々之レ有リ此ニ於テ行賣書
籍ヲ復シ之ヲ復設セズ唯テ行賣書籍検査局ノミヲ復設セリ(千八百
七十一

年十月七日ノ
内務卿ノ旨達)

(二) 州長ノ升與スル行賣准許狀ハ其管轄州内ニ非カレハ其効力ヲ有ス
ル兼シ之ニ及シテ内務卿ノ指令ヲ以テ接印シ捺セル行賣書籍ハ之ヲ
佛蘭西全國ニ行賣スルヲ得可シ又州長ハ其管轄州内ノ各地方ニ行賣
スル此等細ノ刊行文書ニ非カレハ接印スルノ權理ヲ有セス凡ソ州長ノ
接印ヲ請願スル刊行文書ニシテ若シ政治宗教若クハ社會ニ關係ヲ有
スル者クハ州長ハ必ス管轄省卿ニ稟議スルヲ要ス(千八百七十二年
ノ管轄省卿
旨達)凡ソ執法官及ヒ其他ノ職官ノ要索スル有シハ行賣商ハ其
帶有スル行賣准許狀並ニ其行賣スル著書ノ目錄ヲ出示セサル可カラ

ス 鐵道發車場ノ肆店ニ在リテハ攤賣セル書籍並ニ著作ノ外ハ目錄ヲ
製スルヲ要セス是ヲ以テ此類ノ書類及ヒ著作ニハ鈔印スルヲ要セス
然レハ鐵道發車場ノ書籍販賣人ト雖モ官府ノ鈔印ヲ經タル目錄ヲ具
ヘサルヲ得ヌ又其目錄ニ記載シタル書籍ニ非カレハ之ヲ販賣スルヲ
得ヌ(千八百七十四年五月十
日ノ管轄省卿ノ旨達)
若シ夫レ純然タル行商ニ至リテハ千八百七十四年ヲ以テ改造シタル
印章ヲ持セハ著書ニ非ズハ之ヲ販賣スルヲ得ヌ(千八百七十四年五月
十日ノ管轄省卿ノ旨
達)

既ニ上文ニ開示シタル如ク行賣准許狀ハ請願者其人ニ屬スル者タル
ヲ以テ受准許狀ハ他人ヲシテ其行賣准許狀ヲ使用セシムルヲ得ヌ
(三) 以上ニ舉示スル各種ノ法式及ヒ義務ハ千八百四十九年七月二十九
日ノ法律(第六條)及ヒ警察省內務省ノ各訓令ヲ以テ定ムル所ノ者ニ係

ル蓋シ往時ニ在リテハ警察省ノ設テ有リテ其職務ハ専ラ出版ノ警察
ヲ包括セリト雖モ此警察省ヲ廢セシ以來ハ出版警察ノ職務ヲ以テ内
務省ノ職務ニ屬セシメタリ

(四) 千八百四十九年七月二十九日ノ法律第六條ニ填用シタル著作ナル
之字ハ新聞紙ヲモ包括セリ是ヲ以テ凡ソ書籍行賣ノ營業ニ施テ法律
ニ制設スルニ際シ新聞紙及ヒ定期刊行ノ著書ハ之ヲ此處ニテハ
シ含有スル著作ノ外ニ置カシメテ欲マセテ以テ常ニ之ヲ明言セリ然
リ而シテ獨リ此千八百四十九年ノ法律第六條ニ於テハ此點ニ關シ
テ言フ所無シ是レ蓋シ此條ノ行政官ニ付與スルニ殆シト專制無限ノ
權カヲ以テシタルハ疑ニ容ル可カラサルナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ即
刷文書ヲ行賣スル權限ハ全ク行政官ノ恣ニ依奪スル者ニシテ行政
權ハ書籍ノ行賣ヲ禁セシト欲スレハ則チ之ヲ禁シ許サシト欲スレハ
則チ之ヲ許セシ得シ然レハ刑法ニ指テ又又検査官ノ禁止セサル或
種ノ著作若クハ或種ノ隱語書類ニシテ尋常書店ノ普通ニ販賣スル
ヲ得ル者ト雖モ之カ行賣ヲ禁ムルヲ得可キヲ知ラレ

(五) 又曾テ法律ヲ施行スルニ際シ付ナル文字ノ意義ヲ解釋スルニ關
シ紛議ヲ起生セル有リ破毀裁判所ハ千八百五十年二月十五日ヲ以テ
裁判シ下シテ謂フハ印刷文書ヲ分付セル助手ノ手來分付ノ職業ヲ營
為スルト否トヲ審ニシ或ハ之ヲ區別スルヲ容マセ唯々當ニ不法ノ人カ
付ニ係ルカ果シ然ラサルカヲ證明ス可キヲ要ス果シテ不法ノ人付ニ
係レハ偶然ノ所為ニ出ワルト然ラサルトシ問ハス價直ヲ領受スルト
然ラサルトシ問ハス住居ニ於テ分付スルト行路ニ於テ分付スルトシ
問ハス又遺法ノ文書クハ若クハ法禁ノ文書クハト然ラサルトシ問ハ
ス千八百四十九年七月二十七日ノ法律第六條ヲ施行ス可キ有ルノミ

ト故破毀裁判所ノ解釋ハ法律ノ成文ト立法院ノ討論トニ根據スル者
タルヲ知ル蓋シ法律ノ成文ニ於テハ其多分スル文書ノ種類ニ從ヒ若
クハ分付スルノ如何ニ依リテ區別ヲ立ツルヲ無ケレハナリ

(六)又人ノ住居ニ就キテ画圖若クハ肖像ヲ分付スルノ職業ヲ營為スル
者ニ對シテモ其給料ヲ領受スルト然ラサルトシ問ハスルハ百七十九
年七月二十七日ノ法律ヲ連施スルヲ要ス是レ行政官ノ裁令ニ於テ認
識スル所ニシテ破毀裁判所モ亦今八百五十年四月廿五日ノ裁判ヲ以
テ凡ソ書肆營業准許狀ヲ帶持セサル人ニシテ人ノ住居ニ就キテ印刷
書籍ヲ分付シ若クハ販賣スルノ所為人必ス今八百四十九年七月二十
七日ノ法律ニ指示スル行商分付ノ事類ニ却入スヘキ者トシテ決定シ
タリ若シ夫レ店舖ヲ開設シテ平常書肆ノ職業ヲ營ム者ハ特別ニ州長
ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其書籍ヲ行賣スルコトヲ得ス

(七)又破毀裁判所ノ裁判就中今八百五十年七月六日十八日八月九日及
ヒ今八百五十一年二月十七日ノ裁判ニ據レハ凡ソ違白書ノ付裁ニ擬
作シタル文書ヲ毎戸ニ遞示スル如キ人假令州長ノ許可ヲ經サルモ以
テ法律ニ違背スル所為ト看做サヌ又違白書ノ署名ヲ取ル為メニ之ヲ
各人ニ配致スルモ亦然リ

(八)今ノ行賣ノ方法ニ用イテ職工場就中田舎ノ白々ニ分付シタル各種
ノ印刷文書ヲ調査スレハ今八百六十四年ニ至リテハ大約二千萬數ニ
達シ又今八百六十七年ニ當リテハ大約三千七百萬數ノ多キニ達シタ

リ(今八百六十八年三月三十一日現在)

今八百五十四年ニ在リテハ佛蘭西全國ニ分付シタル著作ハ大約七
千數ニ達シ而シテ各著作ノ原本平均二百部ヲ以テ之ニ乘メレハ總計
百四十萬本ニシテ是レ佛蘭西全國ニ傳播シタル者ト知ル可シ(曆書ノ

印刷ハ此外ニ在リ而シテ其場本ハ大約四百萬ヲ算スル云フ

貨物行商 (一) 貨物行商トハ

ポール、ジュイルラー論

貨物行商 (二) 貨物行商トハ凡ソ零賣ニ供スル商号ヲ都市及ヒ田舎ニ

搬列シテ販賣スル商号ヲ謂フ

(二十七百九十一) 三月三日ノ法律ヲ頒布マシテ以來貨物行商ノ職業ハ

自由ノ職業ニ歸セリ然レモ此商業ニ本猶ホ他ノ商業ノ如ク營業後シ

納税マ可ク而シテ各個特別ノ制限ヲ受ク可ク者トモ余ハ今下文ノ各

項ニ於テ其制限ノ要領ヲ設テセシ

(三) 何人クハ其間ハモ烟草ヲ行賣スルヲ得ス若シ法禁ヲ犯シテ行賣ス

ル者アレハ之ヲ逮捕シ其烟草及ヒ運搬器具ヲ没収シ且ツ之ニ對シテ

三百フラン以上一千フラン以下ノ罰金ヲ科徴ス(十八百十六年四月二

二条)

在ソ烟草ヲ行賣スル犯人ヲ逮捕シ而シテ其犯人ノ若シ才色ニ住居ヤ

サル者ニ係レハ之ヲ司法警察官ノ在所ニ引致シ司法警察官ハ之ヲ管

轄裁判官ニ送付マ若シ犯罪者ノ其證人ヲ立ラ、裁判所ノ召喚ニ應マ

ルヲ保證シ且ツ罰金ヲ納納スルヲ保證セハ之ヲ放釋スルヲ要

ス

(四) 又何人タルラ問ハヌ骨牌ヲ行賣スルヲ得ス若シ此制禁ヲ犯セハ

其犯者ヲ一月ノ禁錮ニ處シ其骨牌ヲ没収シ且ツ之ニ對シテ一千フラ

ン以上三千フラン以下ノ罰金ヲ科徴ス再犯ノ場合ニ在リテハ其罰金

ヲシテ三千フラン以下ラシムルヲ得ス(十八百十六年四月二十人日

百六十九

(五) 凡ソ飲料物ヲ行賣スルハ飲料物專賣特許狀ヲ請受スルヲ要ス飲

料物行商ハ此飲料物專賣特許狀ヲ請受スルニハ「エクトリートル」以

下ノ分量ノ零賣ニル飲料販賣商ノ零賣税ヲ納致セサル可カラズ

(六)金銀器物ノ販賣ニル行商ハ一邑ニ入ルニ際シ其金銀器具ノ賣付シ
クル金銀製作者ノ代價計算書ヲ奉呈シ邑長ニ出シセサル可カラズ此
ニ於テ邑長ハ其金銀器物ノ商標ヲ検査ス若シ金銀製作者ノ代價計算
書ニ有ラス者ハ政府ノ捺印ヲ釘セサル金銀器物邑長之ヲ押勒スル
ヲ得可シ

(七)地方警察権ハ行商ノ古衣物ノ行賣マハシ監視スルノ権限ヲ有ス是
ヲ以テ地方警察権ハ傳染病ノ流行スルニ當リテハ疫病ニ罹リシ患者
ノ使用シタル衣物ノ行賣ヲ禁止スルヲ得可ク又若シ適當ナルト思量
スル場合ニ至リテハ一切ノ衣物ノ行賣ヲ禁止シテ豫防ノ措置ヲ施行
ス

(八)凡ソ行商ハ定額税ヲ賦課セラルル者ナリ包捆ヲ負擔スル行商ニハ

十トララシノ定額税ヲ課シ商呂シ獸畜ニ駄載スル行商ニハ四十トラ
ラシノ定額税ヲ課シ一馬ヲ駕スル車輛ヲ以テ商呂ヲ運搬スル行商ニハ
六十トララシノ定額税ヲ課シ二馬ヲ駕マハ車輛ヲ以テ商呂ヲ運搬スル
行商ニハ百二十トララシノ定額税ヲ課ス此外行商ノ住居スル家屋ノ房
錢十五分ノ一ナハ比例税ヲ課ス

(九)巴里府ニ至リテハ凡ソ行商ノ營業シキカレト欲スル者ハ先ツ其住
居スル地方ノ警察使ニ請ヒテ證狀ヲ受領シ而ル後ニ之ヲ州長ニ呈致
シ州長此證狀ヲ檢閲シテ之ニ履歷證狀ヲ交付ス

對照行政法

歐洲各國ノ行政法ヲ按ズルニ大抵行商ノ營業ニ對シテ制限ヲ加ヘ
サルハナシ英國ニ於テ制定セラルル百七十年ノ買取商規則ニ據レ
ハ凡ソ行商ハ郡警察長ノ署名スル證狀ヲ帶持スルヲ要シ而シテ其

證狀ニ指定スル區域内ニ非サルハ高品ヲ行賣スルヲ得ズ若シ他ノ
地方區域同至リテ行賣スルハ其地方區域ノ警察官ニ請ヒテ其帶
有スル證狀ノ接認ヲ受ケサル可カラズ其警察官ノミシ認接スルニ
ハ六トニコリノ費用ヲ徴収ス獨逸ニ在リテハ往時行高ニ殆ク所ノ
法律ハ甚ク嚴刻ナリト雖モ千八百六十九年ノ行商法律ヨリテ頭ハ
之ヲ寬ナラシメリ然レモ或種ノ需用物品ニ至リテハ依然之レニ行
賣スルヲ禁ズ今其種類ヲ舉ケレハ飲料物、古衣物、古床具、線香、寶金
屬、骨牌、槍會票、各種ノ信券、火藥、爆烈藥、藥劑及ヒ毒藥是ナリ

食用品 (食料物ノ數目ヲ考觀マ可シ)

(一) 農業會ハ農夫及ヒ地主ノ組織スル會社ニシテ其目的ハ相
共ニ耕作ノ方法ヲ討究シ及ヒ瘠瘠ヲ懸ケテ以テ改良方法ノ實施ヲ振
勵スルニ在リ

(二) 農業會ノ起源ハ千七百八十五年ニ溯リ是レ實ニ佛蘭西王立農業會
社ノ創設スル者ニ係リ蓋シ佛蘭西王立農業會社ハ巴里總管バム
エー、ド、（此ノ會社ハ總管區域ノ總管也）ニ有ニ、徵稅區域ヲ幾多ノ州區域ニ小方ニ而シテ一州
區域毎ニ一所、農業會ヲ置キ巴里徵稅區域ノ如キハ十所、農業會ヲ
置ケリ

(三) 農業會ハ獨リ巴里區域内ニ於テノミ之ヲ設置シ而シテ其功用ヲ見
スル甚ク大ナリ然レモ佛蘭西王立農業會社ヲ廢スルト同時ニ之ヲ廢
シ爾後佛蘭西王立農業會社ヲ復設シタルニ農業會ニ至リテハ之レヲ
復設セサルニ似タリ第一帝國政府ノ時代ニ在リテ其存立ノ軌迹ヲ視
ルニ中興王朝ノ末季ニ至リテハ唯十所ノ農業會、存スル有ハシ見
ルノミ然レモ千八百三十年以來ハ頓ニ此施設ヲ擴張シ今日ニ在リテ
ハ數ニ五百二十四所、農業會ヲ設置スルニ至ル其之ヲ設置セサル者

(四) 農業會ハ本來自由ノ施設クリ故、唯其會則シ州長ニ呈出シテ以テ
 其認可シ終ハノ一規約ニ存スルノ外ハ復他ノ規約ノ之レシ制限マハ
 有ラズ其管轄區域クハ一部州ニ在リテハ大抵一縣ニ跨涉シ「セー」又「エ
 フ」又州ノ如キハ一部若クハ數郡ヲ包括シ又「ゼー」又「エ」又「フ」又州ノ
 如キハ全州ニ統管ス又其經費豫算資金ハ會員ノ分頭金及ヒ農商務省
 ノ補助金ヲ以テ之ニ充ツ時ニ可ハ州費ヲ以テ之ニ補助マハ有リ農務
 省ノ資金若クハ州費ヲ以テ農業會ノ經費ニ補助マハ場合ニ在リテハ
 農商務省若クハ州長ハ預メ其補助金ノ使用ニ指定ス是レ通常費用高
 敷ノ蓄育方法ヲ改良シ秣草播種ノ事業ニ擴張シ若クハ灌溉及ヒ疏水
 ノ工事ニ創興スハ等、成績ニ酌賞スル費途ニ使備セシムル者タリ

(五) 農業會ニ於テハ年報書ヲ録製シ會長之ニ署名シ而シテ州長ニテ授
 認シテ其意見ヲ附記シ以テ之ヲ農商務省ニ送呈ス此年報書ニハ其農
 業會ノ農業獎勵ノ名義ヲ以テ領受シタル補助金使用ノ決算ヲ記載ス
 故ニ其使用ノ方法ヲ覽テ可ハ補助金ノ支給ヲ維持シ或ハ其支給ヲ停
 廢ス凡ソ補助金ノ數額ハ農業會ノ資本ノ幾近ト其管轄區域ノ廣狹ト
 其功用ノ大小トニ應ジテ異同アハ者トス

エゼー又「フ」一識

(調査會委員會議會詳) (一) 調査會委員會議所、及ヒ會議ハ凡ソ一國ノ
 行政事務ヲ變換スル職員、會体ナリ此各種ノ會体ハ本來自少其性質
 ヲ異ニスレ雖モ實際ニ在リテハ常ニ再ク之レヲ區別スルニ非ラズ蓋
 シ或ハ深ク其意義ヲ尋釋マシテ之ヲ濫リニシラ用フハニ由リ或ハ政体
 ノ組織ヲ變更スルニ由リ又或ハ一官制ノ組織ヲ變更シテ而シテ其會
 体ノ名称既ニ事實ニ称ハサルヲ致スニ由ルナリ

(二) 旧王朝、時代ニ五リテハ「コヤシブル」即チ會議所ナル文字ニ使用スルニ集合ノ意義シテ之ヲ或種ノ民事若クハ
裁判所ニ冠セシメタリ故ニ國庫會議所、會計検査會議所等、名称ニ存スル有リ此等、會議所ハ或ハ常設ノ者ニ係リ或ハ臨時施設ノ者ニ係リ而シテ皆其會議シ密閉ニタリ今日ニ在リテハ裁判所、分司ニ稱シテ「コヤシブル」ト謂フ故ニ「コヤシブル」デ、ミーズ、カキエーサヨヒ「判事局」ト謂ヒ又「コヤシブル」デ、ハケート「出訴局」ト謂フ又「コヤシブル」ナル文字シテ公署人、規律ニ維持スル一種、會議ニ施ス有リ故ニ「コヤシブル」テ、ノ、テール「證人細言會議」「コヤシブル」デ、ザウーエー「代書人細言會議」「コヤシブル」デ、ジユイッ「工」(裁判使吏細言會議)及ヒ「コヤシブル」サレゲカル、デ、ザビヤレド、シヤシ「工」(更換經紀人細言會議)ノ設置スル有リ千八百一四年ニ至リ上下兩議院内、各部ニ稱スル「コヤシブル」シテ「ク」リ「雖」エ「コ」マ「エ」ブル、デ、デヒエ「代議士院」ノ如キハ特ニ便宜キヲ得サルヲ變リ又特別ノ事務ヲ審議スル或種ノ會議ニ冠スルニ「コヤシブル」ノ名号ヲ以テス即チ「コヤブル」ド、コンメルス「商法會議所」及ヒ「コヤシブル」コシシユルタチーウ、デ、ザール、エ、マニユ「フ」ク「エ」ト「ル」(工藝製造諸問會議所)ト稱スル如キ是ナリ此類ノ施設「コヤシブル」ナル文字ニ冠スルハ本ト以テ和語、「カメラ」ナル文字ノ意義ニ從ハルナリ蓋シ其初メ馬耳他府ニ於テ此文字ニ使用シ其後商工業、繁盛ナル各都市ニ於テ之ヲ使用シタリ

(三) 調査會ナル文字ハ英吉利語ノ「コミチー」(收誌、出典ハ「拉國語」)「コミ」ト「ル」ナル文字ニ存スナル文字ニ由來ス是レ蓋シ前古紀ノ末季ニ於テ我カ佛國ニ代議制度ヲ建ツルニ當リ英語ヲ借用シタル例証ノ其一ト爲マキ七百八十九年立憲議院ニ於テ本院事務、大別テハ「對」當「シ」テ

議實の教部ニ分チ以テ各々其管轄事務の調査セシムル定制ヲ立ツル
ニ際シ始メテ此調査會ナル文字ヲ使用セリ予七百九十三年ニ在リテ
ハ政府の組織ニル各種の會付ヲ統スルニ調査會ナル文字ヲ以テ又
予八百四十八年ノ立憲議院ニ於テモ亦同ク前代ノ立憲議院ニ倣ク
テ各部ノ調査會ヲ設置セリ然レ氏通常此調査會ナル文字ハ以テ常設
ニ係リ且ツ議員ノ寡數ニシテ兩シテ審議ニ密閉スル會議ニ施スル猶
ホ「シヤニ」ナル文字ヲ使用スル定例ノ如ク凡ソ調査會ノ職務ハ行
政官ノ之ニ諮問スル事件ヲ調査シ以テ詳々其意見ヲ開陳スルニ在リ
工藝製造諮問調査會、陸海軍諮問調査會、防衛諮問調査會及ヒ警察諮問調
査會ノ如ク即チ是レナリ

四 本頁ナル文字ノ本義ハ以テ一人若クハ數人ノ或種ノ職掌ヲ行フ為
メニ負擔スル任務ヲ謂フニ在リ是ヲ以テ往々對稱委任狀ナル文字ト

同意義シ以テ此手負ナル文字ヲ使用スルナリ有リ又此ノ裁判所ノ
裁判所若クハ見裁判官ニ對シ或ハ地郡ト豫審裁判官ノ地郡ノ豫審裁
判官若クハ地郡裁判官ニ對シ若クハ保證人ヲ出ス可キ人若クハ誓詞ヲ
立ツ可キ人若クハ誓詞ヲ為ス可キ人ノ住居地甚ク遠隔ナレハ其保證
人ヲ領認シ若クハ誓詞ヲ聽定シ若クハ證人ノ證書ヲ聽定シ若クハ事
實ノ疑問ナルトシ本托スル為メニ發送スル請求書ヲ統シテ代務委託
書ト謂フ又領命狀(職掌狀)ト統スルモ亦同一意義ニ出ツルナリ又遂ニ
此意義ヲ擴充シテ他ノ二者ニ使用ス即チ第一ニ一人ニ或種ノ職掌ヲ
委任スル辭令書ヲ謂フ之レヲ例ヤハ欽差大使ニ交付スル^辭書若クハ
幼年職工監督官ニ交付スル辭令書ノ如ク第二ニ同一職掌ヲ執行スル
數人ノ會付ヲ謂フ是レ所謂手負ナリ凡ソ手負ハ一事ノ處辦ニ任スル
為メニ一時假リニ之ヲ設置ス例ハ立法議院若クハ州會ニ於テ手負

ヲ設ケ以テ或種ノ問題ヲ調査セシメ其意見ヲ報告セシムルハガ如キ又
行政官衙ニ於テ委員ヲ設ケ以テ一事ヲ調査セシメ若クハ一事ノ探査
ヲ行ハシムル如キ是ナリ又凡ソ委員ヲ設ケテ永續業務ノ事務ヲ任セ
シムル有リ其性質クハ或ハ之ヲ明認スル有リ之ヲ例セハ常置院閣評
價委員ノ如シ又或ハ之ヲ默認スル有リ之ヲ例セハ訓導委員、鐵道事務
委員若クハ海軍老邁院上等委員ノ如シ又凡ソ委員ノ員數ハ其擔任ス
ル職務ニ應ジテ異同アリ然レバ二十人ヲ超ユル如キハ甚ク稀ナリ凡
ソ委員ノ職務ハ通常猶ホ調査會ノ職務ノ如ク特別ノ問題ヲ審議シ詳
シ其意見ヲ報告シ若クハ平常ノ事務ヲ公告スルニ存ス燈明臺委員、演
劇場委員及ヒ連合工作委員ノ如キハ即チ平常ノ事業ヲ報告スルノ職
務ヲ有スル者トス然レバ或種ノ委員ハ其職務ノ異ニシテ凡ソ即チ
公立建造物ヲ管理スル職務ヲ有スル者アリ負院管理委員ノ如キ是レ
ナリ又或ハ公立建造物ヲ監視スル職務ヲ有スル者有リ生存得益會社
委員ノ如キ是ナリ又邑委員ヲ設ケル場合アリ是レ邑會ニ解散シ若ク
ハ其會議ヲ停止スルニ當リ一時之ニ代リテ其職務ヲ執行ス又時有リ
テハ以テ委員ナル文字ノ意義ヲ以テ局ナル文字ニ換ヘテ之ヲ使用スル
コトアリ

(五)凡ソ會議ナル文字ハ以テ議員ノ領ル數多シテ而シテ其職務ノ性
質ニ從ヒ或ハ公開シ或ハ密閉スル常設會議ヲ總稱ス又凡ソ會議ハ或
種ノ事件ヲ審議シテ意見ヲ開陳セシムル為メニ設置スル者常ニ多キ
ニ居ル而シテ特別ノ事件ヲ審議スルニ付スル者アリ即チ農工商上等
會議、如シ或ハ或種ノ工事ヲ審議スルニ付スル者アリ即チ海軍將官
會議、軍隊衛生會議、中央道路橋梁會議及ヒ民用建造物會議、如シ或ハ
或種ノ常設會議ニシテ行政官ノ諮問ニ對シ意見ヲ開陳スル職務ノ外

別ニ監察、職務ヲ執行スル者アリ之ニ例セハ中央監獄會議、文學會
議、如シ或ハ財務、職掌ヲ執行スル者アリ之ニ例セハ寺院用度會
議、軍團會計會議、如シ夫レ各州、州會、植民地、民會、各郡、郡會、及
各邑、邑會ニ至リテハ其擔任スル所ノ職務甚ク多種ニシテ或ハ諮問ノ
事務ニ涉リ或ハ行政ノ事務ニ涉リ或ハ立法ノ事務ニ涉ル有リ或ハ又
裁判、推理ヲ有スル會体ニシテ會議ノ名号ヲ冠スル者尠カラズ之ヲ
例セハ陸軍裁判會議、陸軍覆審裁判會議、工業裁判會議、代官人組合懲罰
會、如キ是ナリ又各州、州參事署及植民地ノ内局會議、如キハ行
政官ノ諮問ニ應ジテ意見ヲ開陳スルノ外別ニ行政詞訟事件ヲ裁判ス
ルノ職務ヲ有ス若シ最上ノ地位ヲ有スル會体ニシテ此會議ナル名号
ヲ冠スル者ヲ舉ケハ「ゴーンセイユ、デグ」(參議院)是ナリ夫レ參議院ノ職
掌ナル其種類亦モ夥多ナリ故シテ參議院ハ凡ソ上文ニ解説セル會
議ノ固有スル職務ヲ舉ケテ之ヲ包括スル者ト謂フ可シ

スミット識

工藝製産諮問調査會 (一)凡ソ行政官ノ工業ノ進歩ヲ助成シ若クハ實
買ノ誘取ナキシ保存スルニ為メニ必要ナル措置ヲ按定シ或ハ其措置
ヲ實地ニ施行スルニ當リ科學上ノ問題ニ過着ミ而シテ專門ノ學科ヲ
修メ若クハ製造所ノ經濟ニ慣熟スル者、輔翼ヲ得サレハ其問題ヲシ
テ渙然氷釋ニ歸セシムルヲ能ハサルヲ往々之レ有ルヲ見ル千七百九
十一年十月十六日ノ布告ヲ以テ諮問調査會ヲ設置シタルハ蓋シ之ヲ
コレ也、如キ問題ヲ調査スル職任ヲ行ハシメニシテガ等ナリ千七百九十
一年ニ於テ始メラ此會ヲ創設スルヤ之ヲ工業製造諮問局ト謂ヒ千七
百九十三年ニ至リ之ヲ工藝技術審査局ト謂ヒ千七百九十九年ニ至リ
之ニシテ諮問局ト云ヒ千八百六十五年ニ至リテハ之ヲ工藝製造諮問調査會

ト称セリ此工藝製造諮問調査會ハ其創設以來屢々我カ佛國ノ制度ヲ
變更セシニモ拘ハラズ常ニ之ヲ維持シ而シテ我カ人民ノ漸次事物ヲ
改良シ若クハ發明スル志氣ヲ興起シテ以テ一國ノ工業ヲ誘導スルニ
從ヒ歲ニ日ニ其管轄事業ノ範域ヲ擴張スルニ至レリ

(二)工藝製造諮問調査會ハ唯々農商務卿ノ之ニ諮問スル事件ヲ審議シ
ラ其意見ヲ開陳スルニ過キズ

其最モ重要ナル事業ハ工業若クハ商業ニ関スル法律規則ヲ制定シ開
後法律ノ施行若クハ改正ニ関スル問題ヲ調査シ及ヒ工業ニ使用スル
器械若クハ製造ニ使用スル方法ノ良否得失ヲ評量スルニ存ス

又度量衡製作人^{ノ若}度量衡ノ模型ヲ發明シ而シテ千八百三十九年四月
十七日ノ布告ニ掲載セル度量衡ト其模型ヲ異ニシ而シテ官有ノ検査
ヲ受テ且ツ官府ノ鈔印ヲ求ムルニ必要ナル規程ノ是ハル有レハ乃チ

工藝製造諮問調査會ヲシテ之^ニ々々審查セシム若シ此發明ニ對シテ發
明准許狀ヲ付與ス可キカ將タ付與スヘカラサルカ此ノ如キ疑問ノ生

ズルニ當リ若クハ既ニ發明准許狀ヲ請得シタル發明者ノ其專賣特許
ノ年限ヲ延長^スニ^テ請求スル場合ニ當リテ工藝製造諮問調査會ニ

諮問スルシ要ス又行政官ノ或種ノ物品ノ性質ヲ明ニシ且ツ其使用ノ
多少ヲ知悉セシト欲ムル場合ニ至リテモ亦此工藝製造諮問會ニ諮問
スル有ル可シ

若シ一都市ノ其屠場ヲ建設スル請願及ヒ人身ノ健康ヲ傷害シ危險シ
致シ若クハ不便ヲ生ス可キ建造物ヲ築設スル請願ニ関スル州長ノ裁
決ニ對シ關係者ノ控訴スル場合ニ在リテハ工藝製造諮問調査會ニ諮
問シテ其意見ヲ開陳セシム又此種ノ建造物ノ類別ニル定則ヲ改正シ
若クハ他種ノ建造物ニ此種ノ建造物ニ部入スル場合ニ在リテモ亦之

諮問スルヲ容ヌカニナラヌ或種ノ製造所ニ在リテハ往々其四隣ノ
異訟ヲ起スヲ之レ有リ此ノ如キ場合ニ於テモ工業製造諮問調査會ハ
行政官ノ通知ヲ得テ其申訴ノ果シテ條理ヲ存スルヤ否ヲ甄察ス健康
有害建造物ノ部門ヲ參觀ス可シ

又工業用ノ器械ヲ輸入スルニ當リ其輸入税ノ免除ヲ請願スル事件ノ
如キハ未タ曾テ工業製造諮問調査會ノ審査ニ付ヤサルハ有ラス又税
關ノ事務ヲ以テ之ニシ言ヘハ関税未課ノ某物品ヲ輸出スルニ當リ之
ノ関税既課ノ某物品ニ比視シラシラ関税ヲ課スルカ又如何ナル方法
ヲ用フレハ能ク或種ノ物品ヲ鑑別シラ変造ノ企端ヲ防クヲシ得ルカ
此類ノ問題ハ却テ是レ工業製造諮問調査會ノ審議ニ付スルヲ要ス
工業製造諮問調査會ノ行政官ノ諮問ヲ受クル場合ニ在リテハ何等ノ
事件ニ関スルヲ問ハス其必要ナリト思量スル採査ヲ施スヲシ得可シ

三十八百六年ニ於テ工業製造諮問調査會ヲ改編スルヤ「モラー」ル「コレ
テ」及「ヒ」モ「シ」ブル「フイ」エ「ト」ノ「三」氏「ヲ」以「テ」其「會」員「ニ」任「ジ」其「後」二「年」ヲ「經
テ」ア「レ」バ「ール」氏「モ」亦「其」會「員」ト「ナ」リ「千」八「百」十「年」ニ「迄」ヒ「テ」ア「ナ」ール「ル」ガ「リ」
■「サ」ツ「ク」ノ「ニ」氏「モ」亦「其」會「員」ト「ナ」リ「其」後「數」年「ヲ」經「テ」ア「ラ」ゴ「レ」ヨ「リ」ヨ「リ」
「シ」及「ヒ」「サ」ウ「ウ」ール「ル」ノ「三」氏「モ」亦「均」コ「ク」其「會」員「ト」為「レ」リ「今」日「ニ」在「リ」テ「ハ」
其「會」員「ハ」之「ヲ」十「八」人「ニ」限「定」シ「而」シ「テ」參「議」院「科」学「大」学「校」道「路」橋「梁」礮「山」
工「師」及「ヒ」商「工」業「者」ノ「中」ニ「就」キ「國」長「之」ヲ「授」任「ス」
工業製造諮問調査會ニハ一人ノ書記員ヲ置キ管轄省卿之ヲ任免ス此
書記員ハ會員ト同ジク討論ノ権理ヲ有ス

工業製造諮問調査會ハ一週間少ナクモ一會ハ其會詳ヲ開クヲ要ス出
席會員ハ毎會十五アラヒノ俸給ヲ領受シ一年五十會ノ會議ニ出席シ
クル會員ハ全年ノ俸給千五百アラヒヲ領受シ而シテ書記員ハ俸給

領受ス

スミット識

(公同衛生部) 同調査會 (公同衛生ノ數目ヲ參觀ス可シ)

砲兵調査會 騎兵調査會 參謀部調査會 防衛部調査會 步兵調査會 憲兵調

査會 是等ノ調査會ハ總ニ之ヲ陸軍省内ニ設置ス

(差金會社) (一) 商法第二十三條ニ於テ差金會社ノ定解ヲ下シテ曰ク差

金會社ハ責任ヲ有スル一人ノ社員若クハ連帶ノ責任ヲ有スル數人ノ

社員ト供進人若クハ供進社員ト稱スル一人若クハ數人ノ資本主トノ

間ニ契約ヲ締結シテ設立スル會社ヲ謂フト凡ソ差金會社ハ一人ノ責

任ヲ有シ若クハ數人ノ連帶責任ヲ有スル社員ノ名義ヲ以テ之ヲ管理

ス此責任ヲ有スル社員若クハ此連帶責任ヲ有スル社員ヲ稱シテ管金

人(理責負)ト謂フ夫 ■ ノ供進人クル社員ハ必義シ本社ノ名義ニ加表

スルヲ得ス

(三) 管金人クル社員(理事負)ハ其會社ノ義務ニ無窮ニ負擔スルヲ要シ且

ツ支ニテ會社ノ損失ヲ負擔スル責任ニ限制ヲ置ク如キ契約ヲ締結ス

ルヲ得ス之 ■ 及ミテ供進人ノ會社ノ損失ヲ負擔スルハ其既ニ供

出シ若クハ向後供進ス可キ資本金ヲ擧ケテ之ニ充ツルニ過キサルノ

ニ若シ夫シ資本主ハ會社ノ事務ヲ管理スルヲ得ス又會社ノ職員クル

ヲ得ス若シ此定規ニ違反スル有シハ管金人クル社員ト共ニ連帶ノ義

務ヲ負ヒラ以テ本社ノ負債ヲ償却シ或ハ其他ノ義務ヲ盡サハル可カ

ラ

(三) 差金會社ノ資本ハ之ヲ株券ニ分ケテ以テ募集スルヲ得可ク又其

株券ハ無記名株券シ以テ之ヲ發行スルヲ得可シ

(四) 差金會社ヲ組織スルニハ官府ノ許可ヲ受クハトシ得ス又之ヲ

之ヲ組織スルニ私契約ヲ用ヒ若シハ公契約ヲ用フルハ其便宜ニ委ス
差金會社ノ組織ニ関シテ商法ノ規定スル制規ハ千八百五十六年ヲ以
テ之ニ改正シ加ヘ爾後又千八百六十七年七月二十四日ノ法律ヲ以テ
更ニ之ヲ改定シタリ故ニ讀者ハ此法律ニ就キテ覽ル可シ

高業 (一) 旧王朝時代ノ歴史ヲ翻閱スレハ我カ佛國歴代君主ノ致シ汲
キトシテ一國ノ商業ニ振興スルニ務メタルノ事蹟ヲ載スルハ吾人ノ
知ル所ナリ古昔以來我カ王朝ハ民業ノ一部タル故商業ニ保護セシ
シ公告シ降ニ革命ノ日ニ至ルマデ未ダ曾テ一日モ其進歩ヲ謀ルニ怠
ル有ラズ然リ而シテ革命政府ハ旧慣ノ商業制度ヲ廢シ佛國人ニ對ス
ルトシテ問ハズ各自ノ擇ム所ニ任セテ商業ヲ營為スルノ権理ヲ付與シ
以テ遂ニ商業保護制度ノ目的ヲ達セシムルニ至シリ(千七百九十一年
三月二十九日)
法律ノ然レハ凡ソ人々ノ権理ニハ必ズ對當義務ノ存スル有ルト一般

ニ政府ノ商實ニ對シテモ其商業ヲ保護シタルニ由リ商實モ亦國內ニ
在リテ自己ノ利益ト共存マル他人ノ利益ヲ尊重シ社會ノ義務タル租
稅ヲ納致シ且ツ公益上ノ要望スル義務ヲ負擔セサル可カラズ蓋シ政
府ノ社會ヲ統治スルハ其人々ニテ互相ノ義務ヲ盡カシムルガ為メ
外ナラサルナリ

(三) 國情ノ安固ヲ持シ社會ノ秩序ヲ整フルハ是レ商業ノ尤モ須要スル
所ニシテ而シテ商業ニ保護スル良計ハ蓋シ是ヨリ過キバ莫シ故ヲ以
テ內國ニ在リテハ警察權ノ實ニ法律ヲ依リテ復更モ其保護ニ怠ラス
以テ善ク人身ト財物トノ安全ヲ保護シ商品ノ妨礙ヲ受ケスモテ普ク
四方ニ流通スルヲ保證シ且ツ通商往來ノ便利ヲ害スル重罪犯若シハ
輕罪犯ヲ制壓シテ以テ公衆ノ信用ヲ擊ツヲ容シ外國ニ在リテハ外交
官及ヒ領事ハ佛國商人ノ之ニ求ムル保護ヲ假シ又軍艦ハ商船ヲ保護

し、軍用ニ遣ハシメ、搭乗人及ヒ搭載物ヲ援護シテ其費用ヲ徴セ、
戦時ニハ聯合ノ商船ヲ護送シ海賊ノ船舶ヲ撃敗シ且ツ局外中立国ノ
船舶ヲシテ我國ノ禁令ヲ遵守セシムルヲ要ス(千八百二十七年十月三十一日ノ布告)
(三)又行政権ハ貿易商用債券、商事裁判管轄及ヒ其他商業上ノ施設ニ関
スル法律ヲ草定シテ立法院ニ提出シ既ニ立法院ノ以種ノ法律ヲ議定
シテ之ヲ頒布スルニ至レハ之ヲ施行シ又凡百ノ意見書ヲ收集シ新奇
ノ事件ヲ摘録シ且ツ既設ノ法律ニ必要ナル修正ヲ加ヘテ更ニ立法院
ノ議決シテ審議スルニ移ノカニ可カラズ實ニ行政官ハ新議ノ権力ヲ分
有ニ嘗テ商法ヲ修正シ関稅法ヲ改正ヲ加ヘ(千八百六十年)及ヒ會社法
律ヲ制定シタル(千八百六十七年)ハ蓋シ行政官ノ新議ニ出ツル者タリ
(四)又行政官ハ外国ト通商条約ヲ締結シテ外国貿易ノ便利ヲ計リ且ツ
外国人ノ偽造ヲ制シ又植民地ヲ拓キ銀行支店ヲ設ケ或ハ大洋ノ漁業
及ヒ沿海ノ航路ヲ勸奨シテ以テ商業ヲ保護ス夫レ港埠及ヒ河川ノ工
作ヲ興シ其警察ヲ張り燈明臺ヲ設ケ水路標ヲ樹テ水路嚮導人ヲ置キ
運河ヲ鑿リ燕支飛脚船、線路ヲ延ヘ鉄道及ヒ電線ヲ架設スル如キハ
是レ通商往來ノ頻頻ニシ貨物ノ運送ヲ加増スル所以ナリ商法會議所
其他各種ノ諮問會議所ヲ設ケ之ニ加フルニ上等諮問會議所以テス
ルハ是レ商業ノ利害ニ關係スル問題ヲ審査スルニ精甚且ツ公平ヲ盡
スル保證スル所以ナリ貨物寄託庫ヲ設ケ貨物貯卸場ヲ築キ遺地保證
狀ヲ與ヘ課額約定法ヲ興スハ是レ課稅ヲ軽減シ且ツ納稅ノ便宜ヲ謀
ル所以ナリ大都市ニ商人會場ヲ設ケ全国各地方ニ大小ノ市場ヲ開キ
度量衡ヲ畫一ニスルハ是レ貿易ノ便利ヲ謀ル所以ナリ兌換經紀人其
他賣買間人ヲ置クハ是レ貿易ノ活動ヲ助ケ且ツ其誠實ナルヲ保證
スル所以ナリ若シ夫レ各種ノ主税吏員ヲ配置スルハ其責ニ在リテハ

金銀料塊の試験せしめ某處に在りてハ貨物ヲ權度せしめ又某處に在
りてハ高品、交付ヲ檢證し若クハ其管守ヲ保證せしめル所以アリ此
他商用建造物ヲ特設シテ商事ヲ研究し若クハ海外ニ盛行シテ貨物輸
販ノ要惠ヲ探察スル事業、如キ之ヲ補助シテ以テ獎勵スルモ亦是し
商業ヲ保護スル方法ト謂フ可シ

(五)此、如ク行政官、一方に在りテハ法律、指定スル商業自由ノ原則
ヲ擴張スルモ一方に在りテハ之ニ對シテ公用ノ秩序及ヒ治安ヲ保持ス
ルニ必要ナリト思量スル制限ヲ加フル有リ是故ニ
銃器等軍用物品ヲ
佛國に輸入シテ之ヲ販賣スルハ法律、禁スル所トス又外國人ハ佛國
船舶、全權所有主ト爲ルコト得ス若シ政府、徵收ニ充テサル可カラズ又
在リテハ商船、所有主ハ其水主ヲ政府、徵收ニ充テサル可カラズ又
信書、運送電信、發送ハ總テ政府、權占ニ屬シ旅客ヲ乗載スル船舶

鐵道及ヒ馬車ハ特ニ政府、監視ニ屬シ爆裂藥類、運送及ヒ其販賣ノ
如キモ亦然リ

(六)公衆、衛生ヲ保護スルモ亦或種、措置ヲ施サ、ハシ得ズ是レ以テ
疫症ノ流行スルニ際シ檢疫規則ヲ施シ藥劑及ヒ毒品ヲ販賣スルニハ
或種ノ規約ヲ遵守セシメ秘密藥劑及ヒ變造腐敗若クハ有害ノ食料品ヲ
販賣スルヲ禁シ獸疫ノ流行スルニ當リ獸畜ヲ檢視シ疫獸ヲ撲殺シ且
ツ礦泉、水質ヲ檢査シ又凡テ都市ニ在ラハ屠場ニ非ラサシハ食用ノ
獸畜ヲ屠ルコトヲ許サ、ル等是レ公衆、衛生及ヒ治安ヲ保護スル所以
ナリ又官府、檢査ヲ受ケ且ツ其鈔印ヲ釘シタル度量衡ニ非ラサシハ
之ヲ使用スルヲ許サズ金銀製依器物ハ官府、檢査ヲ受ケ且ツ其鈔
印ヲ釘スルニ非サシハ之ヲ賣買スルヲ許サ、ルハ是レ需用品ノ量目
ヲ檢カサルヲ保證シ以テ消費者ヲシテ奸商ノ欺惑ニ罹ラサシムル

所ナリ又書肆彫画商若クハ行商、如キ或種ノ商業ハ公同ノ秩序ヲ擾
リ風俗ヲ壞ルノ影響ヲ生スルヲ保ス可カラサルガ故ニ官府ノ認可ヲ
受ケサレハ之ヲ營ムトシ許サス且ツ特別ノ監視ヲ施スヘキ者ナリ
七) 行政官ハ緊急ノ場合ニ當リ或ハ或種ノ貨物ヲ輸入シ若クハ輸出ス
ルヲ禁シ或ハ課税ノ數額ヲ増減シ或ハ某々ノ税關ヲ取リテ或種ノ貨
物ヲ輸入シ若クハ輸出セシムルヲ爲メニ税關ニ係ル措置ヲ施行スルノ
權理ヲ有ス是蓋シ公同ノ利益ニ謀ルガ爲ナリ是ヲ以テ商賣ハ當ニ其
義務ヲ以テ負擔ス可キ税關ノ定則ヲ遵守マ可キノミナラス猶ホ且ツ
行政官ノ税關ニ施行スル爲メニ制設スル規則ヲ遵守セサルヲ得ス
若シ夫レ商賣ノ負擔ニル租税ハ第一直税及ヒ營業稅第二ニ各種ノ間
税是ナリ今爰ニ此間税ノ種類ヲ挙ケシニ間税貨物寄託税航權稅印紙
稅砂糖稅食塩稅飲料稅運送稅請負稅郵便稅金銀保證稅度量衡稅査稅
通過稅試驗稅私設電信稅商人會所商法會議所費用補助稅保健稅區間
稅從價稅從量稅市場稅屠場稅公路屯止稅公路借地稅河川墾泊
稅河川借田稅海港碇泊稅及ヒ海港借田稅等是ナリ
八) 行政權ノ商賣ニ對シテ施スル措置ハ上文ニ示スル所ノ如ク今之ヲ
約言スレハ其職權タル商賣ヲ維持シ且ツ之ヲ保護シ商賣ノ興業ヲ奮
勵シ商賣ノ社會ノ業務ニ及對セサルヲ保證シ其國家ニ對シテ負擔ス
ルニ應分ノ義務ヲ指定シ且ツ漸次ニ公私ノ富源ヲ増スニ存ス

スミット識

(契約附款) (契約附款ノ題目ヲ參觀ス可シ)

(警察使) (警察ノ題目ヲ參觀ス可シ)

(政府代理官) 凡ソ參議院議員官若クハ其他ノ職官ニシテ下議院若クハ
上議院ニ出席シ政府ノ名義ヲ以テ法律ノ草案ヲ維持スルヲ任スル

者ハ之ヲ称シテ政府代理官ト謂フ

(公費評價人) (一)公費人ハ公務人ノ一人ニシテ其間渉スル職務ハ裁判

所ニ於テ不動産若クハ其他ノ動産信券ヲ公費マシニ當リテ其價直シ評

量スルニ在リ佛國ニ在リテハ第十五世紀以還此職官シ置キ革命変乱

ノ以前ニ在リテハ之ヲ公費審査員ト称シ或ハ評價人ト称ス然ルニ革

命ノ時代ニ迄ヒニ法律(千七百九十年七月二十一日議定二十二月頒布)

ヲ以テ他種ノ公務人ヲ廢スルト同時ニ此評價人ヲ廢止セリ然レ其

後公務人ノ實ニ有用ニシテ故ク可カラサルヲ略リ共和曆第九年(一七

年)トシテ二十七日ノ法律ヲ以テ之ヲ巴里府ニ復設シ又十八百十六年

四月二十八日ノ法律第八十九條ヲ以テ政府シテ凡ソ公費評價人ヲ

置クノ必要ナリト認ケル都市及ヒ其他ノ地方ニハ之ヲ復設スルノ權

理ヲ有セシメタリ此ニ於テ其年六月二十六日ノ布令ヲ發シテ凡ソ始審

裁判所^所設ケ有ル郡首地及ヒ郡廳ヲ設ケ若クハ始審裁判所ヲ置カサル

モ人口五千以上ノ都市ニ在リテハ公費評價人ヲ設置スルヲシ公費

タリ然レ凡ソ爾來此布令ノ指テスル都市ニ於テ蓋ク公費評價人ヲ設置

シタルニハ非ナルナリ

(三)巴里府及ヒ其他ノ大都市ニ在リテハ公費評價人ヲ設置シタルノ効

用實ニ鮮クナラマ若シ夫レ人口ノ寡ナル都市ニ在リテハ公費評價

人ノ其職務ヲ執行スル機會甚ク稀ニシテ隨テ是等ノ酬勞金ヲ收ムル

ヲ得サルガ故ニ公費評價人ノ職務ハ公證人裁判所書記員若クハ裁

判所便更ニシ兼掌ス

獨リ巴里府ノニ公費評價人ノ員數頗ル夥多ナルガ故ニ公費評價人ノ

組合ヲ設ケテ懲罰會議ヲ編成ス其職務ハ組合員ノ規律ヲ維持シ若

シ組合員ニシテ其組合規則ヲ犯ス者アルハ之ニ對シテ懲罰ヲ施ス

ニ在リ（其知事九年四月二十九日ノ領事政府ノ布達）

（三）公賣評價人ハ、授事ノ監視ニ屬シ而シテ始審裁判所及ヒ司法御ハ之ニ對シテ懲罰ヲ施ス

（四）各支鋪ニハ必ズ公賣評價人ノ附屬マハアリ

（五）凡ソ公賣評價人クラシトシテ欲スル候補者ハ、特別ノ規約ヲ充クストシテ受セズ唯年齡満二十九歳ニ達シ後免法律ノ規約ヲ充クシ其住居地管轄區長ノ保佐證狀ヲ請受シテ佛蘭西國民タリ且ツ民権ヲ施行スルノ年限ヲ具スルヲ證明ス可キノミ其公賣評價人ノ職業ヲ修習シ若クハ耐職ノ才カシ證明スル如キハ没シテ法律ノ字スル所ニ非ズ故シ以テ授事官ハ候補者ノ自カラ保證スル耐職ノ材幹ヲ鑒別スルヲ要ス若シ後補者ノ曾テ公務クニ隨ヒテ職業ヲ修習セシテ無ケレハ授事官竊カニ自カラ後補者ノ其職任ニ耐フルヲ保證スルアルノミ

（六）公賣評價人ハ猶ホ他ノ公務人ノ如ク其職任ヲ售リ而シテ其後任者ヲ推選スルヲ得可シ公賣評價人ヲ任命スルニハ司法御ノ報告ニ應ジ同長ノ布告ヲ發ス

（七）公賣評價人ハ其就職以前ニ在リテ保證金ヲ供納セサル可カラズ其金額ハ其職務ヲ執行スル地方ノ人口ニ應ジテ四千アラシ乃至二万アラシノ間ニ等差ス

（八）千八百四十三年六月十八日ノ法律ヲ以テ公務人ヲ設置スル地方ニ應ジテ其收受ノ可キ酬勞金ノ數額ヲ限定セリ其酬勞金ノ一部分ハ乃チ公賣物件ノ價直ニ課收スル比例額ノ半額ニシテ收教額ハ共同貯蓄金庫ニ供納シ而シテ其蓄積金ハ之ヲ同一地方ノ各公賣評價人ニ分付ス又此法律第四條ニ據レハ當ニ公賣評價人ノ酬勞金ヲ起スレ其酬勞金ヲ求ムルヲ得サルノミナラス又其酬勞金ヲ減ムルヲ禁セリ若

此處則ハ其職ノ施行ヲ停止シ再犯ノ場合ニ在リテハ其職
任ヲ罷免ス

海軍辨理局 海軍ノ款目ヲ參觀ス可シ

健康有害房室検査委員 健康有害房室ノ款目ヲ參觀ス可シ

統計委員 統計ノ款目ヲ參觀ス可シ

公同衛生委員 公同衛生ノ款目ヲ參觀ス可シ

公同工作調査連合委員 連合工作ノ款目ヲ參觀ス可シ

軍馬保健連合委員 軍馬保健連合委員ハ之ヲ陸軍省中ニ設置ス
十二年六月十二日ノ陸軍省規則 是レ軍馬ノ飼養及ヒ防疫ニ関係スル問題ヲ審査スル
千八百五

路頭應雇人 一凡ソ公路ニ佇立シテ職業ヲ営ム者ハ然テ邑行政官ノ
監視ニ属ス路頭應雇人ハ即チ其一ナリ殊ニ此路頭應雇人ハ其業体自
カラ徳義上ノ規約ニ遵ハサルヲ得ス是ヲ以テ何等ノ都市ニ於ケルヲ
問ハス路頭應雇人ハ特別ノ規則ヲ以テ之ヲ管制ス凡ソ巴里府内ニ在

リテ路頭應雇人ニ施ス可キ法律ノ其最モ重要ナル制規ハ之ヲ千八百
三十九年七月一日ノ警視總監ノ布達ニ掲載セリ

二路頭應雇人ハ官府ノ下付スル營業准許狀ヲ携持シ且ツ姓名牌ヲ露
帶スルヲ要ス其准許狀若クハ姓名牌ヲ他人ニ貸付スルハ嚴ニ禁止ス
ル所ナリ又此職業ヲ営マント欲スル者ハ豫メ本地方ニ住居スル二人
ノ保証人ヲシテ其徳義ノ缺クル無キヲ保証セシム可ク且ツ其平常
佇立スル場處ヲ指定シテ之ヲ申告ス可シ管轄行政官ノ許可ヲ得スニ
テ其場處ヲ轉移スルハ亦タ嚴ニ禁止スル所ナリ又路頭應雇人ハ公路
上ニ群聚ヲ成ストヲ許サス又何等ノ手段ヲ以テスルヲ問ハス通行ノ
自由ヲ妨阻スルヲ得ス
若シ一人ノ路頭應雇人ノ行政不良ナルカ若クハ徳義ノ缺失有ルヲ
申訴スレハ邑行政官ハ一時若クハ永遠ニ其姓名牌ヲ收奪スルヲ得

可シ

三 巴里府ニ在リテハ演劇場ノ戶外ニ警察推ノ認領ヲ得タル路頭應雇人ヲ置クヲ得可シ此路頭應雇人ハ特殊ナル形状ノ姓名牌ヲ帶ヒサル可カラズ而シテ其牌面ニハ其姓名ト演劇場ノ名号トヲ掲記スルヲ

要ス 千八百二十八年二月十二日ノ巴里警視總監ノ布達

便不便 探査ノ款目ヲ參觀ス可シ

宗徒共存同社 宗教社團ノ款目ヲ參觀ス可シ

共同牧場 邑制ノ款目ヲ參觀ス可シ

邑制ノ款目ヲ參觀ス可シ

刑罰輕減 一 刑罰輕減トハ輕刑ヲ重刑ニ換ヘテ以テ施スヲ謂フ我カ

佛蘭西國ニ在リテハ刑罰輕減ノ權理ハ猶ホ恩赦ノ權理ノゴトク從來政府ノ長官ニ屬シテ而シテ裁判所ニ屬セス是レ我カ憲法ノ成文ニ由

承スル所ニシテ千八百七十一年六月十七日ノ法律第二條ヲ以テ之ヲ

確認シタリ

二 凡ソ被刑人監獄管理委員州長裁判官陪審員若クハ檢事官ハ刑罰輕減ノ請願ヲ為スヲ得可シ

三 刑罰輕減ノ請願書ハ之ヲ司法卿ニ上呈シ司法卿ハ其請願書ヲ原刑ヲ宣告シタル裁判所ノ地方ノ管轄檢事長ニ送付ス是ニ於テ檢事長ハ原刑ヲ宣告シタル裁判所ノ檢事ヲシテ詳カニ事情ヲ具申セシメ而ル後ニ報告書ヲ錄製シ刑罰輕減ノ請願ヲ可否スル意見ヲ付シテ之ヲ司法卿ニ送上ス

若シ被刑人ノ其刑罰ノ宣告ヲ受ケタル地方ノ檢事長ノ管轄外ニ在リテ稍ヤ久シク其刑罰ニ服シタル中ハ此地方ヲ管轄スル檢事長ヲシテ被刑人ノ行狀ノ如何ヲ報告セシムルヲ要ス

シムニシテ、ルリ
ユーズ

シムニシテ

四若レ死刑ヲ宥シテ之ニ換フルニ輕刑ヲ以テスル場合ニ在リテハ其
死刑ヲ宣告シタル地方ノ管轄檢事長ヨリ特別ノ報示書往時ニ在リテ
ハ皇帝ノ敕令ヲ奏スヲ控訴裁判所ニ送付スルヲ要ス是ニ於テ控訴裁
判所ハ死刑宥免ノ請願者ヲ召喚シ以テ刑罰輕減ノ布告ヲ讀示ス此他
ノ場合ニ在リテハ政府長官ノ尋常ナル報示書ヲ以テ刑罰輕減ノ特旨
ヲ通知スルニ由リ司法卿ハ之ヲ原裁判所ニ傳達ス

エ、イウエルネー識

カニニヨリシニ
職工互救社

職工互救社ハ其起源中世ニ在リ蓋シ職工社會ノ此種ノ
會社ヲ設立シタル其目的ハ專ラ技術ヲ改良シ或ハ業作ヲ寬ムル為メ
ニ相擁シテ旅行スルノ便利ヲ謀ルニ存セリ抑モ當時道路ニ在リテハ
盜賊横行シテ旅客其安寧ヲ得ス又都市ニ在リテハ業師制度ノ存立シ
テ職工ノ自由ヲ伸張スル能ハス是レ職工ヲシテ好ミテ此結社即チ之

ニ業作ヲ授ケ之ヲ扶持シ且ツ佛蘭西全國内ノ旅行ヲ保護スル結社ニ
加盟シタル所以ヲ知ルニ足レリ然レ氏以結社タル頗ル奇怪ナル祭式
ヲ奉ケ酒肆ノ主人ニ一大職務ヲ執行セシムルノ規則ヲ設ケ且ツ其夥
伴ノ中ニ於テ分派ヲ為シ互ニ齟齬ヲ生シ常ニ喧爭格闘シテ止マズ是
ヲ以テ此結社タル却テ各自ノ損害ヲ招クニ至レリ是ニ於テ各地方ノ
大法院ハ此秩序紊亂ノ情狀ヲ憂ヒ以テ數之ヲ制壓スルノ措置ヲ施シ
爾後千八百四年ニ至リ政府ハ遂ニ此種ノ結社ヲ禁遏シタリ是ヨリ其
後再レ職工互救社ヲ結成スルヤ政府ハ之ヲ認容シタリト亟ヒ特別ノ
監視ヲ施シ且ツ秩序ヲ紊亂ス可キ所為ニ至リテハ痛ク之ヲ懲懲セリ
顧フニ職工互救社ハ現今社會ノ風俗ト趣旨トニ影響セラレテ其旧態
ヲ改革スルハ蓋シ難キニ非ス然レ氏今日ニ在リテハ業ニ既ニ其存立
スルノ理由ヲ見ル無シト謂フ可シ何トナレハ現ニ互濟會社ノ設ケ有

リテ衆職工ヲ救助スルノ方法ヲ立ツル有リ且ツ之ヲ職工互救社ノ組織ニ比スレハ衆職工ニ便利ヲ與フルノ最モ多ケレハナリ

スミット識

放牧

一、^{ラシバキニ}ルラ^ニ氏ハ放牧ナル文字ニ定解ヲ下シテ曰ク放牧トハ牧地方就中「プロウ」^ス地方ニ於テ他人ノ土地ニ數人若クハ數邑ノ共同ヲ以テ羊群ヲ牧スルノ権理ヲ謂フナリト此文字タル成文法ヲ存シタル地方ニ用フル者ニシテ是レ慣習法ヲ存セル地方ニ使用スル共同牧畜邑制ノ款目ヲ參觀ス可シナル文字ニ對當ス凡ソ放牧ノ地務ハ耕鋤セサレハ牧畜ノ自由ヲ獨リ所有主ノミニ割留セサル土地ニ存セリ若シ夫レ此地務ノ性質ニ至リテハ土地ニ從ヒテ異同アリ是ヲ以テ「ブルゴー」^ニ及ヒ「ウ」^ル地方ニ在リテハ放牧ノ地務ハ即チ人身ニ係リ「プロウ」^ス地方ニ在リテハ其土地ニ係レルヲ見ルナリ

二千七百九十一年九月二十八日議定十月六日頒布ノ法律第四款第一條ノ規定スル所ニ據シハ放牧ノ権理ニシテ若シ唯タ實際ノ事ニ存スル者ハ之ヲ禁止シ獨リ其法律若クハ券契ニ存シ或ハ其年代ヲ詳カニシ難キ古來ノ慣習法ニ依據スル権理ノミ之ヲ行フヲ許可セリ今日ニ在リテハ民法ノ規定スル所ニ據ルニ猶ホ千七百九十一年ノ法律ニ規定スル所ノゴトク放牧ノ地務ハ獨リ土地ニ存シ而シテ券契^ニ存シ若クハ所有名義ノ存スル有ルニ非サレハ之ヲ得有スルヲ許サ、ルハ此他ノ地務ニ異ナラス

三、此地務ニハ隣邑共牧ノ地務ヲ伴フ^テ往々之レ有リ邑制ノ款目ヲ參觀ス可シ隣邑共牧ノ地務トハ隣邑ノ人民相互ニ其牧畜場ニ羊群ヲ放牧スルノ権理ヲ存スルヲ謂フ然レ氏共同牧畜ノ地務ハ常ニ必スレモ隣邑共牧ノ地務ヲ伴フニ非サルモ共同牧畜ノ地務ヲ存スル牧畜場ニ

非サレハ決シテ隣邑共收ノ地務ヲ存スルヲ無キナリ

四 共同收畜ノ権理ヲ行用スル季節ハ通常証契ヲ以テ之ヲ指定スル有
リ然レモ若シ其証契ノ存スル無ケレハ普通法ニ據リテ之ヲ指定ス往
時ニ在リテハ各關係者ノ協議スルニ非サレハ此季節ヲ定ムルヲ得
サリシトモ千七百九十一年ノ法律第四款第八條ヲ頒布セシヨリ以
後ハ縱令テ反對ノ契約ヲ存スル有ルモ買回ノ権理及テ分野經劃ノ推
理ヲ施行スルヲ得可シ

管轄

目次

第一章 汎言ノ管轄 二項

第二章 司法裁判管轄 自三項至八項

第三章 行政裁判管轄 自九項至十三項

目次畢

第一章 汎言ノ管轄

一 管轄ノ文辞タル若シ廣汎ノ意義ニ從ヒテ之ヲ解スレハ則チ職務ノ
文辞ニ同シ又若シ狹隘ノ意義ヲ以テ之ヲ叙スレハ則チ是レ一裁判官
若クハ一裁判所ノ一事件ヲ裁判スル權限ヲ言フ

二 裁判官若クハ裁判所ノ管轄ハ第一ニ事類即チ事件ノ性質ニ隨ヒテ
之ヲ定ム民事商事刑事及チ行政事件ノ如シ第二ニ被裁判者ノ身分ニ
隨ヒテ之ヲ定ム例ハ見役軍人及チ海員ノ一般人民ト別ニシテ一種
ノ裁判管轄ニ屬スルガ如シ第三ニ土地ニ隨ヒテ之ヲ定ム即チ行政裁
判官ノ管轄ハ多クハ土地ノ區域ニ因リテ之ヲ指定スルガ如シ

第二章 司法裁判管轄

三 司法裁判管轄ハ之ヲ區別シテ民事裁判管轄商事裁判管轄刑事裁判

管轄ノ三種ト為スヲ得可シ然リ而シテ此等ノ裁判管轄ハ行政法ニ
関涉スル無キヲ以テ余ハ唯々其裁判管轄ノ何物タルヲ説示スル有ラ
ンノミ

四凡ソ身分所有権後見等ノ如キ人人ノ私益ニ関スル場合ニ在リテハ
其訴訟事件ハ民事裁判所ノ管轄ニ属スルヲ以テ大体ノ原則ト為ス

五凡ソ重罪、軽罪、違警罪ノ如キ法律ニ違反スル罪事ニ係レハ然テ刑事
裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス又通常刑事裁判所ノ管轄ト特別刑事裁判所
若クハ臨時刑事裁判所ノ管轄トヲ區別スルヲ要ス

凡ソ軍人ニ非ス又海員ニ非サル一人ノ犯セル重罪、軽罪若クハ違警罪
ハ若シ特別ノ法律ヲ以テ臨時刑事裁判所ノ管轄ニ属セシムル無ケレ
ハ則チ通常刑事裁判所之ヲ管轄ス此通常刑事裁判所ハ更ニ之ヲ三類
ニ區別ス即チ重罪裁判所ニ於テハ重罪ヲ裁判シ輕罪裁判所ニ於テハ

輕罪ヲ裁判シ違警罪裁判所ニ於テハ違警罪ヲ裁判ス民事裁判管轄權
刑事裁判管轄權及チ商事裁判管轄權ノ各款目ヲ參觀ス可シ

六特別刑事裁判所ハ專ラ陸軍及チ海軍ノ為メニ之ヲ設置ス

陸軍裁判所ハ服役満期帰休ノ軍人ニ非サル軍人ノ陸軍懲罰令ニ違ヒ
若クハ普通法ノ重罪、軽罪、違警罪ヲ犯セル者ヲ管轄シ此他亦チ法律ノ
特ニ指定スル場合ニ在リテハ或種ノ事犯ヲ管轄ス然レモ陸軍裁判所
モ亦チ普通法ノ原則ニ従フヲ要スルニ因リ決シテ法律ノ指定スル場
合ノ外ニ涉ルヲ得ス陸軍裁判所ノ款目ヲ參觀ス可シ

海軍裁判所ノ海員ヲ管轄スルハ猶ホ陸軍裁判所ノ陸軍軍人ヲ管轄ス
ルガコトシ海軍裁判所ノ款目ヲ參觀ス可シ

七臨時刑事裁判所ノ管轄ハ或ハ犯人ノ公限ニ隨ヒ或ハ事犯ノ種類ニ
隨ヒテ之ヲ定ム是ヲ以テ千八百五十二年ノ憲法ニ據シハ各省卿ニ對

對シテハ獨リ元老院ノミ之ヲ罪告スルヲ得可ク又獨リ皇帝ノミ特ニ布告ヲ發シ以テ政府長官ニ對シ若クハ國家内外ノ安寧ニ對スル重罪犯即チ叛逆若クハ陰謀ヲ高等裁判所ニ下シテ審詢セシムルヲ得可シ

八商事裁判所ハ第一ニ商賈ノ商業契約ニ關シ若クハ其紛争ノ調停契約ニ關スル訴訟ヲ管轄シ第二ニ何人ノ間ニ於ケルヲ問ハス凡テ商業上ノ事為ニ關シ起生スル訴訟ヲ管轄ス

第三章 行政裁判管轄

九行政裁判管轄ハ若シ廣汎ノ意義ニ從ヒテ之ヲ解スレハ則チ公共ノ利益ニ關スル事件及ヒ其他公益ト私益トノ關係ニ生スル事件ニ涉ル者トス

十凡ソ行政官ノ行為ニ對スル申訴ハ或ハ請願ノ法式ニ遵ヒテ之ヲ呈出シ或ハ詞訟ノ法式ニ遵ヒテ之ヲ呈出スルヲ得可シ行政權ノ款目ヲ參觀ス可シ

凡ソ行政官ノ行為ニヒテ法律ノ付與スル無制限ノ權力ニ出ヅル者ニ對シテハ唯タ請願ノ法式ニ遵ヒテ以テ之ヲ控告スルヲ得可キノミ蓋シ其行為タル唯タ各人ノ私益ヲ害スル有ルヲ以テナリ之ニ及ヒテ行政官ノ行為ヲ以テ法律布令若クハ契約ノ許與セル各人ノ推理ヲ害スル有ル片ハ行政詞訟ノ法式ニ遵ヒテ控告ヲ為スルヲ得可シ特ニ法律ノ正文ヲ以テ行政詞訟上ノ控告ヲ為スルヲ許ス場合ノ如キハ固ヨリ然リ獨リ此行政官ノ行為ノ以テ各人ノ推理ヲ害スルニ因リテ控告ヲ為スノ場合ニ於チノミ狹隘ノ意義ヲ以テ解釈スル行政裁判管轄ノ文辭ヲ施スルヲ得可シ

十一凡ソ行政上ノ事件ニヒテ行政詞訟ヲ惹起ス可キ者ハ多クハ左ニ

掲クル事物ニ存ス

第一 公有財産 大通路ニ附属スル道路ノ基地ヲ侵占シ若クハ横奪
シ若クハ毀壞スル場合或ハ邑道ノ基地ヲ侵占シ若クハ横奪スル
場合ハ皆之ヲ此項下ニ繫ク地務ニ関スル場合ノ如キ亦タ然リ

第二 公有財産ヲ各省若クハ其他行政官衙ノ用ニ供スル處置

第三 鑛山借區ノ收奪失推若クハ其他鑛山關係ノ事件

第四 沼池ノ開墾

第五 官府ト各己人トノ間ニ締結スル契約及テ需用物料調供ノ受
負條約

第六 渡津若クハ渡船ニ係リ及テ通過稅抽收ニ係ル推理ノ借貸借
契約 此他凡ソ行政上ノ借貸契約行政借貸ノ款目ヲ參觀ス可シニ
関スル事件ハ司法裁判管轄ニ屬ス

第七 直稅ノ蠲除若クハ輕減ノ請求

第八 政府ノ支辨スル年俸及テ債金

第九 公金ノ會計

第十 法律ノ選舉會ニ要スル法式ニ違背セル選舉 州會議員郡會議
員若クハ邑會議員ノ選舉ノ有効無効ノ檢査

第十一 行政制令ノ解釈

十二 上文ニ列挙スル事物ノ外ナル或種ノ事物ニ關涉スル詞訟事件ニ
シテ其性質本来行政上ノ事件ニ係ラサルモ特別ノ法律ニ於テ行政上
ノ事件ニ准視スル者ノ在ル有リ

此種ノ詞訟事件ハ即チ革命法律ノ効力ニ依據シテ公然ニ賣却シタル
民有財産ニ關係スル事件是ナリ今此詞訟事件ニ關スル各般ノ問題ヲ
舉クレハ第一ヲ公賣中票ノ効力有無ノ問題ト為之之ヲ詳言スレハ公

賣財産ノ所有權ノ存否ニ涉及スル問題ナリ第ニヲ公賣財産ノ種類ニ
關スル問題ト為シ第ニヲ公賣財産ノ數量ニ關スル問題ト為シ第ニヲ
公賣契約ノ附款及ヒ條項ノ効力ニ關スル問題ト為ス

此等ノ問題ヲ裁決スルハ總テ州參事署ノ管轄ニ屬ス但タ其裁決ニ對
シテハ參議院ニ上告スルヲ得可シ

十三 此行政裁判管轄ノ一事ニ關シテハ唯タ其梗概ヲ舉示セルノニ若
シ夫シ其詳細ノ節目ニ至リテハ本書中ノ數款目就中州參事署參議院
及ヒ行政裁判權ノ各款目ニ於テ之ヲ説述スル有ル可シ

保有物回復訴訟 此文辭タル廣汎ノ意義ニ從ヒテ之ヲ解ケハ則チ凡
ソ人^ノ保有セシ物件ヲ回復スル訴訟ヲ包括シ 保有推回復訴訟ノ款目
ヲ參觀ス可シ 又若シ狹隘且ツ慣用ノ意義ヲ以テ之ヲ叙ケハ則チ單ニ
一年以來保有シタル不動産ニ妨害ヲ凌クルニ當リ其保有權ヲ維持ス
ル訴訟ヲ指言ス

附日 略曆ノ款目ヲ參觀ス可シ
陰謀叛逆 一陰謀トハ政事ヲ以テ之ヲ言ハハ二人若クハ數人ノ陰力
ニ相謀リ^{刑法第ハ} 國家内外ノ安寧ニ對スル叛逆ヲ企テ以テ某事ヲ為
ス有ラント決心スル者ヲ謂フ

是ヲ以テ陰謀ハ重罪ヲ犯サレトスル準備ヲ為スヲ謂ヒ而シテ叛逆ハ
實ニ其陰謀ヲ行ヒ或ハ之ヲ行ハント試ミルヲ謂フ^{刑法第ハ}

二政事上ノ叛逆ハ國家外部ノ安寧ニ對スルト國家内部ノ安寧ニ對ス
ルトニ隨ヒテ之ヲ二種ニ區別ス

三 國家外部ノ安寧ニ對スル叛逆 凡ソ自國ニ對シ兵器ヲ執リテ攻撃シ
或ハ外國政府ト串通シテ自國ニ對シ開戦スルヲ僥倖シ或ハ敵兵ヲ
誘キテ容易ニ自國ノ領地ニ侵入セシメ或ハ敵兵ニ自國ノ都府城寨海

港、軍器庫ヲ付シテ之ニ占據セシメ或ハ兵卒、軍器、食料其他軍需物品ヲ
敵軍ニ供シ若クハ城塞、海港、海灣、軍器庫ヲ敵軍ニ授ケテ之ヲ援助シ或
ハ外國若クハ敵國ノ利ヲ謀ル為メニ自國ノ秘事機務ヲ漏泄シ或ハ城
塞、海港、海灣、軍器庫ヲ管守シテ而シテ其畧面ヲ敵軍ニ付共シ或ハ敵軍
ヨリ我軍ノ動靜虛実ヲ探ル為メニ發送セル間諜者若クハ兵卒ヲ舎匿
シ或ハ自國ヲシテ敵國ノ宣戰ニ遭ハシメ或ハ自國ノ人民ヲシテ敵國
ノ報復ニ罹ラシムル如キハ皆是レ國家外部ノ安寧ニ對スル叛逆ノ重
罪ヲ犯ス者ナリ以上ニ列舉スル各般ノ重罪犯ハ往時ニ在リテハ多ク
ハ死刑ヲ以テ之ヲ待チシモ今日ニ在リテハ千八百五十年六月八日議
定十六日頒布ノ法律ニ遵ヒ竄流ノ刑ヲ以テ此死刑ニ換施ス刑法第七
十五條以
下ノ
各條

四 國家内部ノ安寧ニ對スル叛逆 凡ソ内國ノ戰乱ヲ煽動シ或ハ一邑又

ハ數邑ヲ侵暴シ剽掠シ若クハ其住民ヲ屠殺シ或ハ法設官憲ノ許可ヲ
得スレテ兵隊ヲ點發シ若クハ兵卒ヲ徵募シ若クハ法定ノ推理無ク正
當ノ事由無キニ一兵團、一艦隊、一城塞、一屯營ノ司令權ヲ把弄スル等總
テ不法ニ兵力ヲ使用シ或ハ他人ノ所有地ニ侵入シ若クハ公金
ヲ掠奪スル為メニ賊黨ヲ糾合シ若クハ之ヲ指揮スル如キ皆是レ
國家内部ノ安寧ニ對スル叛逆ノ重罪ヲ犯スナリ以上ニ列舉スル各般
ノ重罪犯モ亦往時ニ在リテハ死刑ヲ以テ之ヲ待チシモ今日ニ在リテ
ハ千八百五十年ノ法律ニ遵ヒ均シク竄流ノ刑ヲ以テ死刑ニ換施ス刑
法
第
八
十
六
條
以
下
ノ
各
條又最近ノ制定ニ係ル法律ニ據シハ出版ノ手段ヲ以テ内訌
ヲ煽動シ或ハ兵器ヲ陰藏シ若クハ軍需物品ヲ密蓄スル如キモ亦共ニ
國家内部ノ安寧ニ對スル叛逆ヲ以テ之ヲ稱セリ

五 刑法ヲ改定セル以降ニ在リテハ凡ソ政事上ノ陰謀ト叛逆トヲ區別

セムレテ之ヲ同一ノ刑例ニ問ヒシニ千八百三十二年四月二十八日ノ法律ヲ以テ始メテ陰謀ト叛逆トヲ區別シ而シテ其陰謀犯ヲ處スルニハ稍ヤ輕キ刑罰ヲ以テス且此法律ハ然ク陰謀ト叛逆トノ區別ヲ立テタルノミナラズ尚ホ一層微密ニ入り以テ又別ニ或種ノ區別ヲ設ケ以テ陰謀者ノ陰謀ヲ企テタル犯跡ノ深淺ヲ區別シ而シテ其惡意ノ大小ト其行為ノ輕重トニ應シテ之カ刑罰ヲ擬施セリトテ欲セリ是レ即チ當時ノ立法者ノ陰謀犯罪ニ階級ヲ立テタル所以ナリ

六凡ソ既ニ一事為ヲ行ヒ若クハ既ニ之ヲ行フ準備ヲ為セル陰謀犯ニ係レハ共ニ竄流ノ刑ヲ以テ之ヲ處シ若シ未タ一事為ヲ行ハス若クハ未タ之ヲ行フ準備ヲ為ガ、ル陰謀犯ニ係レハ城塞禁錮ノ刑ヲ以テ之ヲ處シ又若シ陰謀ヲ企ツルノ發意ヲ為シ而シテ未タ其黨典ノ之ヲ承諾セザル陰謀犯ニ係レハ此發意人ヲ一年以外五年以内ノ禁錮ニ處シ

又若シ一人ノ獨リ叛逆ヲ犯スニ決意シ而シテ其事為ヲ行ヒ若クハ之ヲ行フ準備ヲ為スモ他ノ黨典ノ之ヲ幫助スル無キ陰謀犯ニ係レハ之ヲ城塞禁錮ニ處ス

治罪法第百八十九條及第百九十九條

七余ハ既ニ簡約ニ陰謀及ヒ叛逆ノ重罪犯ヲ處スル法制ヲ説述セリ然リ而シテ行政官ハ如何ナル措置ヲ施シテ以テ司法裁判權ノ作用ヲ助クルカ余今此一問題ヲ講究セシ夫レ叛逆犯ハ必ス外表ニ發顯スル者ニシテ常ニ明カニ其形跡ノ見ル可キ有ルモ陰謀犯ニ至リテハ然ラズ蓋シ陰謀犯ハ唯タ單一ノ事為ヲ以テ成立スル者ニ非スレテ其犯罪ノ途ニ進ムヤ極メテ陰密ニシテ往往証徴ヲ得ル能ハス實ニ獨リ警察權ノミ各種ノ方略ヲ施シテ以テ能ク其陰謀ノ犯跡ヲ隱蔽スル秘密謀計ヲ偵察スルヲ得ルナリ然リト雖モ警察ノ事務ハ本ト是レ不虞ヲ豫防スルニ在ルヲ忘レザルヲ要ス故ヲ以テ警察權ノ職任ハ密ニ監視

ノ手段ヲ盡シテ陰謀黨共ノ盟誓ヲ掩襲ス可キ機會ヲ偵ヒ或ハカメテ
十分ニ証憑ヲ查集シテ之ヲ司法部ニ送付スルニ存シ而シテ其犯人ヲ
搜捕シ且ツ之ヲ刑罰ニ問フハ一ニ司法權ノ處置ニ委ヌ可キナリ

〔八〕政事ニ関スル警察ハ専ラ内務卿ノ職權ニ屬シ而シテ巴里府ニ在リ
テハ警視總監特ニ此職務ヲ施行ス蓋シ警視總監ハ内務省中ノ警保局
ヲ管轄スルニ之レ由ル此他ノ地方ニ在リテハ州長專ラ政事警察ノ事
務ニ當任ス

〔九〕政事警察ヲ施行スル屬員ハ公然ニ其職務ヲ執ル者有リ又秘密ニ其
職務ヲ執ル者有リ行政上官ハ此等屬員ノ幫助ニ因リテ以テ細カニ陰
謀犯ノ形跡及ヒ動作ヲ偵知ス然レ氏此事ニ関シテハ深く戒慎ヲ加フ
ルヲ要ス是ヲ以テ行政上官ハ嚴密ニ此等屬員ノ申告スル事情ヲ檢
覈シ且ツ結果ヲ推考シ以テ實ニ其陰謀黨共ヲ司法裁判權ニ押付ス可

キ証憑ヲ存在スルヤ否ヤヲ按定セサル可カラス凡ソ政事警察權ノ作
用ヲ明示スルノ極メテ難キハ言ヲ待タスレテ知ル可シ故ニ此点ニ関
レテハ彼ノ深く經驗ニ老ヒタルウヰア^ン氏ノ其著述セル行政法論ニ
於テ吾輩ニ指教セル論說ヲ擧ゲ以テ之ヲ明カスニ如クハ莫キヲ信ス
其言ニ曰ク政事警察ハ其自然ノ性質素ヨリ以テ秘密ニ係ル者ナリ凡
ソ煽乱人ハ必ス其陰謀ヲ隱密ノ地ニ畫ス政府モ亦必ス其人ヲ隱密ノ
地ニ追跡シ以テ其動作ヲ探偵シ且ツ其謀計ヲ破ラサル可カラス是故
ニ政事警察權ハ其熾々タル炯眼ヲ以テ常ニ煽乱人ノ潜伏スル場處ヲ
監視スルヲ要シ又夕煽乱人ノ能ク咄嗟ニ兵隊ヲ編成スルヲ得ルノ
便地タル職工場ヲ監視スルヲ要シ又夕連結黨共ノ騷乱ヲ起シ若ク
ハ叛逆ヲ企ツル目的ノ為メニ日ヲ期シテ會合スル飲酒店ヲ監視スル
ヲ要シ又夕殺害ヲ行ハント謀リ若クハ暗殺ヲ行ハント謀ル為メニ

盟誓ヲ立テマラ組織スル秘密會社ヲ監視スルヲ要ス且ソ政事
 警察權ハ公衆ノ妄信ヲ惹ク可キ印刷書類ヲ押收シ又ソ内乱ヲ助成ス
 可キ兵器彈藥等ノ軍需物ヲ押收スルヲ任セサル可カラスト

仲裁委託 仲裁ノ款目ヲ參觀ス可シ

邑會計法 邑制ノ款目ヲ參觀ス可シ

州會計法 州ノ款目ヲ參觀ス可シ

貯蓄金庫會計法 貯蓄金庫ノ款目ヲ參觀ス可シ

國立中學校會計法 中等教育ノ款目ヲ參觀ス可シ

貧院會計法 貧院及ヒ病院ノ款目ヲ參觀ス可シ

陰私會計法 一凡ソ收稅官吏ニ非サル他ノ人ニレテ公金ヲ管理スルハ
 即チ是レ陰私ノ會計ヲ成スナリ嘗テ邑行政部及ヒ國庫管轄部ニ此種

ノ會計ノ存スルヲ檢覈セシテ往往ニ之レ有リ

凡ソ陰私會計ヲ行フ人ハ其目的蓋シ隱密ニ公金ヲ貯ヘテ或種ノ支
 出ニ關シテ行政上官ノ監督ヲ規避セント欲スルニ外ナラス縱令ヒ其
 人ノ惡意ニ出ツルニ非サルモ法律ノ此陰私ノ管理ヲ禁防スルハ極メ
 テ嚴密ナリ

二 支發傳令官ノ職掌ト會計官吏ノ職掌トハ職掌及對ニ罹ル者ト為セ
 ル原則ノ存スルヨリレテ凡ソ國庫管轄部ノ會計官吏及ヒ邑收稅負ノ
 外ニ在ル人ニレテ若シ公金ノ管理ニ干渉スル有レハ則チ實地是レ會
 計負タルヲ以テ隨テ公設ノ會計職負ニ負ハシムル義務ヲ負ハサル可
 カラス
 千八百二十二年九月十四日ノ布令第百三十三條、千八百三十八年五
 月三十一日ノ布令第百六十七條、千八百六十二年五月三十一日ノ
 布告第百二十五條、千八百三十七年七月十八日ノ法律第百六十四條、民法第
 千三百七十一條、第千三百七十七條、第千九百九十一條乃至第千九百九
 十七條

三 若シ陰私會計ノ行ハルルヲ發覺スル有レハ則チ其之ヲ行ヘル人

ノ所有スル不動産ヲ抵當公簿ニ登記スルヲ要シ而シテ二月以内ヲ
限リ其陰私會計ノ決算書ヲ呈出セシム若シ此期限内ニ決算書ヲ呈出
セサレハ則チ其財産ヲ押勒ス其和曆第八年四月廿八日ノ法律但夕若シ通債督催
■狀ヲ發スルヲ要スル中ハ之ヲ發スルニ妨ケ無シ千八百三十二年
四月十七日ノ法

律
四 邑收稅負ハ假令ニ陰私會計ヲ行ヘル人ヲ覺知スルニ因リ其人ノ發
出スル交付券ニ照シテ自己ノ管守スル金庫ヨリ金額ヲ交付スル
ヲ拒却スル推理ヲ有セサルモ而モ陰私會計ノ存スル事情ヲ財務部
收稅官ニ告發スルニ非サレハ則チ未夕以テ其責務ヲ盡セル者ト謂フ
ヲ得又財務部收稅官ハ邑收稅負ノ告發書ヲ領接スルヤ直チニ州長ニ
通知シ州長乃チ必要ノ處置ヲ施ス

五 凡ソ公金ノ支出ヲシテ合規ノ支出タラシムルニハ其實金ヲ供備ス
ルノ推理ヲ有スル官憲ノ確認ヲ經サル可カラズ是故ニ陰私會計ヲ行
フ會計官吏ト雖モ若シ邑庫ノ帑金ニ係レハ其支出ニ關スル証據書類
ヲ呈出シテ認可ヲ取り又若シ國庫ノ帑金ニ係レハ其支出ニ關スル証
據書類ヲ呈出シテ行政上官ノ認可ヲ取り而ル後ニ支出決算書ト証據
書類トヲ併セ以テ會計検査院ニ呈出セサル可カラズ

今此ニ千八百六十二年五月三十一日ノ布告第二十五條ノ第二項及
ニ第三項ノ成文ヲ舉示セシ

第二項 陰私ノ會計ハ公正且ツ合規ノ會計ヲ管轄スル會計検査
院ノ管轄ニ屬シ及テ之ト同一ナル責務ヲ荷フ可キ者トス

第三項 縱令ニ充分ノ証據書類ヲ缺クモ若シ會計官吏ノ奸慝ヲ
徴スル無キトキハ裁判官ハ公平ノ判断ヲ以テ其証據書類ノ缺
欠ヲ補訂スルヲ得可シ

此第三項ノ制規ハ千八百三十八年五月三十一日ノ布令ニ載セサル
所ノ者ナルニ之ヲ此布告ニ掲ケタルハ蓋シ實際ノ經驗ニ出タルナ
リ凡ソ野邑ニ在リテハ邑長自ラ本邑ノ會計ニ干渉シ而シテ或ハ其
管理ノ正実ナル世上之ニ比ス可キ無キ者有リ然ルト雖モ邑長タル
者ハ會計ニ干渉スルノ以テ大過ニ陷ルヲ知ラサル可カラス

モリスブロク識

〔六〕會計検査院ノ陰私會計ノ決算ヲ裁判スルニ當リテハ其陰私會計ヲ
行ノ人ヲシテ尋常ノ收税官吏ト同一ノ地位ニ立タシム若シ夫シ其裁
判ニ對シテ控訴ヲ構起スル推理ニ関シテハ宜ク會計検査院ノ款目ニ就
キテ觀ルヘシ

〔七〕陰私會計ノ決算ヲ立ツ可キ責務ハ三十年ヲ經過スルニ非サレハ則
チ期滿得免ノ例ニ頼リテ之ヲ免ル、ヲ得ス

〔八〕陰私會計ヲ行フ人ノ若シ其身收税ノ職掌ヲ帶ヒ且ツ有効ニ租税ヲ
徴收スル分限ヲ有スト主張スルハ刑法第百五十八條ノ制規ニ照
シ職掌僭越ノ犯罪トシテ追理ヲ受ケサル可カラズ

〔九〕若シ陰私會計ニシテ公金私用ノ犯情ヲ露ハスハ刑法第百六十九
條ニ照シテ處断ス

〔十〕若シ假設證據書類及ヒ假設記録書類ノ存スル有シハ往往ニ詐偽ノ
犯情ヲ挾ム有ルニ因リ此罪ヲ可キ方略ヲ幫助セル收税官吏若クハ收
税受負人ニ對シテハ重罪犯ト視テ以テ之ヲ追理セサル可カラス

アレントサシセムク識

會計法

目次

第一章 緒言 自一項 至七項

第二章 各種ノ會計ニ通施スル制規 自八項至十五項

第三章 立法上ノ會計法 自十六項至二十七項

第四章 支策傳令官ノ會計法 自二十八項至三十八項

第五章 國庫管轄會計官吏ノ會計法 自三十九項至六十七項

第一節 租稅領收ノ事務 自六十八項至八十七項

第二節 財務部郡收稅官ノ職務 自八十八項至百一十二項

第三節 財務部州收稅官ノ職務 自百一十三項至百五十一項

第六章 ^{國庫}巴里府庫^{ニ於テ}事務 自五十二項至五十九項

第一節 中央出納官ノ職務 自百五十三項至百六十三項

第二節 中央公債支辨官ノ職務 自百六十四項至百六十五項

第七章 流用會計官ノ職務 自百六十六項至百六十七項

第八章 國幣ノ運用 自百六十八項至百七十九項

第九章 會計總務局ノ職務 自百八十項至二百八十一項

第十章 官有財物ノ會計 本章ノ說明ニ關シテハ財物ノ款目ヲ參觀ス可シ

對照行政法

目次畢

第一章 緒言

一會計法ヲ制設スル目的ハ公金ノ出納ニ秩序ヲ立テ且ツ其度支ニ節約ヲ施スニ存ス蓋シ其秩序ヲ立テ及ヒ其節約ヲ施スハ良政ノ基礎タル規約タレハナリ夫レ出納記録ノ正実ナルト証據書類ノ明白ナルト檢査監督ノ嚴密ナルト政府ノ公費スル決算書ノ確実ナルトハ即チ是レ公衆ノ信用ヲ繫キ且ツ國力ヲ増シ國富ヲ進ムル所以ナリ

二會計法ノ定則ハ數多ノ事目ヲ包括ス即チ第一ニ租稅其他課稅ノ賦課及ヒ徵收第二ニ支出經費ノ供備結算支策傳令及ヒ其支辨第三ニ歲

入歳出ノ豫算ニ照シテ日日ニ出納スル事業ヲ証明スル合法ノ簿記是
ナリ此會計定則ノ目的タル要スルニ是レ諸會計官吏ノ決算報告及
支發傳令官タル諸省師ノ決算報告ノ準備ヲ為シ其便利ヲ圖リ且ツ之
ヲ保証シ以テ政府ヲレテ國庫出納ノ總決算ヲ報告シ明カニ輿衆ニ每
年財政ノ景況ヲ示スヲ得セシムルヲ謀ルニ外ナラス抑モ公金出納
ノ秩序ハ即チ此定則ノ嚴密ナル施行ニ生スル所ノ者トス

三又公金度支ノ節約ハ即チ秩序ノ整肅ナル自然ノ結果ニ出ツ蓋シ公
金ヲ出納スル秩序ノ整肅ナル中ハ法律ノ指定スル時期ニ照シテ各般
ノ租稅ヲ收入シ租稅ノ徵收ニ任スル職負ノ怠慢若クハ疎拙ノ為メニ
致ス所ノ缺欠及テ滯滞ヲ防制シ支出經費ヲ歲出豫算ノ供備スル定額
ノ界限内ニ維持シ以テ全國各地方ノ要用ニ應シテ財帛ヲ運用スル方
略ノ便宜ヲ謀リ且ツ以テ立法者ヲレテ國庫ノ收入ト支出トヲ調和ス
ル目的ヲ達セシムルヲ得可キナリ

四今此ニ我カ佛國ニ於テ會計制度ノ完成ヲ致サシメタル各種ノ制令
ヲ舉示セシ

其第一ハ千八百二十二年九月十四日ノ布令ト為ス此布令ヲ以テ始メ
テ會計法ノ通則ヲ立定シ而シテ公費度支ニ任スル各支發傳令官ノ遵
行ス可キ畫一方法ヲ制設シ以テ明細ニ其會計ヲ録記シ及テ証據書類
ヲ副具スルヲ要セリ又此時以前ハ會計ノ年度ヲ限ルヲ無カリシニ
是ニ至リ凡ソ收入支出ヲ處辨セル其年ヲ限リ一會計年度ト為シ又官
府ノ負債金ノ結算支發傳令及テ其支辨ニ關スル各般ノ制規ヲ立テタ
リ

其第二ハ千八百二十三年十二月十日ノ布令ト為ス此布令ヲ以テ特務
委員ヲ設テ上下議院ノ議官、議員、參議院ノ議官及テ會計検査院ノ検査

官ヲ以テ編成シ之ヲ以テ各行政官衙ニ就キテ其會計ヲ検査シ以テ審
査書ヲ公告スル職任ヲ帯ハシム是レ蓋シ國家財務ノ機關体ヲ以テ其
運動ノ常ニ善ク規矩ニ合スルヲ保証スルガ為メナリ

其第三ハ千八百二十六年七月九日ノ布令ト為ス此布令ヲ以テ會計檢
査院ニ委付スルニ其検査ノ結果ト諸省卿ノ公告レ且ツ提出スル會計
年度總決算ノ結果ト符合スルヲ判告スル職任ヲ以テセリ

其第四ハ千八百三十八年五月三十一日ノ布令ト為ス此布令ヲ以テ會
計ニ関スル普通ノ規則ヲ設定セリ蓋シ此布令ハ叙次ヲ立テ事類ヲ分
クハテ従前ノ法律、布告及ヒ規則ニ散見セル財務ノ制規ヲ編纂シタル
者ナリ

其第五ハ千八百六十二年五月三十一日ノ布告ト為ス此布告タル或種
ノ節目ヲ改正セル者ヲ除ケハ唯タ是レ千八百三十八年五月三十一日
ノ布令ヲ完全ニシ法制ノ變遷ヲ逐ヒテ以テ時宜ニ稱ハシムルニ過キ
ス

五千八百六十二年五月三十一日ノ布告ハ會計制度ノ基礎ヲ包載セル
者ト謂フ可ク而シテ其制規ハ大抵今日ニ現行ス然リト云ハ此時以降
幾回カ法律、布告及ヒ規則ヲ發シテ以テ重要ノ改正ヲ會計制度ニ加フ
ル有リ且ツ新政体ノ組織ヲ完全ナラシムルヨリ以テ自ラ改正スルニ
至リシ者モ亦タ鮮ナカラス思フニ將來ニ在リテモ必ス應サニ多少ノ
改正ヲ加フル時機ニ遇着スル有ルハシ

千八百六十二年五月三十一日ノ布告ニ改正ヲ加ハタル各制規及ヒ
將來ニ改正ヲ要スル考案ハ財務省副局長ヲレビレノ録述セル會
計規則改正類纂千八百七十五年巴里書肆ニ詳見ス蓋シ此著書タル
ナルゼリルウロトシテ發兌
官撰ニ出タルニ非サルモ其効力幾ント相同レキ者有ルナリ

六千八百六十二年五月三十一日ノ規則 **布告** ハ之ヲ五編ニ大分シ其第一編ニハ各種ノ財計事務部ニ施行スル制規ヲ載セ第二編ニハ立法上ノ會計法ヲ載セ第三編ニハ行政上ノ會計法ヲ載セ第四編ニハ裁判上ノ會計法ヲ載セ而シテ第五編ニハ特殊ノ會計法ヲ載セリ

七又此布告ノ第八百八十一條ニ據レハ各省ニ在リテハ本布告ノ定ムル制規ヲ其省ノ會計ニ施ス為メニ特別ノ規則ヲ立テ以テ之ヲ公發セサル可カラズ今日ニ至ルマテ此定則ニ照導シテ特別ノ規則ヲ設ケタル者ハ唯ク財務省千八百六十六年十二月二十六日 外務省千八百六十七年十月一日 文部省千八百六十七年十月十六日 美術省千八百六十七年十二月十八日 海軍兼植民地事務省千八百六十九年一月十四日 及ヒ陸軍省千八百六十九年四月三日ノミ司法省、内務省、農商務省及ヒ工務省ノ如キハ未ク其特別ノ規則ヲ公發スル有ラス

第二章 各種ノ會計ニ通施スル制規

八公金ハ即チ國、州、邑及ヒ公立建造物ニ屬スル資金是ナリ 千八百六十二年五月三十一日ノ布告第一章

九凡ソ財計ノ事務ハ管理期間若クハ收支年度會計年度間ニ於テ之ヲ執行ス管理トハ會計官吏ノ一年度間若クハ在職期間ニ在リテ一切ノ財計事務ヲ處辨スルヲ謂フ故ニ是レ帝ニ會計官吏ノ各會計年度毎トニ完結ス可キ財計ノ事業ヲ包括スルノミナラス併セテ其擔任スル國庫事務及ヒ特別ノ事務ヲ包括ス又ク會計年度トハ歲入出豫算ノ收支事業ヲ執行スル年度ヲ謂フ 同上布告第二章 豫算ノ款目ヲ參觀ス 三條及ヒ第四章

可シ

十某會計年度ト稱スル其年ノ一月一日ヨリ十二月三十一日マテニ處辨セル事務及ヒ得有スル権理ノミ以テ其一會計年度ニ屬スル者ト首

做ス 同上市告 第六條

十一 凡ソ一會計年度ノ支出ニ供備セル定額金ハ他ノ會計年度ニ係ル經費ニ支用スルヲ得ス 同上市告 第八條

十二 凡ソ明カニ自己ノ債權ヲ証スル真正ノ債主ニ交付スル為メ且ツ既ニ完結セシ事業ノ經費ヲ支辨スル為メニスルニ非サレハ則チ決シテ公金ヲ支出スルヲ得ス然レモ監督法ヲ以テ工事ヲ舉行シ之ヲ詳言スレハ間介ノ職負ニ委任シテ工事ヲ舉行セシムル場合ニ當リテハ其間介職負ニ對シ或種ノ規約ニ從ヒ且ツ一定ノ界限内ニ在リテ豫メ若干額ノ經費金ヲ交付スルヲ得可シ 同上市告 第十條 及チ第九十四條

十三 行政上官并ニ支發傳令官ハ租稅其他ノ課稅ヲ創メ及チ其徵收ヲ命シ且ツ歲出經費ノ結算及チ支發傳令ノ事ニ任ス又夕有責任ノ會計官吏ハ見實ニ徵收及チ支辨ノ事務ヲ掌ラシムル為メニ設置スル者トス 同上市告 第十四條

十四 凡ソ收入部ハ必ス收入ノ總額ヲ以テ其計算ヲ立ツルヲ要シ而シテ徵收管理ノ費用及チ其他ノ附隨費用ハ舉テ之ヲ支出部ニ屬ス 同上市告 第十六條

十五 行政上官并ニ支發傳令官ノ職掌ハ會計官吏ノ職掌ニ反對シ又會計官吏ノ職掌ハ職業商業工業等ノ營業ニ反對ス 同上市告 第十七條 及チ第十八條

第三章 立法上ノ會計法

十六 一會計年度ニ間ニ經理ス可キ諸般ノ事業ニ要スル收入支出ノ金額ハ毎年ノ歲計法律ヲ以テ之ヲ指定ス 同上市告 第三十三條 豫算ノ款目ヲ參觀ス可シ

十七 一會計年度ニ係ル收入及チ支出ヲ完結ス可キ期限ハ左ニ掲ケル定規ニ從ヒテ之ヲ延フルヲ得可シ

第一 凡ソ既ニ着手セル工作ノ事業ニシテ災變若クハ公益ノ為メ

ニ本年十二月三十一日マテニ竣成スル能ハサル者ハ豫算經費ノ
界限ヲ出テスレテ翌年二月一日マテニ竣成スルヲ得可シ

第二 凡ソ債主ニ對シテ支辨ス可キ金額ハ翌年七月三十一日マテ
ハ其結算ヲ為シ及ヒ其支撥ヲ傳令スルヲ得可シ

第三 凡ソ租税ノ徵收及ヒ經費ノ支辨ハ翌年八月三十一日マテニ
完結スルヲ得可シ 同上ノ布告
第三十三條

十八 何種ノ租税タルヲ問ハス國會議院ノ議決ヲ待ツニ非サレハ則チ
之ヲ賦課シ且ツ之ヲ徵收スルヲ得ス若シ夫レ分配税ハ一年ヲ限り
テ之ヲ課收スルヲ許シ此他ノ租税ニ至リテハ數年ヲ連テ其課收
ヲ議定スルヲ許ス 同上ノ布告第三十四條
及ヒ第三十五條ハハハ

十九 歲計法律ニ指定セサル直税若クハ間税ハ如何ナル名義ヲ以テシ
如何ナル稱目ヲ以テスルヲ問ハス之ヲ課收スルハ法律ノ明文ヲ以テ
嚴ニ禁止スル所ナリ 同上ノ布告
第三十八條

二十 各省卿ハ歲計法律ノ其省ニ對シ供備セル定額ノ外ニ在リテ經費
ヲ支出スルヲ得ス又タ定額増補ノ方法ヲ以テ供備スルニ非サレハ
則チ新夕ニ經費支出ノ義務ヲ約定スルヲ得ス若シ此定則ニ違背ス
ル有レハ自ラ其辦債ノ責任ヲ負ハサル可カラズ又財務卿ハ各省ノ其
供備定額ニ超エテ經費ヲ支出スルヲ認允スルヲ得ス若シ之ニ違背
スレハ亦タ自ラ其辦債ノ責任ヲ負ハサル可カラズ又各省卿ハ縱令ヒ
何等ノ資金ヲ以テスルモ歲計法律ノ其省ニ供備セル定額ヲ増スルヲ
得ス 同上ノ布告第四十一條
及ヒ第四十三條

二十一 凡ソ政府ノ支用ニ屬スル經費ハ一省卿ノ豫メ直接ニ支撥ヲ傳
令シ若クハ次位支撥傳令官ノ本省卿ノ委任ヲ受ケテ以テ其交付券ヲ

發出スルニ非サレハ則チ之ヲ支辨スルヲ得ス又凡ソ支辨ノ傳令ニ

シテ財務卿ノ認允ヲ得ルニハ其傳令ノ必ス歲計法律ノ供備セル定額

ニ繋カルヲ要ス各省卿ノ支辨傳令ハ之ヲ二種ニ區別ス其一ハ支辨

ノ傳令即チ直接ノ傳令ニシテ其一ハ委任ノ傳令即チ一人若クハ數人

ノ債主ニ對シ交付スル名義ヲ以テ本省定額ノ一部ヲ使用スルヲ次

位支辨傳令官ニ委任スル傳令是ナリ同上ノ布告第百八十二
条乃至第百八十四条

二十二 支辨傳令官ハ自ラ責任ヲ帶ヒテ以テ其傳令書若クハ之ニ代用

スル報示書ノ抄本及ヒ國庫管轄部ノ金庫ニ對シテ支辨ヲ請求スル金

額ノ交付券ヲ發出スル義務ヲ有ス同上ノ布告
第百八十六條

二十三 財務卿ハ一切ノ支辨傳令書若クハ交付券ニシテ其記載金額ノ

豫算ニ掲クル定額ニ超エサル者ニ對シテハ支辨傳令官ノ指示セル時

日及ヒ場處ニ於テ其金額ヲ支辨セシムル措置ヲ取ラサル可カラス同上

ノ布告第
九十条

二十四 州收稅官ハ關係者ノ呈出スル証據文書ノ其体式ヲ缺キ若クハ

規例ニ違フ場合或ハ千八百六十二年五月三十一日ノ布告第九十一條

ニ指示セル或種ノ場合ニ際スルニ非サレハ則チ其管守金庫ニ對スル

交付券ノ支辨ヲ拒ムヲ得ス若シ其支辨ヲ拒ム場合ニ在リテハ支辨

傳令官ハ自ラ責任ヲ帶ヒテ以テ其支辨ヲ要催スル命令書ヲ發出スル

ヲ得可シ

二十五 行政官ノ監督法ヲ以テ舉行スル工事ノ便利ヲ謀リ以テ其工事

ヲ董督スル特別ノ間入職負ニ對シ豫メ經費金ヲ交付スルヲ得セシ

ム然レモ其金額ハ二萬ヲラシニ超ユルヲ許サス但シ間入職負ハ一

月内ヲ限り証明文書ヲ關係ノ出納官ニ呈出セサル可カラス同上ノ布
告第九十

第四

二十六 凡ソ歳入出豫算ノ決算ハ特別ノ法律ヲ發シテ以テ之ヲ確認ス
此法律ノ原案ハ各省卿ノ決算書ヲ具シ以テ之ヲ回會議院ニ提出スル
ヲ要ス 同上ノ布告
第百七条

二十七 各省卿ハ回會議院ノ開會期間ニ於テ前年度間ノ經理事業ニ支
用セシ經費ノ決算書ヲ印刷シテ以テ之ヲ提出ス此決算書ハ一會計年
度毎トニ確定ス可キ者ニシテ是レ一會計年度ノ開始ヨリ其閉鎖ニ至
ルマテ各種ノ事業ヲ經理セル全体ヲ包括ス又此決算書ハ既ニ閉鎖ヲ
告ケタル會計年度ニ係ル豫算ノ決算ヲ確認スル特別法律 上文ノ二十
六項ヲ參觀ス可シノ原案ニ之ヲ附加スルヲ要ス 同上ノ布告第百五
十
四
条中票判告公債及受負條約ノ各款目ヲ參觀ス可シ

第四章 支發傳令官ノ會計法

二十八 支發傳令官ハ地方ニ在リテハ州長、亞爾塞里州長、陸軍會計監督
官、砲兵方面局長、防禦方面局長、聯隊練習學校司令官、海軍辦理局長、製鍊
局長、植民地海軍辦理使、植民地ニ在リテ支發傳令ノ職掌ヲ執ル者、亞爾
塞府海軍辦理使、造幣委員長、造幣局在任政府代理官、稅務部各局長、即チ
公簿登記局長、直稅管理局長、間稅管理局長、關稅管理局長、驛遞局長及ヒ
國立製造所長ヲ包括ス、森林學校長、森林監督官、道路橋梁工師長、及ヒ陸
軍副會計監督官是ナリ

二十九 次位支發傳令官ハ其職掌ニ就ク時ニ當リ署押ノ照証ヲ出納官
ニ呈出スルヲ要ス即チ巴里府ニ在リテハ中央出納官ニ呈致シ各地
方ニ於テハ州收稅官ニ呈致シ亞爾塞里其他ノ植民地ニ在リテハ本地
ノ收稅官ニ呈致ス又其代理官ノ如キモ亦此定則ニ從ヒテ署押ノ照証
ヲ呈致セサル可カラズ陸軍部ノ次位支發傳令官ノ其署押ノ照証ヲ呈
致スルニハ特別ノ定則ニ從フ可キ者トス

三十 次位支控傳令官ハ毎日出納官前項ヲ參觀ス可シノ管守金庫ニ對シテ發出セル交付券ノ抄録書ヲ毎夕出納官上文ノ二十九項ヲ參觀ス可シニ送致セサル可カラズ此交付券抄録書ハ各省ヲ別テ各會計年度ヲ分テ以テ作ル者トス又夕此交付券抄録書ニハ其支控ヲ傳令シタル債金ノ證明書類ヲ副具スルヲ要ス

三十一 各省ニ於テハ其省ノ中央會計ヲ立テ以テ其省ニ係ル經費ノ結果支控傳令及ヒ其支辨ニ關スル一切ノ事業ヲ檢証ス
各省卿ノ其省ノ會計ヲ立ツルニハ同一ノ原則同一ノ方法及ヒ同一ノ体式ヲ以テスルヲ要ス

各省會計ノ結果ハ逐次ニ之ヲ財務省ノ文簿ニ登録シテ其總計美書ニ記入シ以テ歲出豫美ノ決美ヲ確定スル基礎ト為ス
千八百六十二年五月三十一日ノ布告

第二百九十六條

三十二 國庫管轄部ノ出納官上文ノ二十九項ヲ參觀ス可シハ毎月一日ヨリ十日マテテテ限リテ前月間ニ支辨シタル金額ノ約略計美書是レ會計年度ヲ分テ豫美ノ各章ヲ別テ且ツ各省ノ會計ヲ異ニシテ以テ錄製スル者ヲ各種ノ次位支控傳令官ニ送付シ次位支控傳令官ハ此約略計美書ヲ檢認シ而シテ後ニ直チニ其管轄省卿ニ送テ上ス

各省卿ハ此約略計美書ニ據リ豫美ノ每章ニ對シ見実ニ支出セル金額ヲ把テ各會計年度ノ支出經費ヲ檢証スル調査書差引計美書其他凡ソ結果ヲ立ル證據書類ニ對照ス
同上ノ布告第百九十七條

三十三 會計年度ヲ閉鎖スルニ當リ國庫管轄部ノ出納官ハ支出未済ノ殘金額ニ係ル明細計美書ヲ送呈セサル可カラズ此明細計美書ニハ債金ノ種類債主ノ姓名及ヒ其各個ニ對シテ支辨ス可キ數額ヲ記載ス
同上

ノ布告第百九十八條

三十四 各省ノ經費定額金ヲ支弁ス可キ委任ヲ受ケタル次位支弁傳令官ハ日記簿ヲ設備シ日子ノ次叙ニ從テテ其擔當經理スル事業ヲ登載ス此日記簿ニ登載セル各條ハ逐次ニ之ヲ收支大簿ニ移謄ス但夕是レ事目ノ次第ヲ逐テ且ツ豫美書ノ區別ニ從テテ移謄スルヲ要ス
同上一布告第百九十九條乃至第百一十條

三十五 又夕次位支弁傳令官ハ毎月十日ヲ期シ特別規則ニ指定スル法式ニ遵ヒテ支用計美書ヲ錄製シ以テ之ヲ管轄省卿ニ送呈ス
此支用計美書ハ各會計年度毎トニ特別規則ニ指定スル支弁委任ノ截止時期ニ至ルマテ毎月之ヲ送呈セザル可カラズ
同上ノ布告第百三十三條

三十六 又夕此支用計美書ハ豫美書ノ各章ニ照シ若シ之ヲ要スレハ豫美書ノ各條ニ照シテ左項ノ事目ヲ記載スル者トス

第一 支弁ノ委任ヲ受ケタル經費ノ金額

第二 寢結セル事業ニ係ル債金

第三 發出セル交付券ノ金額

第四 実行セル支辨ノ金額

三十七 又夕次位支弁傳令官ハ最後ノ結美書即チ總計結美書ヲ錄製シ各會計年度ノ確定閉鎖期限ニ照シテ之ヲ管轄省卿ニ送呈シ且其管守スル諸帳簿モ亦夕同時ニ其計美ヲ確定ス
同上ノ布告第百四十四條

三十八 會計検査院ハ如何ナル場合タルモ次位支弁傳令官ニ對シテ其裁判權ヲ施スヲ得ス又夕國庫管轄部ハ出納官上文ノ二十九項ヲ參觀ス可シニ對シテハ法律規則ノ指定セル法式ニ遵ヒ且其指示セル証據書類ヲ具スル支弁傳令書ニ對シタル金額ヲ認メザルヲ得ス
千七百七十八年九月十六日ノ同上ノ布告第百四十四條

第五章 國庫管轄部會計官吏ノ會計法

三十九 凡ソ公金ノ會計ニ任スル官吏ハ法律ノ指定セル法式ヲ踐ミ且
其指示セル官憲ニ對シテ本職任命ノ辭令書ヲ出示シ誓詞ヲ立テ且ソ
保証金ヲ供出シタル事實ヲ証明スルニ非サレハ則チ其職ニ就クヲ
得ス又タ其職務ヲ執行スルヲ得ス 同上ノ布告
第二十条

四十 凡ソ公庫ノ財帛ヲ料理スルヲ任スル人ハ既ニ一タヒ領收証
書ヲ呈致シテ以テ公金ヲ領收スレハ則チ是レ會計官吏ヲ以テ目ヌ可
キ者トヌ又凡ソ財務卿ノ權下ニ隸シ財務卿ノ任命ニ財務卿ニ對シテ
公金管理ノ責任ヲ帶ヒ而シテ會計検査院ノ裁判管轄ニ屬スル官吏ニ
非サレハ則チ公金ヲ料理シ及ヒ公庫ヲ管理スルヲ得ヌ

四十一 凡ソ會計官吏ハ一人唯タ一金庫ヲ管轄スルノニ故ニ其管理ス
ル各種ノ公金ハ皆此一金庫ニ屬スル者トヌ又タ其金庫ニ保存スル公
金ニ對シテハ管守ノ責任ニ當ラサル可カラヌ若シ竊盜ニ遇ヒ若クハ
災變ニ由リテ其管守セル公金ヲ亡失スル有レハ則チ管轄省卿ノ裁令
ヲ以テ責任豁免ノ請求ヲ判決ス但タ此判決ニ對シテハ參議院ニ控告
スルヲ得セシム 同上ノ布告
第二十一条

四十二 會計官吏ノ管掌スル諸帳簿ハ毎年十二月三十一日ヲ期シ若ク
ハ其職掌ノ解罷スル時ニ當リ時ニ指定スル行政官憲之ヲ査定ヌ又其
貨物金庫及ヒ^{信券}金庫ノ景況ハ同時ニ之ヲ檢査シテ以テ調査書ニ記載ス 同上
布告

四十三 會計官吏ノ決算書ハ各管理期間毎トニ豫美書ニ掲クル管理事
業ノ係ル會計年度ヲ區別シテ以テ錄製スルヲ要シ而シテ會計検査
院之ヲ裁判ス此決算書ニハ會計官吏ノ其就職セル當時ノ地位ト其管
理期間内ニ実行シタル收入支出ノ結果トヲ記載シ又タ會計官吏ノ其
管理ヲ終ル時際ノ地位ト其管守スル^{貨物}金庫及ヒ^{信券}金庫ニ見在スル公金ノ

書類トヲ記載ス

同上ノ布告
第二十三條

四十四 會計官吏ハ各其管理ニ関スル自身ノ事為ニ非サレハ則チ責任ヲ負フヲ無シ又其職任交替ノ場合ニ於テハ各主任ノ管理期間ニ照シテ一年内ノ計算ヲ區分シ而シテ各自ニ其管理期間ニ実行シタル事業ノ結果ヲ報告ス

同上ノ布告
第二十四條

四十五 會計官吏ニ非サル人ニシテ公正ノ許可ヲ得ヌ而シテ公金ノ料理ニ関共スル有レハ則チ唯ク其料理ニ関共シタル一事ノミヲ以テ之ヲ會計官吏ト首做ス但ク是レ刑法第二百五十八條ニ照シ猶ホ彼ノ正當ノ名義ヲ有セスレテ公金ノ料理ニ関共シタル事犯ノコトク之ヲ追理スルニ妨ケ無シ此陰私管理ノ行為ヲ裁判スル裁判管轄ハ公式ノ辭令書ニ因リテ任命ヲ得タル會計官吏ヲ裁判スル裁判管轄ニ異ナラス又其負擔ス可キ責任ノ如キモ亦之ト同一ナリトス

同上ノ布告
第二十五條
陰私會

計ノ款目ヲ參觀ス可シ

四十六 何人タルヲ問ハス承嗣者若クハ受權者ノ名義ヲ以テスルニ非サレハ則チ他人ノ為メニ公金會計ノ決算ヲ立ワルヲ得ヌ又凡ソ承嗣者若クハ受權者ノ代リテ決算ヲ立ワル場合ニ在リテモ必ス本任者ノ名義ヲ以テスルヲ要ス

同上ノ布告
第二十六條

四十七 凡ソ決算書ハ會計官吏其正実ナルヲ証言シ及テ記日シ署名シ且ツ規則ノ指定セル法式ニ遵テ其指示セル期限ニ照シテ之ヲ管轄裁判所ニ送呈ス若シ其正実ナルヲ証言セサレハ則チ責罰ニ免レヌ又凡ソ決算書ハ検査ニ易カラシムル如ク之ヲ録製シ且ツ事目ノ類別ニ從テテ證據書類ヲ副具セサレ可カラス既ニ一タテ決算書ヲ送呈スレハ則チ復ク之ヲ改更スルヲ許サヌ

同上ノ布告
第二十七條

四十八 法律ニ於テ國邑及ヒ公立建造物ノ會計ヲ擔任スル職員ノ財

産ニ對シテ法定ノ抵當權ヲ繋ケ以テ其推理及ヒ債權ヲ保存スルヲ得ヤシム
同上ノ布告
第二十九條

四十九 租税ヲ領收スル主務負ハ納税ノ數額ヲ納税者ニ通報シ其納收スル税金ヲ領收シ若シ納收ヲ怠タル有レハ則チ法律規則ノ指定セル法式ニ遵ビテ之ヲ徴收スルヲ任ス然レモ直税ノ賦課ニ至リテハ之ヲ特別ノ職官ニ委任ス又凡ソ租税ノ領收ニ任スル會計官吏ハ法律規則ノ指定セル法式ニ遵ビ且其指示セル期限ニ照シテ收入金ヲ支出セサル可カラズ又凡ソ會計官吏ハ其管守金庫ニ對シテ行政上權ノ支弁ヲ傳令セル公金管理費用租税領收費用及ヒ事業舉行費用ヲ支辨シ且之ヲ其決算書ノ確定支出部ニ掲記ス
同上ノ布告第三百六
條乃至第三百八條

五十 又夕會計官吏ハ其管理シタル事業ヲ特設ノ帳簿ニ記載セサル可カラズ其帳簿ノ冊數及ヒ製式ハ會計官吏ニ委任スル各般ノ事務ニ關シ制設シタル特別ノ規則ヲ以テ之ヲ指定ス

五十一 驛遞局及ヒ公簿登記局ノ職負ヲ除キ其他國庫管轄部ノ會計官吏ハ合符日記簿ヨリ割截スル領收票ヲ納税者ニ交付ス
同上ノ布告第
三百九條乃至

第三百
十一條

五十二 財務部收税官ノ其金庫ニ公金ヲ收ムル有レハ貨幣ニ係ルト其
他ノ信券ニ係ルトヲ問ハス直チニ合符領收証ヲ納金者ニ交付セサル
可カラズ但夕同一州内ニ於テ増收税官ト即收税官トノ間ニ公金ヲ送
納シ領收スル場合ハ此限ニ在ラサルナリ
同上ノ布告第
三百十二條

此合符領收証ハ納金者ノ國庫ニ對スル債金ヲ辨清シタル証憑ニ供ス
ル者トス但夕納金者ノ義務ヲ以テ巴里府ニ在リテハ即時ニ特定ノ職
官ニ此合符領收証ヲ呈出シテ檢認ヲ受ケ而シテ其合符ノ割截ヲ求ム
ルヲ要シ又夕各州ニ在リテハ二十四時間内ニ州長若クハ局長ニ此

合符領收証ヲ呈出シテ檢認ヲ受ケ而シテ亦其合符ノ割截ヲ求ムルヲ要ス

五十三 合符領收証ノ檢認ニ任スル職官ハ割截セル領收票ニ捺印ヲ捺シテ之ヲ納金者ニ還付シ而シテ他ノ片幅ヲ領收証ハ每月末ニ格束シテ之ヲ會計上官ニ送致シ會計上官ハ檢査ヲ加ヘテ之ヲ財務省ニ送上ス
同上ノ布告第 三百十三條

五十四 合符領收証ハ之ヲ檢認スル職官ノ帳簿ニ移謄シ而シテ每月其移謄セル結果ヲ會計官吏ノ送致スル明細書及レ領收票ニ對照ス又此明細書及レ領收票ハ之ヲ檢認スル職官ヨリ財務省ニ送上ス
同上ノ布告第 三百十三條

五十五 凡ソ租稅ノ領收ニ任スル重要ノ會計官吏ハ每月其管理セル收入支出ノ結算簿ヲ會計總務局ニ送上セサル可カラズ但夕是レ關係証據書類ヲ副具スルヲ要ス

中央出納官、州收稅官、亞弗利加其他植民地ノ收稅官、公簿登記收稅官、印紙收稅官、國有財產管理官、關稅管理官、郵便收稅官及レ亞爾塞里收稅官ハ皆是レ租稅ノ領收ニ任スル重要ノ職官ト為ス

五十六 租稅ノ領收ニ任スル重要ノ職官ハ皆是レ會計檢査院ノ直轄スル被裁判人タル地位ニ立ツ者トス故ニ皆是レ其名義ヲ以テ且テ責任ヲ帶ヒテ以テ各自ノ管理事業ニ關スル決算書ヲ呈出セサル可カラズ
同上ノ布告第 三百十六條

五十七 凡ソ會計官吏ノ決算ハ各年ノ管理期間毎トニ必ス之ヲ報告スルヲ要ス此決算書ニハ其管理期間内ニ處辨シタル一切ノ事業ヲ包載セサル可カラズ又此決算書ハ之ヲ二部ニ區分シ其第一部ニハ前會

載セサル可カラズ又此決算書ハ之ヲ二部ニ區分シ其第一部ニハ前會

計年度ノ残餘事業ヲ終結シタル成果ヲ記載シ其第二部ニハ本會計年度ノ正期間ニ施行シタル事業ヲ記載ス此第一二部ニハ第一二部ニ記載ス
此事業ヲ移載シテ以テ一年間ノ管理事業ヲ約括ス 同上ノ布告第 三百十七号

五十八 凡ソ會計官吏ノ納稅者ノ納致ス可キ結果ノ租稅ヲ徵收スルハ其責任ニ屬ス是ヲ以テ會計官ハ此租稅額ヲ檢証スル租稅徵收簿ニ掲クル全額ヲ徵收ス可キ責任ヲ有シ隨テ翌會計年度内ニ於テ全ク其徵收ヲ完了シタルヲ証明セヤル可カラス 同上ノ布告第 三百二十号

五十九 本来重要ノ會計職官ハ其管理事業ヲ補助スル附屬吏員ノ收入支出ニ關シ責任ヲ負ハサル可カラス 同上ノ布告第 三百二十二号 然リ而シテ此責任タル財務部收稅官ニ在リテハ最モ嚴密ニシテ毫モ酌量ヲ加フル無キナリ

是ヲ以テ州收稅官ハ本州内ノ郡收稅官ノ管理事業ニ關シ責任ヲ有ス又夕州收稅官ト郡收稅官トヲ問ハス其管轄スル邑收稅員是レ國稅ノ徵收ニ兼任スノ管理事業ニ關シテモ亦タ責任ヲ負ハサル可カラス

六十 凡ソ會計官ハ附屬吏員ノ其管理スル事業ノ施行ニ違規ノ所為有ルヲ認ムル中ハ之ニ對シテ規則ノ指示セハ處分ヲ施シ若クハ上權ノ之ヲ施スヲ要催ス又夕速カニ其職務ヲ停止シ且ツ假ニ替員ヲ指定シテ以テ之ニ代理セシムルヲ得可シ

關稅管理局、關稅管理局及ヒ郵便收稅局ノ主務員ニ對シテ上文ニ奉示スル處分ヲ施スハ專ラ其管掌事務ヲ監視スル行政職員ノ推内ニ屬ス 同上ノ布告第 三百二十三号

六十一 財務部收稅官、州收稅官若クハ郡收稅官ハ附屬吏員ノ公金ノ納入ニ通滞ヲ生スル場合ニ在リテハ即時國庫ニ對シテ其通滞金額ヲ辨納ス可キ義務ヲ有ス又其附屬吏員ノ公立建造物ノ公金ヲ管理シテ通

滞ヲ生スル場合ノ如キ亦夕然リ

六十二 財務部收稅官ハ毎年十一月三十日ヲ期シ自己ノ資金ヲ以テ前會計年度ノ直稅徵收簿ニ掲クル租稅金ノ缺欠額ヲ補辦セサル可カラ

二 同上ノ布告第 又夕直稅ニ准視シテ國庫ニ收入スル特別ノ課稅ニ缺

欠額ヲ生スル場合ノ如キ亦夕之ニ准ス

今此ニ特別課稅ノ種目ヲ舉レハ鑛山年納金、永續財產稅、度量衡檢査稅、調劑舖製藥店檢査稅、車馬稅、營業自用撞球所稅、協會其他集會所稅

此諸稅ノ各本款目ヲ參觀ス可シ等即チ是ナリ

六十三 此他ノ租稅ノ徵收ニ任スル會計官吏ニ係レハ毎年ノ末尾ニ於テ其租稅ノ一種毎トニ又其會計官吏一人毎トニ區分シテ滞納調查簿ヲ製リ之ニ徵收未了ノ租稅金額ヲ載セ而シテ會計官吏ノ負擔ニ歸ス可キ債金ト翌會計年度ノ計美ニ移ス可キ債金ト收稅官ノ責任免除

ニ屬ス可キ債金トヲ部別ス又凡ソ本年度ニ棄捐ス可キ缺欠ノ金額ト後年度ニ徵收ス可キ金額トヲ區別シテ收稅官ノ決美簿ニ登載シ會計

檢査院ニ送致シ且ツ其証明文書ヲ供呈スル 同上一ノ布告第 三百二十五條

六十四 見任ノ會計官吏ハ會計檢査院ノ裁判ヲ以テ滞納租稅金額ヲ其責任ニ歸セシムルヤ即時ニ辨納セサル可カラズ若シ既ニ見職ニ在テ

サレハ國庫裁判辨務負之ニ對シテ其辨納ヲ追求ス 同上ノ布告第 三百二十六條

六十五 會計官吏ニシテ若シ自己ノ資金ヲ以テ滞納者若クハ連債者ノ

滞納額若クハ連債額ヲ辨納スル場合 上文ノ六十二項ヲ參觀ス可シニ

在リテハ國庫ノ推理ヲ承受シ以テ之ヲ行用スルヲ得可シ又夕附屬吏負ノ滞納額若クハ連債額ヲ辨納シタル會計職官 上文ノ六十一項ヲ

參觀ス可シモ亦同ク國庫ノ推理ヲ承受シ以テ附屬吏負ノ本身若クハ財產若クハ保証金ニ對シテ之ヲ行用スルヲ得可シ 同上ノ布告第 三百二十七條

六十六 租税其他ノ收入ノ通滞金額ヲ辨納ス可キ義務ヲ有スル會計官
吏上文ノ六十三項ヲ參觀ス可シハ若シ時期ヲ愆タヌ通滞者ニ對シテ
各般ノ措置ヲ取り且ツ必要ノ追理ヲ為シタルヲ証明スレハ則チ責
任解除ノ許可ヲ請求スルヲ得可シ 同上ノ布告第
三百二十八条

六十七 凡ソ會計上官ハ既ニ附屬職負ノ通滞金額ヲ辨納上文ノ六十一
項ヲ參觀ス可シ而シテ若シ責任解除ノ許可ヲ請求スル推理ヲ有ス
ト思量スルハ行政探査ノ施行ヲ要催シテ附屬職負ノ通滞ヲ生スル
時際及ヒ其以前ノ景況ヲ探査シ以テ其通滞ノ我カ監視ノ責任ニ關係
セサル景況ニ由來スルヲ檢証セシム是ニ於テ財務卿ハ參議院財務
部ノ意見ヲ聽キ以テ責任解除ノ請求ヲ裁決ス此裁決ニ對シテハ行政
詞訟ノ法式ニ遵ヒ參議院ニ控告スルヲ得可シ 同上ノ布告第
三百二十九条

第一節 租税領收ノ事務

六十八 直税領收ノ職掌ハ甚タ繁雜ニシテ其一部ハ國庫管轄職負ノ
分限ヲ以テ直税ヲ領收シ且ツ直税ニ准視スル特別ノ課税ヲ領收シ兼
テ罰金其他裁判ニ由來スル諸般ノ科金ヲ領收スルヲ任シ又其一部
ハ邑收税負、貧院收金人、濟恤院收金人等ノ分限ヲ以テ其擔當事務ニ鞅
掌ス

余ハ今此ニハ唯タ國庫管轄職負ノ分限ヲ以テ執行スル職掌ノミヲ舉
述セシ若シ夫レ其他ノ分限ヲ以テ執行スル職掌ニ至リテハ邑制及ヒ
貧院ノ款目ニ於テ之ヲ詳説スル有リ

六十九 獨リ直税領收ノミ直税ノ納致ヲ催督シ且ツ之ヲ領收スル推
理ヲ有ス 千八百五十九年六月二日ノ
財務卿ノ訓令第六十九条

七十 直税領收ハ邑長ノ公癸ニ州長ノ施行ノ効力ヲ共ハタル直税徵
收簿ヲ携帶スルニ非サレハ則チ一金ダモ納税者ヨリ領收スルヲ得

同上ノ訓令
第七十條

七十一 既ニ直税徴收簿ヲ公發スレハ直税領收負ハ直税管理局長ノ録
製スル納税報示書ヲ各納税者ニ送達セサル可カラズ
千八百十八年五月十五日ノ法律

第五十 此納税報示書ニ記載スル事項ハ第一ニ直税徴收簿ヲ公發スル
期日第二ニ税金領收ノ為メニ直税領收負ノ事務所ヲ開クノ日期及テ

時間是ナリ
財務卿ノ訓令
第七十一條

直税領收負ハ納税者ノ面前ニ於テ其税金ヲ納致スル即時ニ直税徴收
簿ノ餘白ニ之ヲ領收セシメテ証記ス

納致税金ノ領收証書ハ合符日記簿ヨリ割截シテ之ヲ納税者ニ交付セ
サル可カラズ
千八百六十二年五月三十一日ノ布
告第三百九條乃至第三百十一條

七十二 如何ナル職官タルヲ問ハス直税納致ノ日期ヲ延フル權理ヲ有
セ又其規定ノ催督ヲ緩クスル權理ヲ有セズ
財務卿ノ訓令
第六十八條

七十三 各會計年度ニ係ル直税ノ徴收ヲ完了スル為メニ本會計年度ノ
翌年十一月三十一日ニ至ルマテ其領收ヲ実行スルヲ許ス上文ノ六
十二項ヲ參觀ス可シ
直税領收負ノ職權ヲ以テ徴收ノ結算ヲ終ヘタル
直税徴收簿ハ之ヲ其事務所ニ留存シ而シテ其未タ領收ヲ果サ、ル殘
額ハ翌々年度ノ終期ニ至ルマテ國庫ノ名義ヲ以テ之ヲ追徴スルヲ
得可シ

七十四 直税領收負ニシテ直税ノ徴收ヲ完了セズ而シテ此第三年ヲ經
過セシムル者ハ自己ノ資金ヲ以テ領收未済ノ總計額ヲ辨納セサル可
カラズ是ニ至リ直税領收負ハ其滞納者ニ對シテ私際ノ債主ト為リ國
庫ノ權理ヲ承受シテ以テ之ヲ行用スルヲ得可シ然レ氏此三年間ニ
在リテ滞納者ニ對シ一回ダモ其納致ヲ催督セズ若クハ一回之ヲ催督
セタルモ爾後拋棄ニ付シマテ三年ヲ經過スル中ハ其滞納者ニ對スル

債権ヲ喪失シ復タ之ニ對シテ追理スルヲ得サレナリ 共和曆第七年
アリメリ此三

日ノ法律第四百十九
条及テ第百五十条

七十五 以上ニ説示スル各制規ハ當ニ直税ノ徵收及ヒ其追理費用ノ徵收ニ施スノミナラス凡ソ直税ニ准視スル特別課税ノ徵收及ヒ其追理費用ノ徵收ニモ亦均ク之ヲ施ス可シ

七十六 財務部收税官ハ直税領收負ニ命シ其納税者ヨリ領收セル税金ヲ各十日毎トニ我カ金庫ニ送納セシムル權理ヲ有ス又夕徵收税額ノ頗ル多キ都市ニ在リテハ直税領收負ニ命シ尚ホ此ヨリモ短促ナル期日ニ於テ其領收セル税金ヲ送納セシムルヲ得可シ

七十七 凡ソ直税領收負ノ同一時ニ委任ヲ受ケタル事務ヲ管理スルヤ上文ノ六十八項ヲ參觀ス可シ 財務部收税官之ヲ監視シ且其責任ヲ負擔ス余今下文ニ於テ此監視及ヒ責任ニ施ス可キ各般ノ制規ヲ説示セ

七十八 直税領收負ハ左ニ掲クル帳簿ヲ設備シ以テ其管理ニタル事務ヲ録記セサル可カラズ

第一 合符日記簿 是レ諸般ノ收入ヲ登録シ且ツ之ヲ割截シテ納致税金ノ領收証書ト為シ以テ納税者ニ交付スル為メニ設備スル者トス

第二 分類計算簿 是レ直税領收負ノ同一時ニ委任ヲ受ケテ管理スル各般ノ收入ヲ類別シ以テ其領收金額ノ計算ヲ録記スル為メニ設備スル者トス

第三 約略簿 是レ直税領收負ノ擔任事務ニ關スル全体ノ景況ヲ録記スル為メニ設備スル者トス

七十九 直税領收負ハ邑收税負タリ濟恤院收金人タル分限ヲ以テシテ

ハ此他別ニ明細簿ヲ設備スルヲ要ス是レ各種ノ收入及テ支出ヲ區分
シテ登載スル者ナリ

八十 直税領收負ハ州收税官ノ要求ニ應ジテ其收入金ノ額内ヨリ支出
ヲ為サ、ル可カラス然レ州收税官ノ債主ニ對シ發出シタル支辨通
報書若クハ交付券ノ其支辨允可ノ檢認ヲ經タル者ヲ接受スルニ非サ
レハ則チ其支辨ヲ視テ以テ準規有効ノ者ト做サ、ルナリ

八十一 又直税領收負ハ記名公債証書ノ利息金ヲ支辨シ國費年俸金勲
賞年俸金及テ海軍老廢年俸金ノ支辨ニ介助ヲ假サ、ル可カラス間性
公債証書 是レ本証書ハ記名ニシテ利
息票ハ無記名ノ者ヲ云フ 及テ無記名公債証書ノ利息金ノ
支辨ニ関シテハ若シ所有主ノ其利息票ヲ割截シタル本証書ヲ出示ス
ル有レハ州收税官ノ檢認セシ無キモ應稅領收負ハ其利息金ヲ支辨セサ
ル可カラズ

八十二 州收税官及テ郡收税官州收税官ノ委任ヲ受ケル場合ハ直税領
收負ニ對シテ交付券ヲ發出スル權理ヲ有ス此交付券ハ直税領收負ノ
次回ノ納金期限ニ當リ之ヲ以テ支出証據書類ニ充テ而シテ其支辨シ
タル金額ヲ納金額内ニ算入スルニ非サレハ則チ實ニ支辨ヲ果セシ
ヲ證明スルヲ得サルナリ

八十三 又直税領收負ハ其住居地方ノ外ニ在ル濟恤院ニ屬スル債金及
テ公債利息金ヲ收入シ并ニ催替ノ方法ニ因テ徵收スル債金ヲ收入シ
慈救兒童ノ收養月費ヲ支辨シ財務部收税官ノ委任ヲ受ケテ諸般ノ收
入金ヲ領收シ且ツ各種ノ信券ヲ領收スルヲ任ス又チ直税領收負ハ
獵業准許料及テ外國旅行准許料ヲ領收スルヲ任ス

八十四 千八百七十四年一月一日ヨリ以後ニ在リテハ公簿登記税印紙
稅裁判書記稅抵當稅公証人費用及テ民事訴訟費用ヲ除キ其他凡ソ罰

金及て裁判ニ由来スル各種ノ科金ヲ徴收スル直税領收官ノ職任ハ公

簿登記局收税官ニ移属セシメタリ千八百七十三年十二月三十日ノ法律第二十五条但夕巴里

里昂馬耳塞爾各々穆爾動ノ各都市ニ在リテハ罰金徴收ノ職掌ハ之ヲ

特設ノ領收官ニ委任ス又夕直税領收官ハ罰金ノ辨納ヲ督促スル為メ

ニ裁判所使吏ニ代ヘテ權督書送達人ヲ使用スルヲ得可シ上同

八十五千八百七十五年八月二十五日ノ布告ニ據シハ直税領收官ハ財

蓄金庫ノ之ニ請求シ而シテ財務卿ノ許可スルルハ貯蓄金庫ニ供託ス

ル資金ヲ領收シ且ソ之ヲ還付スル事業ヲ擔任セサル可カラズ

八十六直税領收官ハ其領收ノ景況ヲ証明シ及て其記録ノ正実ヲ証明

スル為メニ毎月ノ初メニ當リ其管守原簿ニ據テ收税景況書ヲ録製シ

以テ會計上官ニ送呈セサル可カラズ

八十七凡ソ一州及て一郡ノ首地タル都市ニ在リテハ漸次ニ直税領收

官ノ闕クルニ隨ヒテ之ヲ廢シ而シテ法律ノ直税領收官ニ委付スル職

務及て之ニ負擔セシムル義務ハ以テ州收税官及て郡收税官ニ移属ス

千八百七十二年一月一日ノ布告此定則ノ外ニ置ク可キ都市ハ唯夕人口十萬以上ヲ有

スル者ニ限ルノミ千八百七十二年十二月二十日ノ法律第十八条今日ニ至ルマテ此特例ヲ施

セバ都市ハ巴里里昂馬耳塞爾穆兒動アレトゾールズガシテキエシ

トゾールズガシテキエナリ

第二節 財務部郡收税官ノ職務

八十八郡收税官ハ直税及て直税ニ准視スル課税並ニ罰金其他裁判ニ

由来スル各種ノ科金ノ徴收ヲ指揮シ且ソ其收入金ヲ集合ス又夕歳入

豫算ニ掲クル或種ノ收入ニ關シテハ直接ニ之ヲ領收シ又夕管轄郡内

ニ在リテハ國庫ノ銀行事業ヲ施行ス千八百六十二年五月三十一日ノ布告第三百三十一条

八十九郡收税官ハ國庫ノ銀行事業ヲ委任セラレタル分限ヲ以テシテ

ハ供納ノ保証金、公用經費ノ補助金、邑軍隊若クハ公立建造物ノ國庫ニ
寄託スル貯蓄金、直管收稅廳及ヒ電信局ノ收入金ヲ領收ス但ク其管理
費用シ扣除シテ其殘額ヲ領收スル者トス

九十 郡收稅官ハ國州歲入出豫算書ニ掲クル經費金ノ交付券及ヒ支
傳令書ニ對シテ其金額ヲ支辨ス但ク其交付券及ヒ支傳令書ハ公費
會計官タル州收稅官ノ檢認ヲ經タル者タルヲ要ス又ク郡收稅官ハ
州收稅官ノ支出經費ノ交付券ニ對シテ其金額ヲ支辨シ及ヒ直稅領收
負ノ支辨シタル金額ニ關係スル証據書類ヲ領收ス

九十一 郡收稅官ハ寄託金庫及ヒ賣買金庫ノ出納ニ任スル主務負ト為
ス故ニ郡收稅官ノ此兩金庫ノ為メニ經理スル事業ハ猶ホ其國庫ノ為
メニ經理スル事業ト一般ニ之ヲ兩金庫ノ會計官タル州收稅官ニ報告
シ州收稅官ハ其帳簿ニ集録ス

九十二 州收稅官ハ邑若クハ公立建造物若クハ各邑人ノ請求ニ應ヒ費
用ヲ徴セシ先換經紀人ノ儉錢ハ之ヲ除クシテ不動公債証書ノ賣買ヲ
幹辦ス可キ義務ヲ有ス 千八百十九年四月十四日ノ布令 故ニ郡收稅官ハ州收稅官ノ命
令ヲ受ケル場合ニ在リテハ必ズ其賣買ヲ幹辦セサル可カラズ但ク是
レ其交通負タル分限ヲマラスルナリ

九十三 郡收稅官ハ各邑人ノ為メニ公債証書ノ併合、改書、移動、交換ノ事
ヲ助辨シ而シテ其費用ヲ徴セス

九十四 郡收稅官ハ州收稅官ノ定期ニ送致スル姓名簿ニ依據シ管轄郡
内ニ在ル不動公債証書所有主ノ領受ス可キ公債利息金ヲ各自ノ住居
ニ送達ス間性公債証書及ヒ無記名公債証書ニ關シテハ利息票ヲ徴シ
テ直接ニ其利息金ヲ交付ス

九十五 郡收稅官ハ管轄郡内ニ在ル直稅領收負ノ同一時ニ委任ヲ受ケ

テ管理スル各般ノ事務ニ関シテ其責任ヲ負擔ス 同上ノ布令
第六十一條

九十六 郡收税官ノ責任タル此ノ如シ是ヲ以テ郡收税官ハ直税領收負ノ直税ノ徴收經費ノ支辨及ヒ其支辨ノ証明ヲ監視シ又其公金ノ保管及ヒ帳簿ノ録記ヲ監視シ且其決算ヲ検査ス

九十七 直税領收負ハ其經理セル收入支出ノ要略書及ヒ邑若クハ公立建造物ノ為メニ幹辨セル收入支出ノ明細書ヲ録製シテ定期ニ郡收税官ニ送呈ス

九十八 郡收税官ハ邑及ヒ公立建造物ノ經費金額ニ超過スル資金ヲ圓庫ニ寄託セシメ而シテ各邑及ヒ各公立建造物ノ名義ヲ以テ加息臨時寄託ト為サシム

九十九 郡收税官ハ直税領收負ノ毎年送呈スル邑及ヒ公立建造物ノ收入決算書ヲ検査シ然レ後ニ之ヲ邑会及ヒ公立建造物管理委員ノ検査ニ付ヌ又夕郡收税官ハ州參事署ノ裁決書ノ謄本及ヒ參議院ノ裁判書ノ謄本ヲ領收シ而シテ其裁決書及ヒ裁判書ニ包載スル命令ノ執行ヲ監視ス

百 郡收税官ハ毎年管轄郡内ヲ巡檢ス若シ其故障有ル場合ニ當リテハ代理官ヲシテ巡檢セシム是レ直税領收負ノ施行スル事務ノ実況ヲ検査スルガ為メナリ

又夕郡收税官ハ管轄郡ノ首地ニ在ル直税領收負ニ命シテ其管守スル直税徴收原簿及ヒ其他ノ必要ナル簿書ヲ出示セシムルヲ得可シ

百一 郡收税官ハ毎月第一日ヲ以テ州收税官ノ間々ニ因リ前月内ニ於テ本郡ノ首地及ヒ各地方ニ在ル直税領收負ノ帳簿ヲ検査シタル結果ヲ記証スル審査書ヲ會計總務局ニ送呈ス

百二 若シ直税領收負ノ徴收ヲ怠タリ若クハ嚴密ノ検査ヲ加フルヲ

要スル違規ノ所為ノ發覺スル有レハ則チ郡收税官ハ一人ノ特務員ヲ
指定シテ直税領收負ノ事務所ニ差差シ以テ之ヲ監督セシムルヲ得
可シ若シ実ニ其違規ノ所為ノ以テ職務停止ノ處分ヲ加フ可キ事情有
レ者ニ係レハ直チニ其管守スル公金ヲ押收シ且其管守スル直税徵收
原簿及ヒ其管掌事務ニ關係スル諸文書ヲ押收ス此場合ニ在リテハ假
ニ其替負ヲ指令ス

郡收税官ハ直税領收負ニ對シテ各種ノ監視方法ヲ施行スルノミナラ
ズ尚且ソ地方官吏ヲ行法屬員ニ要メテ其監視ヲ助ケシムルヲ得可シ
蓋シ地方官吏ハ法律ノ之ニ對シテ會計官吏ヲ監視セシムル為メニ付
此レタル諸般ノ推理ヲ施行スルヲ任スレハナリ

百三 直税ヲ領收スルト邑及ヒ公立建造物ノ收入ヲ領收スルトニ併セ
任スル會計官吏ハ其納金ヲ通滞スル場合ニ在リテハ郡收税官ハ即時
ニ自己ノ資金ヲ以テ其缺欠額ヲ辨納セサル可カラズ此場合ニ在リテ
ハ郡收税官ハ通滞ヲ致セル會計官吏ノ本身若クハ財産若クハ保証金
ニ對シ國庫ノ推理若クハ邑及ヒ公立建造物ノ推理ヲ承受シテ以テ之
ヲ行用スルヲ得可シ上文ノ六十四項乃至六十七項ヲ參觀ス可シ

百四 郡收税官ハ管轄郡内ニ在ル邑收税負及ヒ公立建造物收金人ノ管
守スル金庫帳簿并ニ此等ノ會計職負ニ委任シタル事務ノ施行ヲ監視
スルヲ任ス故ニ毎三月ニ一回ハ必ス其各自ノ住居ニ就キテ金庫及
ヒ帳簿ヲ検査セサル可カラズ財務部ノ訓令第
千三百十一條然リトモ此監視ヲ施
行スルモ此力為メニ邑ノ出納事務ヲ直税領收負ニ委任スル場合ノ如
ク會計上官タル郡收税官ノ責任ヲ来タスヲ無キナリ

百五 財務部收税官ハ大學校其他各上等學校ノ書記兼司計負ノ管理事
務ニ關シテモ亦均ク責任ヲ帯ヒテ以テ之ヲ監視ス故ヲ以テ此會計上

官タル財務部收税官ハ毎年少クモ一回ハ大學校及テ各上等學校ノ書記兼司計員ノ會計ヲ検査シ且ツ之ヲシテ毎月管守金庫ノ收入支出ノ要略書ヲ送呈セシム

財務部ノ訓令第四百三十一條乃至第四百三十五條及テ第千四百十七條

百六 又夕財務部收税官ハ毎三月ニ一回ハ管轄局内ノ貯蓄金庫ヲ検査シ以テ審査書ヲ録製ス

千八百五十二年四月十五日ノ布告

其審査書ニハ貯蓄金庫ノ現

況ヲ記載シ且其會計ノ經理ニ関スル意見ヲ開陳ス此審査書ハ之ヲ財務卿ニ送呈シ而シテ財務卿ハ貯蓄金庫ヲ統轄スル農商務卿ニ轉致ス若シ直税領收員ノ貯蓄金庫ノ出納ニ任スル場合ニ在リテハ郡收税官ハ直税領收員ノ管理事務ニ関シ其責任ヲ負擔セサル可カラズ

上文ノ七十五項ヲ參觀ス可シ

百七 郡收税官ノ管掌スル帳簿ハ複記法ヲ用テテ録記スルヲ要シ又其帳簿ノ種類ハ第一ニ日記簿ニシテ是レ日日金庫ノ出納ヲ載スル初

録簿ト為ス第二ヲ出納原簿ト為シ第三ヲ出納副簿ト為ス日記簿ハ公金ヲ出納スル即時ニ其事業ヲ明記シ且ツ然テ必要ノ節目ヲ具録スルニ備フ又此日記簿ニ録記セラル者ハ毎日閉局以前ニ其事類ノ區別ニ從ヒテ出納原簿ノ各部門ニ移載ス又此出納原簿ノ二三部門ノ事類ニシテ更ニ細別スルヲ要スル者ハ其細目ヲ出納副簿ニ登記ス

千八百六十一年五月三十一日ノ布告第

三百三十一條

百八 郡收税官ハ州收税官ノ指揮ヲ承ケ其監視ノ權下ニ立テテ事務ヲ經理シ以テ之ニ對シテ管理事業ノ成果ヲ報告ス故ヲ以テ州收税官ハ郡收税官ノ管理事業ニ関シ其責任ヲ負擔セサル可カラズ又夕郡收税官ハ州收税官ノ送付スル支用定額通報書ニ依リ以テ其收入公金ニ係ル責任ヲ解卸ス蓋シ州收税官ハ財務行政權及ヒ會計検査院ニ對シ郡收税官ノ管理公金ノ會計ニ任スル止官タルヲ以テナリ

同上ノ布告第

三百三十三條

百九 州收稅官ノ郡收稅官ニ對スルヤ下文ニ示ス如ク各種ノ方法ヲ施用シテ以テ其作用權ト監視權トノ実行ヲ保証ス

第一 郡收稅官ハ收入公金ヲ州收稅官ノ處置ニ委セ而シテ其公金ヲ州收稅官ノ金庫ニ送納スルト雖自己直接ニ之ヲ支出シ若クハ之ヲ貯存シ若クハ事務ノ要用ニ應ジテ之ヲ供用スルトヲ問ハス然ラ州收稅官ノ訓示ニ遵依ス

第二 郡收稅官ハ毎十日ヲ期シテ日記簿ノ謄本及ヒ各種ノ收入ニ係ル各別ノ概計書ヲ州收稅官ニ送致ス

第三 郡長モ亦々毎十日ヲ期シテ郡收稅官ノ公費ニ且ツ郡長ノ檢認ヲ經タル合符領收証書ヲ州收稅官ニ送致ス

第四 州收稅官ハ郡收稅官ニ命ジ毎月二十日ヲ期シテ其出納原簿ノ貸借比較計算書ヲ送致セシム

第五 郡收稅官ハ此他其管守スル帳簿ノ検査ニ必要ナル摘録書ヲ州收稅官ニ送致ス

第六 郡收稅官ハ毎月ヲ期シテ其發付シタル合符領收証書ノ撮約ヲ錄製シ以テ之ヲ本郡ノ郡長ニ送致ス

百十 郡長ハ郡收稅官ノ送致セル合符領收証書ノ撮約書ヲ把テ郡廳ニ設備スル合符領收証書ノ登録簿ニ對照勘合シ然レ後ニ此合符領收証書ノ撮約書ヲ財務卿ニ送上ス是ニ於テ財務卿ハ檢閲ヲ加ヘ之ヲ把テ以テ郡收稅官ノ州收稅官ノ間介ニ因テ送上セル合符領收証書ノ金額ニ對照勘合ス

百十一 郡收稅官ノ貨幣其他各種ノ信券ヲ其金庫ニ收入スルヤ直キニ合符領收証書ヲ納金者ニ發付スルハ既ニ上文五十二項ニ説述シタル所ノ如シ然レ氏公債証書ノ賣買併合改書移動變換等上文ノ九十二項

同上ノ布告第
十百六十三條

及七九十三項ヲ參觀ス可シニ因テ金額ヲ收入スル場合ニ在リテハ復
夕此法式ヲ踐ムヲ要セズ但夕此等ノ料理ニ関シ國庫ニ對シテ控告
スル有ル場合ノ如キハ此限ニ在ラズ同上ノ布告第
千三百七十三條

百十二 郡收稅官ノ州收稅官ノ金庫ニ公金ヲ送納スルヤ州收稅官ハ合
符領收證書ヲ發付セズ故ニ其送納ハ若シ貨幣若クハ銀行紙幣ニ係ル
ハ郵送書留ノ調査書ニ據リ及テ其他各般ノ法式ヲ踐ミテ以テ之ヲ証
明ス若シ夫レ送納公金ノ總計ニ関シテハ州收稅官トノ不断取引ノ貸
借簿記ニ據リテ以テ之ヲ証明ス同上ノ布告第千
三百七十三條

第三節 州收稅官ノ職務

百十三 州收稅官ハ本州ノ首地ニ在リテハ郡收稅官ノ職掌ヲ執行シ又
凡ソ國費及テ州費ノ支出ニ関シテハ國庫支辦官ノ職掌ヲ執行ス

百十四 州收稅官ハ財務部收稅官タル分限ヲ以テシテハ管轄州内ノ直

稅及テ直稅ニ准視スル課稅并ニ罰金其他裁判ニ由來スル科金ノ徵收
ヲ指揮シ且其金額ヲ括集シ併セテ雜收入ノ名義ヲ以テ歲入豫算中ニ
掲クル諸種ノ收入金ヲ直接ニ領收シ又夕管轄州内ニ在リテハ凡ソ國
庫ノ銀行事業ヲ管理ス同上ノ布告第
千三百三十條

百十五 州收稅官ハ國有森林ノ斫伐邑有森林及テ公立建造物ノ屬有森
林ノ臨時斫伐ニ得ル價直ノ收入ニ関シ其責任ヲ負擔ス故ヲ以テ其斫
伐射票ニ臨場ス此射票ノ施行ニ任スル職官ハ即チ中票者ノ價直完納
ノ資産ヲ有スルヤ否ヤヲ判定スル裁判官タリト雖氏中票ノ價直ハ通
常四回即チ毎三月ニ之ヲ納致スル者ニ係リ而シテ州收稅官ハ其收入
ニ関シ責任ヲ有スルヨリテ獨リ中票者ノ証人及テ其証人ノ保人ヲ
領認スル権理ヲ有ス凡ソ森林斫伐ノ價直ヲ徵收スルニ要スル追理ハ
中票調査書ノ効力ニ依據シ中票者其夥伴者及テ保証人ニ對シテ之ヲ